

令和 7 年度

(2 0 2 5)

新発田市の教育



新発田市教育委員会



表紙 / 御免町幼稚園（「読書活動」）

昭和42年から教育目標に「みんなと仲良く遊び、自分の力を伸ばしていく子ども」を掲げ、子どもたちが主体的に取り組む教育活動の中心に読書活動を位置づけています。図書文庫や親子文庫を活用し、子どもの発達や興味関心に応じた絵本の提供と職員が演じる物語を見ることなどを通して、豊かな表現や想像する楽しさを味わえるようにしています。

子どもたちは、関心をもった絵本からごっこ遊びを発展させたり、自分たちでお話を作ったりして楽しんでいます。自分たちで作ったお話を園行事で発表することで、子どもたちの一体感や達成感につながっています。

この活動が認められ、令和7年度子どもの読書活動優秀実践園として文部科学大臣表彰を受賞しました。

目	次	《資 料》
教育大綱・・・・・・・・・・・・・・・・	1	
教育委員会・・・・・・・・・・・・・	3	1 歴代教育委員等一覧・・・・・・・・ 60
教育委員会の組織・・・・・・・・・・	4	2 各種委員・・・・・・・・・・・・・・ 62
令和7年度一般会計予算(当初)・・・・・	5	3 学校教育関係団体一覧・・・・・・・・ 68
一般会計予算と教育費の推移(当初)・・・・・	5	4 市立教育施設一覧・・・・・・・・・・ 69
教育関係予算・・・・・・・・・・・・・	6	5 幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
教育費(10款)以外の教育関係予算・・・・・	7	6 小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
教育総務・・・・・・・・・・・・・	8	7 中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
学校教育・・・・・・・・・・・・・	10	8 市立学校の統廃合、新設、分離の状況・・ 95
学校教育の指針・・・・・・・・・・・・・	12	9 市立教育施設の状況・・・・・・・・・・ 97
学力向上・・・・・・・・・・・・・	19	10 年度別義務教育施設等の整備状況・・ 98
豊かな心の育成・・・・・・・・・・・・・	20	11 学校給食の状況・・・・・・・・・・・・・ 99
体力の向上・・・・・・・・・・・・・	21	12 園児・児童・生徒・学級数等一覧・・ 101
人権教育、同和教育・・・・・・・・・・・・・	22	13 教員・児童・生徒数の推移・・・・・・・・ 104
特別支援教育・・・・・・・・・・・・・	23	14 特別支援学級設置状況の推移・・・・・・・・ 104
研究委託校等・・・・・・・・・・・・・	24	15 いじめ・不登校の推移・・・・・・・・ 105
学校保健・・・・・・・・・・・・・	25	16 社会教育関係施設一覧・・・・・・・・ 106
しばたの心継承プロジェクト・・・・・・・・	26	17 指定文化財一覧・・・・・・・・・・・・・ 107
文化行政・・・・・・・・・・・・・	29	18 国登録文化財一覧・・・・・・・・・・・・・ 109
埋蔵文化財・・・・・・・・・・・・・	30	19 社会教育施設利用状況・・・・・・・・ 110
文化芸術振興室・・・・・・・・・・・・・	31	20 文化財公開状況・・・・・・・・・・・・・ 110
図書館・・・・・・・・・・・・・	35	21 図書館運営実績・・・・・・・・・・・・・ 111
中央図書館・・・・・・・・・・・・・	36	22 歴史図書館運営実績・・・・・・・・・・・・・ 114
歴史図書館・・・・・・・・・・・・・	38	23 公民館施設等利用状況・・・・・・・・ 116
生涯学習課・・・・・・・・・・・・・	40	24 地区公民館受託管理施設利用状況・・ 117
新発田地区公民館・・・・・・・・・・・・・	43	25 市民文化会館事業実績・・・・・・・・ 119
豊浦地区公民館・・・・・・・・・・・・・	47	26 青少年健全育成センター等施設一覧・・ 120
紫雲寺地区公民館・・・・・・・・・・・・・	50	27 青少年健全育成センター等利用状況・・ 121
加治川地区公民館・・・・・・・・・・・・・	54	28 補導活動の状況・・・・・・・・・・・・・ 121
生涯学習センター・・・・・・・・・・・・・	57	
青少年健全育成センター・児童センター・・	58	

新 発 田 市 教 育 大 綱

令和 6 年 3 月
新 発 田 市

I 教育大綱について

1 趣旨

平成 27 年 4 月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、地方公共団体は、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めることとなりました。

教育大綱は、新発田市のまちづくりの基本方針を定める「新発田市まちづくり総合計画（以下、「まちづくり総合計画」という。）」を基本とし、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 3 の規定に基づき定めるものです。

2 期間

教育大綱の期間は、令和 6 年度から令和 13 年度までの 8 年間とします。なお、今後の社会情勢等の変化やまちづくり総合計画の改定などに合わせ、必要に応じ見直すこととします。

3 教育大綱の考え方

新発田市は、まちづくり総合計画において、「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」という将来都市像の実現に向け、5 つの基本目標を掲げ、その中で「教育・文化」の基本目標については、「学校教育」「学校環境」「生涯学習」「青少年育成」「文化芸術・文化財」の 5 つを主要な施策として位置づけ、教育に関する施策を展開します。

教育大綱は、上位計画であるまちづくり総合計画の教育に関する基本目標及び施策の内容を踏まえ、「基本目標」及び「基本方針」で構成します。

II 新発田市がめざす教育について

1 基本目標

- ◎ 学校教育と社会教育の両面から、新発田の歴史や文化を理解し、自然に親しみ、地域への愛着や誇りをもった子どもを育成します。
- ◎ 子どもが安心して学び育つ環境のもと、学ぶ意欲と確かな学力を育て、人権教育、同和教育及び食育を推進し、命を大切に作る心を育成します。また、家庭や地域、学校間の連携により、社会に開かれ、地域とともに歩む学校づくりを進めます。
- ◎ 子どもたちの学ぶ意欲を高める学習環境整備を図るとともに、ICT を積極的に活用した教育を推進し、社会のデジタル化に対応できる資質・能力を養います。
- ◎ 家庭教育の充実と青少年の健全育成に努め、豊かな社会性や主体的な行動力をもった子どもを育成します。
- ◎ 生涯にわたる市民の学びの意欲に応えるとともに、歴史資料や文化財等の適切な保存・活用や芸術に触れる機会の充実に努め、文化芸術の振興を図ります。

2 基本方針

(1) 学校教育

- 人に対して敬意を払い、人を第一に思い、人を大事にする「しばたの心」をもった子どもを育成する教育を推進します。
- 課題をよりよく解決しようと主体的に学ぶ態度と、知識及び技能の確実な習得及び思考力、判断力、表現力の育成に取り組み、学力の向上を図ります。
- いじめや差別をしない、許さない、自他の命を大切にする心やよりよく生きるための主体的な判断力、態度を育成します。
- 健康や安全、自然災害等に対する正しい知識や技能を基に、健康の保持増進や命を守るための実践的な態度を育成します。

(2) 学校環境

- 子どもたちが快適に学ぶことができるよう、教育環境の充実や学校施設等の改修や整備を進めます。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、I C Tを活用し、子どもたちの学ぶ意欲を高める学習環境整備を進めます。
- 学校、家庭、地域、行政が協働し、子どもたちにとって安全・安心な学校環境の整備を推進します。

(3) 生涯学習

- 市民の生涯学習活動を充実させるため、多様化するニーズに応えた事業展開を推進します。
- 学習活動を幅広く支援し、市民の生涯各期における生きがいに寄与します。
- 中学生、高校生、青年層を中心とした社会教育施設の利用の拡大を目指します。

(4) 青少年育成

- 「豊かな心と広い視野をもち、自主性・社会性・創造性に富んだ子ども」の育成を目指した施策を推進します。
- 学校や家庭、地域社会が一体となった育成活動を行うとともに、社会参加活動や体験活動により、青少年の「生きる力」の育成に努めます。

(5) 文化芸術・文化財

- 市内の文化財等の適正な保存と活用を図ります。
- 歴史や文化の魅力を発信し、郷土への理解と関心を深めてもらうとともに、歴史文化、文化芸術を身近に感じられるまちを目指します。
- 市民の文化芸術活動の発表の場と文化芸術に触れる機会の充実に努めます。

教育委員会



工藤教育長



石坂教育長職務代理者



笠原委員



村川委員

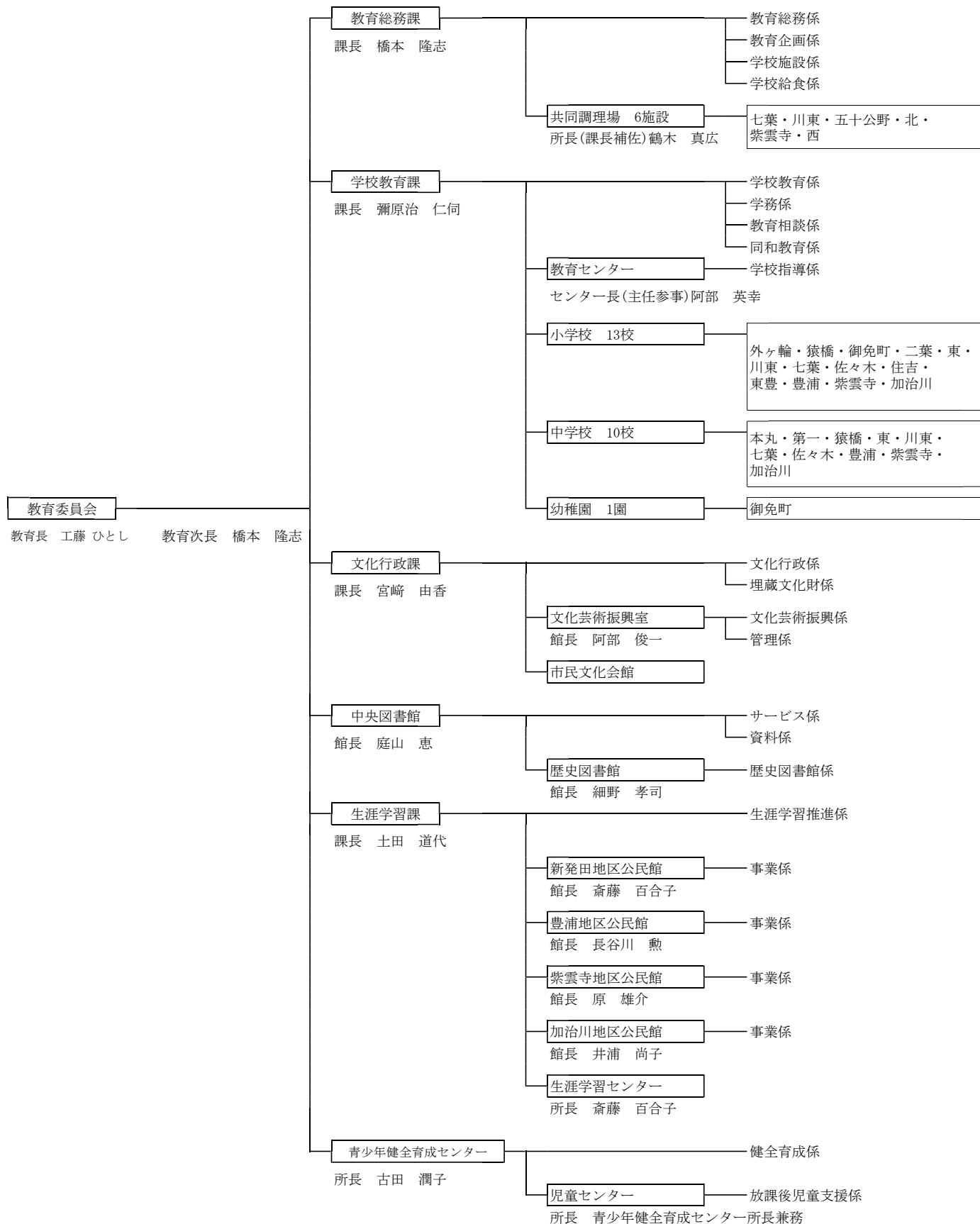


山崎委員

1 教育委員会

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	くどう 工藤ひとし	令和6年4月1日～令和9年3月31日
教育長職務代理者	いしざか 石坂ひとし 均	令和6年4月1日～令和10年3月31日
委 員	かさほら 笠原きょうこ 恭子	令和5年4月1日～令和9年3月31日
委 員	むらかわ 村川たかこ 孝子	令和7年4月1日～令和11年3月31日
委 員	やまざき 山崎ゆき 由紀	令和4年4月1日～令和8年3月31日

教育委員会の組織（令和7年4月1日現在）



教育予算

1 令和7年度一般会計予算（当初）

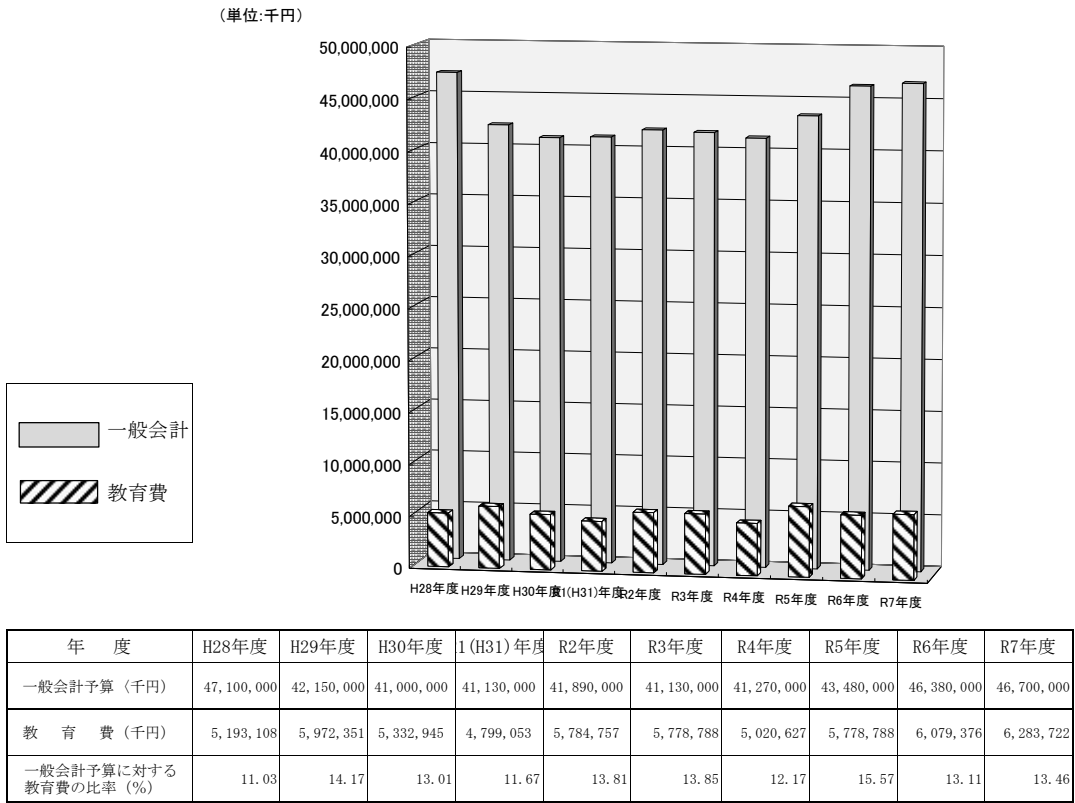
（歳入）

款	予算額（千円）	構成比
1 市 税	12,299,172	26.34%
2 地方譲与税	417,300	0.89%
3 利子割交付金	3,200	0.01%
4 配当割交付金	61,500	0.13%
5 株式等譲渡所得割交付金	51,000	0.11%
6 法人事業税交付金	208,900	0.45%
7 地方消費税交付金	2,425,400	5.19%
8 ゴルフ場利用税交付金	66,000	0.14%
9 環境性能割交付税	42,900	0.09%
10 国有提供施設等所在市町村助成交付金	6,500	0.01%
11 地方特例交付金	101,400	0.22%
12 地方交付税	12,750,000	27.30%
13 交通安全対策特別交付金	9,479	0.02%
14 電源立地促進対策交付金	6,253	0.01%
15 石油貯蔵施設立地対策交付金	7,174	0.02%
16 分担金及び負担金	68,780	0.15%
17 使用料及び手数料	680,991	1.46%
18 国庫支出金	6,900,702	14.78%
19 県支出金	3,741,912	8.01%
20 財産収入	52,782	0.11%
21 寄 附 金	1,102,000	2.36%
22 繰 入 金	1,014,786	2.17%
23 繰 越 金	300,000	0.64%
24 諸 収 入	1,226,165	2.63%
25 市 債	3,155,704	6.76%
合 計	46,700,000	100.00%

（歳出）

款	予算額（千円）	構成比
1 議会費	269,142	0.58%
2 総務費	5,360,769	11.48%
3 民生費	15,974,770	34.21%
4 衛生費	3,062,222	6.56%
5 労働費	41,760	0.09%
6 農林水産業費	1,910,726	4.09%
7 商工費	1,087,984	2.33%
8 土木費	6,351,604	13.60%
9 消防費	1,715,857	3.67%
10 教育費	6,283,722	13.46%
11 公債費	4,591,444	9.83%
12 予備費	50,000	0.11%
合 計	46,700,000	100.00%

2 一般会計予算と教育費の推移（当初）



3 教育関係予算

(単位：千円)

款・項・目	年 度 比 較		
	令和7年度 当初予算額	令和6年度 当初予算額	前年度比率 (%)
10 教育費	6,283,722	6,079,376	103.4%
1 教育総務費	405,757	388,628	104.4%
1 教育委員会費	3,622	3,608	100.4%
2 事務局費	379,868	362,933	104.7%
3 人材育成費	2,084	2,084	100.0%
4 教育振興基金費	20,183	20,003	100.9%
2 小学校費	952,601	924,268	103.1%
1 学校管理費	542,535	570,818	95.0%
2 教育振興費	346,370	322,844	107.3%
3 学校建設費	63,696	30,606	208.1%
3 中学校費	505,070	507,624	99.5%
1 学校管理費	279,595	272,626	102.6%
2 教育振興費	206,929	182,162	113.6%
3 学校建設費	18,546	52,836	35.1%
4 幼稚園費	2,548,034	2,497,767	102.0%
1 幼稚園管理費	36,361	45,548	79.8%
2 こども園費	2,511,673	2,452,219	102.4%
5 社会教育費	1,003,432	830,307	120.9%
1 社会教育総務費	365,236	246,431	148.2%
2 公民館及び市民文化会館費	345,074	308,383	111.9%
3 生涯学習費	63,333	45,134	140.3%
4 図書館費	229,789	230,359	99.8%
6 保健体育費	316,756	383,057	82.7%
1 保健体育総務費	91,483	89,522	102.2%
2 体育施設費	225,273	293,535	76.7%
7 学校給食費	552,072	547,725	100.8%
1 学校給食管理費	534,204	533,929	100.1%
2 学校給食調理場建設費	17,868	13,796	129.5%

4 教育費（10款）以外の教育関係予算

（単位：千円）

款・項・目	年 度 比 較			
	令和7年度 当初予算額	左のうち、教育 関係予算額	昨年度の教育 関係予算額	前年度比率 (%)
3 民生費	15,974,770	320,706	346,654	92.5%
1 社会福祉費				
6 地方改善整備費	13,427	796	2,064	38.6%
2 児童福祉費				
1 児童福祉総務費	62,244	453	513	88.3%
6 青少年健全育成費	326,873	285,604	310,209	92.1%
7 子育て支援事業費	260,195	33,853	33,868	100.0%
7 商工費	1,087,984	10,541	10,061	104.8%
1 商工費				
3 観光費	451,260	10,541	10,061	104.8%
8 土木費	6,351,604	5,789	6,458	89.6%
2 道路橋りょう費				
3 除雪費	669,429	588	566	103.9%
4 都市計画費				
5 真木山中央公園費	5,201	5,201	5,892	88.3%
9 消防費	1,715,857	253	382	66.2%
1 消防費				
4 防災費	39,430	253	382	66.2%

教 育 総 務

1 基本方針

人口減少と少子化が進行し、急速にデジタル化が進む社会状況にあって、学校を取り巻く環境も大きく変貌しつつある。

こうした中、当市においては、学校統合により小学校の学校規模の適正化を図り、教室へのエアコン設置、洋式トイレへの改修、GIGAスクール構想の実現に向けたICT機器の導入など、時代に即した学校施設の整備を進めてきた。

今後も、子どもたちが快適に学ぶことができるよう、学校施設等の改修等を進め、ICTを活用した学習環境の整備を推進する。また、安全安心な学校給食の提供と通学路の点検等により、安心して通学できる環境を整備し、**子どもが安心して学ぶことができる学校の環境整備**を進めていく。

2 重点事業

(1)安心・快適な学校施設等の整備

学校施設等長寿命化計画に基づき、校舎、体育館、グラウンド、共同調理場の整備を計画的に進め施設の長寿命化を図るとともに、老朽化した共同調理場については再編整備を進める。長寿命化改良工事に併せ、バリアフリー化、防犯対策、ゼロカーボン等にも取り組む。

また、新発田市交通安全対策プログラムに基づき、継続して通学路の安全点検を地域、学校、関係機関と合同で実施し安全対策を進める。

(2)学校ICT（情報通信技術）を活用した環境整備

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、ICTを活用し、子どもたちの学ぶ意欲を高める学習環境整備を進める。

学校現場のニーズやDX（デジタル変革）の進展に応じて、計画的に設備・備品等の整備を進め、GIGAスクール運営支援センター機能を充実し、小中学校ICT教育レベルの向上と指導力の均衡を図る。

3 主な事業

(1)小中学校遠距離通学支援事業

遠距離通学、学校統合などの状況に応じて、基準を定め、定期券支給やスクールバスによる通学支援を着実に行う。

また、さらなる支援を求める要望もあり、地域の実情に合った支援となるよう検証を進める。

(2)学校給食地産地消導入事業

学校給食に地場産のコシヒカリ及び野菜を積極的に使用し、新鮮で安全・安心な学校給食を提供することにより、子どもたち及び保護者の食生活や地域の郷土料理・食

文化に対する意識、関心を高め、食育の推進を図る。

(3)第3子以降学校給食費支援事業

多子世帯の経済的負担軽減を図り、子育てしやすい環境の実現による出生率の増加を目的とし、「全世代が新発田の未来を拓く子どもたちの健やかな成長の一翼を担うことで、これからの新発田市の安定した発展のために参画する」という理念に基づき、「少子化対策」の一環として、小中学校及び高等学校等（18歳以下）に在学する児童生徒を3人以上養育している保護者に対して学校給食費の支援をしている。

学 校 教 育

1 基本方針

社会の変化は加速度を増し、複雑で予想困難となっており、そうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子どもたちの生き方に影響するものとなっている。子どもたちには、これからの社会がどんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動する力が求められているのである。

新発田市は、令和6年度を初年度とし令和13年度を最終年度とする「新発田市まちづくり総合計画」で、将来都市像として「住みよいまち日本一 健康田園都市・しばた」を掲げている。それを実現する四つの視点の一つが「教育の充実」である。

新発田には「道学共創」を理念とし、風土、歴史、自然や文化の中で連綿と育まれてきた「しばたの心」が存在する。「しばたの心」とは人である。人に敬意を払い、人を大事にする心、言わば、「ひとを第一に考え、大事にする心」である。

そこで、「道学共創」を理念とした特色ある新発田の教育を中核に、子どもたちに「生きる力」を育み、新発田への愛着や誇りを醸成し、持続可能なまちづくりの根本とする。

以上のことから、市教育委員会では「**ひとが第一、ひとが大事 新発田の教育**」を基本理念とし、「**新発田への愛着と誇りをもち、夢や希望に向かって、学び続ける子ども**」を目指し、「新発田市学校教育の指針」を策定する。

2 重点施策

(1) 全校体制で育む確かな学力

学級経営の充実・学ぶ意欲の向上・主体的・対話的で深い学びの実現

① 「知」の分野

学級経営の充実や学ぶ意欲の向上、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを通して、子どもたちの資質・能力の向上及び個に応じた学びの充実を図るために、教育センター指導主事が、授業参観と指導を行う。また、ICT機器の活用を促進するほか、全国学力学習状況調査、標準学力検査NRTの結果を分析・活用するとともに、標準学力検査NRTと認知能力検査NINOとの相関から効果的な指導方法を探る。

② 「徳」の分野

多面的・多角的に考え、議論する道徳科を要とした道徳教育の充実を図り、家庭、地域と連携した教育活動を展開する。

③ 「体」の分野

生活環境の大きな変化や想定を超える自然災害の発生などに対応し、自らの健康を保持増進し、「命を守る行動」をとれるようにするために防災教育に取り組む。また、運動の楽しさを味わわせ、健康や安全に対する関心を高める体育の授業や環境の整備に取り組む。さらに、家庭、地域と連携した生活習慣改善の取組を推進する。

(2) 特色ある新発田の教育を中核にした、社会に開かれた教育課程の編成・実施・評価・改善

① ふるさとへの愛着と誇りを育む「しばたの心継承プロジェクト」

新発田の歴史、文化、自然、産業、福祉等に関する体験的な学習を通して、探究的な学習過程を編成する。

② 人権感覚を高める「人権教育、同和教育」

人権教育の中核として同和教育の視点から課題解決を図るために、全ての小・中学校で「かかわる同和教育」を実践する。また、偏見や差別を許さない人権感覚を育てる同和教育の授業の充実のため、研究委託校を指定してその成果を各校の指導力向上に役立てる。

③ 生きる力を育む「食とみどりの新発田っ子プラン」

「育てる・作る・食べる・返す」という「食のサイクル」を学び、「生きる力」や豊かな情操を培い、健康で心豊かな人材を育成する。

(3) 組織による実践－いじめ、問題行動への適切な対応、不登校解消－

職員間の情報共有と全校体制による即時対応と継続的な指導を確実に行う。さらに、いじめ防止対策事業として、子どもへの暴力防止を核とした人権教育「CAPプログラム」を市内の全ての小学4、5年生、全ての中学1年生に「子どもワークショップ」として実施する。また、子どもを支える大人の育成をねらった「大人ワークショップ」として、全小・中学校の教職員に「教職員ワークショップ」、各校の保護者、地域の方に「保護者ワークショップ」を実施する。

(4) チームで取り組む特別支援教育

特別な教育課程の編成と支援が必要な児童生徒の増加、個々の教育的ニーズの多様化に対応するため、市教育センター指導主事が、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」に基づき、全ての小・中学校の特別支援学級を訪問し、一人一人の子どもの自己実現に向けた計画的な指導と支援の充実を図る。

(5) 温かい心を育てる幼児教育

友だちとのかかわりを軸とした教育活動の推進による、身の回りのことに意欲的に取り組む子どもを育成するため、学びと生活の連続性のある教育課程を編成する。

【目指す子どもの姿】 新発田への愛着と誇りをもち、夢や希望に向かって、学び続ける子ども

全校体制で育む確かな学力 学級経営の充実 学ぶ意欲の向上 主体的・対話的で深い学びの実現

	学びに向かう力、人間性等の涵養	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	組織による実践	チームで取り組む特別支援教育
知	課題をよりよく解決しようと主体的に学ぶ態度の育成	言語活動（聞く・話す・読む・書く等）やICT活用の充実を図り、情報を精査して考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりする力の育成		合意に基づいた実践サイクルの実施	- 個別的教育支援計画・個別の指導計画による計画的な指導・支援の充実 - インクルーシブ教育システムの構築に向けた校内支援体制の充実
徳	いじめをしない、許さない、自他の命を大切にしようとする心の育成	自己を見つめ、多面的・多角的に考え、議論する道徳科を要とした、自他共により善く生きるための主体的な判断力の育成		いじめ、不登校、問題行動等について、職員間の情報共有と全校体制による即時対応、それぞれの背景や子どもの心情に目を向けた対応と関係機関との連携による継続的な支援	温かい心を育てる幼児教育
体	運動に親しむとともに、健康で安全に過ごすために進んで取り組もうとする態度の育成	運動や健康に対する正しい知識や技能を基にした体力や健康の保持増進、及び防災教育の取組を基にした自然災害から命を守る実践的な力の育成		幼・保・こども園から中学校までの円滑な連携	- 学びと生活の連続性を図る教育課程の編成 - 友達とのかかわりを軸とした教育活動の推進

道学共創 を理念とした特色ある新発田の教育



新発田城

ふるさとへの愛着と誇りを育む「しばたの心継承プロジェクト」

- 新発田のよさやそこに携わる人の思いを大切に、ふるさと「しばた」にかかわろうとする心や態度の育成
- 新発田の歴史、文化、自然、産業、福祉等に関する体験的な学びの工夫
- 文化行政課・青少年健全育成センター・中央図書館・歴史図書館・各地区公民館・「あかたにの家」等、市の社会教育機関との連携



二王子岳

人権感覚を高める「人権教育、同和教育」

- 同和教育の視点に立つ教育の推進（「かかわる同和教育」の実践）
- 人の心の痛みが分かり、自他の大切さを認め合う態度や行動力を育成する授業づくりの推進
- 人権尊重の視点に立った学級経営や学校づくり

生きる力を育む「食とみどりの新発田っ子プラン」

- 体験的な教育活動を取り入れた食育の推進
- 地場産物を取り入れ、食への感謝やふるさとを愛する心を育む学校給食の実施
- 「豊かな大地を基盤とした食のサイクル」を通じた環境教育の推進

特色ある新発田の教育を中核にした、社会に開かれた教育課程の編成・実施・評価・改善

3 学校教育の指針

(1) 全体図 前頁に掲載

(2) 指針の構成

国・県の学校教育の方針を受け「新発田市まちづくり総合計画」に示された「教育の充実」を踏まえ、「新発田市学校教育の指針」を策定した。教職員は、教育実践の工夫改善に努め、「新発田市学校教育の指針」の具現化を図る。

① 市民の願い「道学共創」※¹

「道学共創」は、新発田藩の学問所の講堂である「道学堂」に由来する「道学」※²と新発田市のまちづくりの理念である「共創」※³を結び付けた新発田市の造語である。その意味するところは、人としての学びを深め、互いに尊重し、協働して未来を創造することである。

② 「ひとが第一、ひとが大事 新発田の教育」を具現化するために

目指す子どもの姿を「新発田への愛着と誇りをもち、夢や希望に向かって、学び続ける子ども」とし、実現に向けて、学校、家庭、地域が連携してその実現に取り組む。

それには、特色ある新発田の教育を中核にした、社会に開かれた教育課程の編成・実施・評価・改善が必要となる。

各校、園が子どもや地域の実態を基に、育成を目指す資質・能力を家庭・地域と共有して、教科横断的な視点から教育課程を編成し、家庭、地域との連携と協働で実施する。さらに、評価、改善、カリキュラム・マネジメントの実施により、教育活動の質の向上を図り、目指す子どもの姿を具現化する。

<主な取組>

- (ア) 学校関係者評価委員会の組織と実施
- (イ) 「新発田の学校教育」発行事業
- (ウ) 教育広報誌への記事掲載
- (エ) 地域学校協働本部事業（2 中学校区で実施）
- (オ) 学校運営協議会
- (カ) 教育相談事業

※¹ 新発田城三階櫓・辰巳櫓が復元された際、櫓の鯨 5 基、鬼瓦 5 枚に10の願文がそれぞれ刻まれた。その中の一つが「道学共創」。

※² 「道学」とは、人としての正しい生き方を学ぶということ。

※³ 「共創」とは、一人一人異なる存在の人間が、協働的に活動していくところに価値を見いだすことが根本であるということ。

(3) 新発田市学校教育の重点内容と主な取組

重点内容は、「知・徳・体 ～育成を目指す資質・能力～」 「道学共創を理念とした特色ある新発田の教育」「チームで取り組む特別支援教育」「組織による実践」「温かい心を育てる幼児教育」で構成する。各学校や園においては、これらの趣旨を具体的に受け止めるとともに、教育活動、運営活動の精選、重点化を図り、当市及び自校の教育課題解決に努める。

1) 育成を目指す資質・能力

目指す子どもの姿の実現に向け、「知」「徳」「体」の面から育成を目指す資質・能力を明示した。資質・能力を子どもに身に付けさせる上で、「知」「徳」「体」の教育活動の全てで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりが不可欠である。学級経営の充実、学ぶ意欲の向上を大切にしながら、各校で進められてきた授業改善の成果を基盤に更なる授業改善を進める。

① 育成を目指す「知」の資質・能力

○ 学びに向かう力、人間性等

課題をよりよく解決しようと主体的に学ぶ態度の育成

○ 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等

言語活動（聞く・話す・読む・書く等）やICT活用の充実を図り、情報を精査して考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりする力の育成

「知」の領域では、問題解決に必要な活用できる知識を獲得させ、根拠や理由を明確にして考えを伝え合いながら、思考し、判断する力を育む。その中で、学習に取り組む粘り強さや自己調整力を育成する。

<主な取組>

(ア) 小学校学力向上推進事業（各種研修）

(イ) 中学校学力向上推進事業（各種研修）

(ウ) 小中学校・幼稚園教諭指導推進事業（指導主事9名）

(エ) NRT（小学校2年生～中学校3年生）の実施、分析研究

(オ) 小・中学校補助教員派遣事業

(カ) 小・中学校教育研究事業

(キ) 小・中学校校長教頭研究協議会支援事業

(ク) 三市北蒲原郡地区理科教育センター運営事業

② 育成を目指す「徳」の資質・能力

○ 学びに向かう力、人間性等

いじめをしない、許さない、自他の命を大切にしようとする心の育成

○ 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等

自己を見つめ、多面的・多角的に考え、議論する道徳科を要とした、自他共によりよく生きるための主体的な判断力の育成

「徳」の領域では、道徳科を要として、多面的・多角的に考え、互いの考えを理解し合いながらよりよく生きるための主体的な判断力、いじめをしない・許さない心、自他の命を大切にしようとする心を育成する。そのために、道徳科の授業改善を進めるとともに、道徳科との関連を図りながら、学級活動や異学年交流、地域交流等の教育活動を展開し、相手に対する思いやりや感動する心、自己有用感を育てる。また、SNSやインターネット等によるいじめ、非行の加害者や被害者にならないための情報モラル等の指導を行う。

<主な取組>

(ア) いじめ防止対策事業（CAPプログラムを市内全小学校4, 5年生、中学校1年生、保護者、教職員を対象に実施）

(イ) 「生きる」シリーズの積極的活用

- (ウ) スクール・ソーシャル・ワーカー (SSWr 2 名) の派遣事業
- (エ) スクールカウンセラー学校派遣事業 (全小・中学校)・・・県事業
- (オ) 教育支援センター車野校運営事業 (指導員 4 名)
- (カ) サポートネットワーク事業 (相談員 3 名、指導員 6 名)
- (キ) 新発田地区小中学校警察等連絡協議会参画事業
- (ク) 電話による「悩み相談」事業、「子ども教育相談」事業
- (ケ) 地域での健全育成活動「中学校区単位青少年健全育成協議会」
- (コ) 「子どもにかかわる緊急連絡網」(協力関係団体あり)

③ 育成を目指す「体」の資質・能力

○ 学びに向かう力、人間性等

運動に親しむとともに、健康で安全に過ごすために進んで取り組もうとする態度の育成

○ 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等

運動や健康に対する正しい知識と技能を基にした体力や健康の保持増進、防災教育の取組を基にした自然災害から命を守る実践的な力の育成

「体」の領域では、運動や健康、安全、自然災害等に関する正しい知識や技能を身に付け、体力や健康の保持増進や自然災害等から命を守る実践力を育成し、健康で安全に過ごそうとする態度を養う。そのために、体育科の授業改善や家庭と連携した健康・体力の実態把握に基づいた生活習慣の改善やメディア接触コントロールなどの健康の保持増進の指導に取り組む。また、災害に備えて新潟県防災教育プログラムに取り組むとともに、学校や地域の実態に応じて「あかたにの家」での体験的な活動や地域や保護者と連携した防災訓練等に取り組む。

<主な取組>

- (ア) 市立小・中学校児童生徒の体力実態調査
- (イ) 小・中学校体育連盟支援事業
- (ウ) 市歯科保健推進校 (全小学校) * 年 2 回歯科健診実施ほか
- (エ) 全国学力学習状況調査等の結果の活用
- (オ) 「体力向上 1 学校 1 取組」の実践
- (カ) 防災教育推進事業

2) 組織による実践

① 合意に基づいた実践サイクルの実施

「知・徳・体 ～育成を目指す資質・能力～」の達成に向け、教職員の合意を得ながら実践を進める。そのためには、各種調査結果や見取り等の分析、結果に基づいた目標の設定と具体的な計画の立案、全校体制での実践とその徹底、という実践サイクルを回すことが重要である。その際、全教職員が実践サイクルのそれぞれの過程にかかわったり、教職員間で情報交換を行ったりして、教職員の意思統一ができるように常に合意形成を図ることで実践の効率と実効性を高める。

② いじめ、不登校、問題行動等について、教職員間の情報共有と全校体制による即時対応、それぞれの背景や子どもの心情に目を向けた対応と関連機関との連携による継続的な支援

いじめ、不登校、問題行動等への対応のポイントは、教職員が一人で問題を抱え込ん

でしまわないように、校内いじめ対策委員会等の校内委員会の組織を整え機能させることが重要である。これを核にして、「いじめ防止基本方針」等の内容について子ども、保護者、地域にもその内容や相談の窓口等を周知し、早期発見と即時対応につなげる。問題の解決にあたっては、教職員間の情報共有を図るとともに、保護者との連携に加えて、校長の適切な判断により、市教育委員会や専門機関とも連携し解決を図る。また、問題等が解消したと早々には判断せず指導の経過を複数名で検証しながら継続的な指導を行う。学校評価の機会を活用し、これらの対応が組織的に行われているか、実効性を伴って確実に行われているか等、評価し改善していく。

<新発田市教育支援センター車野校>

新発田市では、学校以外で安心して過ごせる居場所の一つとして、旧車野小学校の施設に「新発田市教育支援センター車野校」を開設し、不登校解消に向けた取組を推進している。同校は、自然豊かな環境に立地しており、地域の方との農業体験や新発田市文化団体連合会の協力による茶道や創作活動等の学習以外の様々な活動を行っている。

③ 幼・保・こども園から中学校までの円滑な連携

幼・保・こども園と小学校、小学校と中学校の連携に努め、長期間を見据えて児童生徒の学びや発達に則した教育の充実を図る。

<主な取組>

- (ア) 特別支援教育推進事業
- (イ) 小・中学校教育運営事業（介助員派遣）
- (ウ) スクールサポート事業（学校支援ボランティア、日本語指導員等）
- (エ) 三市北蒲原郡特別支援教育推進地区協議会運営事業
- (オ) 教育支援委員会運営事業

3) チームで取り組む特別支援教育

① 個別の教育支援計画・個別の指導計画による計画的な指導・支援の充実

子ども一人一人の自己実現に向け、教育的ニーズの確実な把握に基づいた「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」による計画的な指導と支援の充実を図る。

② インクルーシブ教育システムの構築に向けた校内支援体制の充実

インクルーシブ教育システムの構築に向け、校内委員会を核とした全教職員による校内支援体制の充実と、合理的な配慮、支援ネットワークの活用を図る。互いを正しく理解し、共に助け合うための「交流及び共同学習」を推進する。

4) 温かい心を育てる幼児教育

9年間の義務教育の基礎を培う場が幼稚園、保育園、こども園の生活である。したがって、幼稚園、保育園、こども園と小学校との円滑な接続は、義務教育のスタートにあたり、重要な課題である。昨年度作成した、新発田市架け橋カリキュラムをもとに、各園、各校での架け橋カリキュラムを作成するとともに、幼・保・こ・小相互に幼児・児童の情報を基に意見交換・協議する場や交流の場を設定する。

① 学びと生活の連続性を図る教育課程の編成

小学校以降の生活や学習の基盤となることを考慮し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた園教育・園生活の幼児の学び（活動、体験など）を教育計画に位置づけて改善を進めるとともに、架け橋カリキュラムを作成し、学びと生活の連続性のある取組の充実を図る。実践に際しては、園児の生活経験や発達の過程を踏まえ具体的なねらいと内容を定めて園教育、園生活を計画・指導する。指導法や問題点を整理しながら評価し、その公表を通して保護者と結果を共有し改善に努める。

② 友達とのかかわりを軸とした教育活動の推進

幼児は遊びを含めた身の回りのことに取り組むことを通して義務教育につながる知、徳、体の基礎を身に付けている。幼児の自発的な身の回りのことに取り組む行動を促すために必要な教育環境の整備とよりよい指導方法の研究を進める。

＜主な取組＞

（ア）幼稚園教諭指導推進事業（指導主事1名）

（イ）教育支援委員会園訪問、相談、面談

5) 特色ある新発田市の教育

歴史と文化に富む新発田市では、将来の新発田市を担うであろう幼児・児童・生徒の素養をさらに磨くために次の3点を重点的に取り組む。

「しばたの心継承プロジェクト」では、ふるさと新発田への愛着や誇りを育てる教育活動を学校教育と社会教育の両面から支援する。「人権教育、同和教育」では、差別や偏見を許さないという新発田市民の強い意志を受け継ぐ幼児・児童・生徒を育てる。「食とみどりの新発田っ子プラン」では、新発田の豊かな自然を背景とした食の循環に関する実践や新発田の食文化、産業を学ぶ教育活動を支援する。

① ふるさとへの愛着と誇りを育む「しばたの心継承プロジェクト」

新発田の歴史、自然、文化、産業等に関する学習を通して、新発田のよさやそこに携わる人々の思いを知り、新発田への愛着と誇りを学校教育と社会教育の両面から育む。そのために、総合的な学習の時間等の取組を3つの視点から工夫する。

【視点1 体験活動の工夫と意味付け】

しばたの心継承プロジェクト単元として意味付ける。地域コーディネーターを活用し、新発田の歴史、自然、文化、産業、福祉等のそのもののよさや、それらに携わっている人々と出会い、その思いに直に触れるように工夫することで、新発田のよさや素晴らしさ、抱える課題についてより広く深く学べるように探究活動を編成する。

【視点2 取組の発信と見える化】

学びを保護者や地域などに発信する場や方法を工夫し、子ども自身の学びを深め、意識化を図るとともに、保護者、地域の方々にも取組が見えるようにすることで、しばたの心を継承していく取組への気運を高める。

【視点3 社会教育との取組】

社会教育（文化行政課、青少年健全育成センター、中央図書館、歴史図書館、生涯学習課、各地区公民館、あかたにの家等、市の社会教育機関）と連携し、学びの場や機会

を広げる。

<主な取組>

- (ア) しばたの心継承プロジェクト事業
- (イ) キャリア教育の推進
- (ウ) キャリア・パスポートの活用
- (エ) アントレプレナーシップ教育推進モデル事業

② 人権感覚を高める「人権教育、同和教育」

人の心の痛みが分かり、自他の大切さを認め合う態度や行動力を子どもの生活全般に浸透させる。教職員の「学び直し」や差別の現実学ぶ現地研修等を実施し、指導力の向上に努めるとともに「かかわる同和教育」の実践を通して人権尊重の心を育てる。

<主な取組>

- (ア) 同和教育推進事業
- (イ) 同和問題PTA講座開催事業
- (ウ) 識字学級開催事業
- (エ) 新潟県同和教育研究協議会参画事業
- (オ) 「生きる」シリーズの積極活用
- (カ) ふれんど・すくーる事業（小学生）
- (キ) 学習教室（小・中学生）
- (ク) 同和教育研究委託事業（豊浦中学校〔二年度〕 東小学校〔一年次〕）

③ 生きる力を育む「食とみどりの新発田っ子プラン」

各学校・園の工夫により豊かな情操を養う体験的な教育活動を展開する。学校・家庭・地域の連携による食のサイクルに基づいた食に関する知識や理解を深め、実践力を育成（食育の実践）するとともに地域の歴史、文化、自然や産業等を通して環境教育を推進する。

<主な取組>

- (ア) 食とみどりの新発田っ子プラン推進事業（幼稚園、小・中学校）

4 学力向上

(1) 課題

新発田市の小・中学校では、学力向上を目指し、これまで子どもが自ら学びに向かう授業改善や「新発田市授業スタンダード」を活用した授業改善に取り組んできている。全国学力・学習状況調査や標準学力検査N R Tの結果を見ると、小・中学校ともに全国正答率と同等、または下回る結果であり、全市的に学習内容の定着不足があると捉えている。また、以下の課題もある。

- ア 全国学力・学習状況調査の結果や標準学力検査N R Tの偏差値に学校間で差が見られる。
- イ 全小・中学校で子どもが自ら学びに向かう授業改善が進んでいる。一方で、学習過程が形式化している様子も見られる。
- ウ 教師主導の教え込みやプリント学習に偏った授業が散見される。また、学習の基盤である学級経営に苦慮する様子が見られる。

【新発田市の学力向上のねらい】

児童生徒の実態を確実に把握し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に全校体制で取り組むこと、学級経営を充実させることで、子どもが自ら学びに向かうようになり、全ての子どもに豊かな資質・能力が身に付く。

(2) 課題解決に向けた施策の展開

① 個別最適な学びの実現

子どもは一人一人違っている。これまでの授業において、課題を早く終わらせる子と、時間の掛かる子がいることに教員は悩んできた。これからは、「指導の個別化」と「学習の個性化」を図るために、一人一人の子どもの学習適正と適合度を最大化するべく、指導法や教材の調整・開発を行う必要がある。そして、これまでと同様に、単元デザインを明確にし、ゴールとゴールまでの過程、現在地を子どもと共有しながら、一人一人の学習を成立させていくことが重要である。

ア 授業力向上、学級経営の充実をねらい、指導主事が全小・中学校へ年2回訪問する。授業を参観し、授業者に寄り添った指導、支援をする。特に、学習の見通し、振り返りを通して、子どもに自らの学習状況を把握させ、自らの学習の進め方について調整しながら学ぼうとする力を身に付けさせる。

イ 学力向上に関する効果的な取組が全校体制で推進できるように、校長を対象とした研修会と学力向上担当教員を対象とした研修会を開催する。

ウ 中学校英語・小学校外国語担当教員を対象とした研修を実施し小中の滑らかな接続を図る。

エ I C T活用を促進するために、デジタル・シチズンシップや生成A Iにかかわる研修会を開催する。

② データの分析と活用

標準学力検査N R Tや認知能力検査N I N O、全国学力学習状況調査、「にいがた学びチャレンジ」を活用して授業改善を図る。

ア 標準学力検査N R Tや全国学力学習状況調査の結果分析、標準学力検査N R Tと認知能力検査N I N Oの相関から学力実態を把握し、自校の課題を明確にして確かな学力の定着を図る。

イ 「にいがた学びチャレンジ」については、「まなチャレ教材」の積極的な活用を推進する。

5 豊かな心の育成

(1) 課題

豊かな心や感性は、多様な生活体験や人間関係によって培われる。しかし、子どもたちを見ると、他者に対する関心や他者とのつながりを保とうとする意識が不足し、対人関係をうまく構築できない子どもが目立つ。その要因の一つとして、学校や地域社会の多様な人間関係の中で、社会性や対人関係能力を身に付ける機会が減少していることが挙げられる。

市内の小・中学校の子どもたちも例外ではなく、人間関係をうまく構築できないことが結果的にいじめや不登校等につながっている場合も少なくない。「いじめはどの学校でも起こり得る、不登校はどの子にも可能性がある」という認識で、いじめ、不登校解消に向けて取り組んでいる。実際、文部科学省の令和6年度問題行動調査（カッコ内数字は令和5年度との比較）によると、新発田市の小中学校の「いじめ」認知件数は、小学校が240件（+32件）、中学校が175件（+18件）であり、両校種共に昨年度に比べて増加し、依然として多くの子どもがいじめに悩んでいる。「不登校」の人数は、小学校が89人（+8人）、中学校が203人（+18人）で、両校種共に昨年度に比べて増加した。社会性の育成をはじめとする豊かな心の育成は急務である。また、多様な背景をもつ児童生徒に対して、今後も各機関と連携しながら、丁寧に対応していく必要がある。

(2) 社会性の育成をはじめとする豊かな心を育む教育の推進

社会性の育成や豊かな心を育成するためには、道徳教育の充実をはじめとして、かかわり合って学ぶ授業や家庭や地域と連携した絆を深める体験活動の推進、人間関係づくりやコミュニケーション能力の育成など、全教育活動を通じた取組が必須である。

① 全教育活動を通して育成すべき社会性（県のとらえ）

- ア 自己有用感（自己肯定感、自尊感情等を含む）の獲得
- イ 人間関係づくりの能力の育成
- ウ 規範意識の醸成
- エ 困難に対して、他者と協力しながら問題解決を図る意欲や態度の育成

② 社会性の育成をはじめとする豊かな心を育成するためのアプローチ

- ア 多面的・多角的に考え、議論する道徳の授業づくりを推進し、生命尊重や思いやりの心を大切にする主体的判断力を育成する。
- イ 道徳との関連を重視した「豊かな体験活動、集団宿泊訓練、家庭や地域と連携した地域貢献活動、職場体験活動等」を推進し、人と主体的にかかわる喜びをもつ子どもを育成するための「人間関係づくり」の能力を培う実践を行う。
- ウ CAPプログラムを通して、児童生徒が安心して相談できる体制づくりを推進する。また、いじめの問題を自分のこととして捉える「いじめをしない、許さない、見逃さない」心や態度を育成する。
- エ 同和教育の視点に立つ教育（「かかわる同和教育」の実践）を推進して人権感覚を高め、人の心の痛みが分かり、自他の大切さを認め合う態度や行動力を育成する。
- オ 学校内外における異学年交流や地域交流等の絆づくりの場の設定を通して、自己有用感を育成し、社会性を育む教育を推進する。
- カ 学年や学校間を超えて教職員同士が協力し、各学校の課題を共有し、小学校6年間、中学校3年間、あるいは小・中学校9年間を通して意図的・計画的に社会性を育成する。
- キ 学習規律を大切にし、かかわりあって学ぶ授業づくりを通して、社会性を育成する。
- ク 児童生徒のわずかな変化も見逃さないよう教職員の意識を向上させ、いじめや不登校、問題行動等に対する情報の共有と即時対応できる校内指導体制の確実な運用及び関係機関との連携強化を図る。

6 体力の向上

(1) 新発田市の取組

市立小・中学校では、各学校で運動の習慣化、体力の向上に向けて、次のような工夫した取組を行っている。

① 小学校

- ア ○○運動強調期間の実施
- イ 体力向上プログラムへの取組
- ウ 児童会委員会活動によるスポーツイベントの実施
- エ 業間運動の工夫

② 中学校

- ア I C T機器を活用した体育学習
- イ 学習カードを活用した体力分析
- ウ 授業前ランニング

(2) 成果と課題

市内の小学生、中学生の「令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」は下表のような結果であった。(今年度より全学年の平均を提示)

小学生では、男女とも全国平均を上回る項目はなかった。中学生では、男子は8項目中6項目が、女子は5項目が全国平均を上回る結果となった。小学生の体力向上の対策を工夫する必要がある。

令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 (新発田市と県・全国との比較)

小学生		男 子				女 子			
項目名	体力要素	新発田市	新潟県	全国	全国比	新発田市	新潟県	全国	全国比
握力	筋力	14.32	16.71	16.02	89.39	13.63	16.38	15.78	86.38
上体起こし	筋持久力	17.11	19.77	19.19	89.16	15.88	18.79	18.16	87.44
長座体前屈	柔軟性	31.91	34.94	33.79	94.44	35.25	39.38	38.21	92.25
反復横跳び	敏捷性	36.42	43.23	40.67	89.55	34.83	41.41	38.71	89.98
シャトルラン	全身持久力	40.18	51.48	46.90	85.67	31.68	41.68	36.60	86.56
50m	スピード	10.24	9.49	9.50	92.77	10.50	9.71	9.76	92.95
立ち幅跳び	筋パワー	140.07	152.97	150.46	93.09	130.83	146.18	143.18	91.37
ボール投げ	巧緻性	16.27	21.02	20.74	78.45	10.64	13.68	13.15	80.91

中学生		男 子				女 子			
項目名	体力要素	新発田市	新潟県	全国	全国比	新発田市	新潟県	全国	全国比
握力	筋力	29.36	29.70	28.91	101.56	22.88	23.53	23.14	98.88
上体起こし	筋持久力	27.30	26.72	25.82	105.73	22.94	22.50	21.47	106.85
長座体前屈	柔軟性	48.39	47.46	44.32	109.18	51.07	49.58	46.44	109.97
反復横跳び	敏捷性	52.01	51.65	51.49	101.01	46.39	46.03	45.67	101.58
シャトルラン	全身持久力	76.88	79.91	78.65	97.75	49.27	52.04	50.48	97.60
50m	スピード	8.14	7.92	7.99	98.16	9.14	8.90	8.96	98.03
立ち幅跳び	筋パワー	202.22	203.16	197.16	102.57	170.90	169.58	166.22	102.82
ボール投げ	巧緻性	21.43	21.29	20.49	104.59	12.46	12.69	12.32	101.14

【握力:kg, 上体起こし:回, 長座体前屈:cm, 反復横跳び:点, シャトルラン:回, 50メートル走:秒, 立ち幅跳び:cm, ボール投げ:m】

※持久走、50m走は、値が小さいほど記録が優れている。

7 人権教育、同和教育

部落差別問題（同和問題）は、人類普遍の原理である人間の自由と平等に関する問題であり、その解決は国民的課題であるとともに全市民的な課題である。部落差別の解消には、正しい同和教育と積極的な啓発が重要な役割を担っている。

同和教育は、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくすための教育であり、人権教育の中核である。

学校においては、子どもたち一人一人が尊重され、豊かな人権感覚が育つよう、差別や偏見のない人間尊重の精神に貫かれた学校・学級づくりに努めることとする。また、「同和教育の視点」に立ち、課題を背負わされている子どもに寄り添い、一緒に課題を解決することに努める。

(1) 基本方針

人権感覚を高める「人権教育、同和教育」

- 同和教育の視点に立つ教育の推進（「かかわる同和教育」の実践）
- 人の心の痛みが分かり、自他の大切さを認め合う態度や行動力を育成する授業づくりの推進
- 人権尊重の視点に立った学級経営や学校づくり

(2) 事業

① 同和教育推進協議会

ア 同和教育推進協議会

イ 先進地視察研修

② 学校同和教育

ア 同和教育研究指定校

イ 新任・転入校長現地研修会

ウ 教頭同和教育研修会

エ 同和教育主任研修会

オ 転入教職員同和教育研修会

カ 新採用教職員同和教育研修会

キ 保育園・幼稚園同和教育研修会

ク 保・幼・小・中・高同和教育連絡会

ケ 児童生徒支援加配教員連絡会

③ 社会同和教育

ア 識字学級

イ 同和问题P T A講座

ウ ふれんど・すくーる

エ 小学生・中学生学習教室

オ 高校生学習教室

カ 教育委員会職員同和教育研修会

④ 教育権保障

入学支度金支給



同和教育 公開授業

8 特別支援教育

特別支援教育が法的に位置づけられた改正学校教育法が、平成 19 年 4 月 1 日から施行され、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校において行われる特別支援教育について基本的な考え方等が示された。

特別支援教育の理念として、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、適切な指導及び必要な支援を行うことが掲げられている。知的な遅れのない発達障がいも含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において特別支援教育を実施している。

市内小・中学校においても特別支援学級在籍者数・学級数は増加の一途をたどっており、幼児児童生徒個々の教育的ニーズも多様化している。各学校では、特別支援教育の視点に基づき、基礎的環境整備や合理的配慮等に留意した指導、支援が行われている。

(1) 市内小・中学校の特別支援学級設置状況及び児童生徒数

〈小学校〉	知的障害特別支援学級	13校（29学級）	181名
	自閉症・情緒障害特別支援学級	13校（49学級）	291名
	病弱・身体虚弱特別支援学級	1校（1学級）	2名
	肢体不自由特別支援学級	3校（3学級）	4名
	弱視特別支援学級	1校（1学級）	1名
	難聴特別支援学級	1校（1学級）	4名
〈中学校〉	知的障害特別支援学級	9校（12学級）	54名
	自閉症・情緒障害特別支援学級	9校（16学級）	88名
	病弱・身体虚弱特別支援学級	1校（1学級）	2名
	肢体不自由特別支援学級	1校（1学級）	2名
	弱視特別支援学級	1校（1学級）	1名
	難聴特別支援学級	0校（0学級）	

(2) 通級指導教室

① 言語通級指導教室

平成 7 年度から東豊小学校、平成 9 年度から外ヶ輪小学校内に設置

東豊小学校：通級児童数 23名（市内 21名）

外ヶ輪小学校：通級児童数 28名（市内 28名）

② 発達障害通級指導教室

平成 19 年度から御免町小学校、令和 4 年度から二葉小学校内に設置、令和 7 年度から豊浦小学校に設置

御免町小学校：通級児童数 15名（市内 15名）

二葉小学校：通級児童数 17名（市内 17名）

豊浦小学校：通級児童数 7名（市内 7名）

令和 3 年度から本丸中学校に設置

本丸中学校：通級生徒数 20名（市内 20名）

③ 難聴障害通級指導教室

令和 6 年度から二葉小学校内に設置

二葉小学校：通級児童数 7名（市内 7名）

—令和 7 年 5 月 1 日現在—

(3) 教育支援委員会

特別な支援が必要あるいは必要と思われる児童生徒の適正就学を図るため、適正就学に関する調査、検査、判断を行う。

※ 委員会の構成（医師 2 名、関係教育機関職員 30 名、関係行政機関職員 10 名）

(4) 新発田市特別支援教育推進委員会

関係団体と連携して、市内に在住する特別な支援を必要とする幼児児童生徒の適格な把握とその教育の充実を支援する事業の推進を図る。

※ 委員会の構成（会長 1 名、副会長 1 名、推進委員 18 名、専門部員 31 名）

9 研究委託校等

○ 研究委託・モデル校・推進校等の指定の趣旨

市（国・県）の学校教育上の諸問題について、自校の教育活動の中で実践研究を行い、その成果を当市（国・県）の教育向上に役立てることを目的としている。

(1) 市・同和教育研究委託校

① 東小学校 （令和 6 年度・7 年度）

＜研究主題＞

自分の生き方を見つめ、他者を尊重する子どもの育成

② 猿橋小学校 （令和 7 年度・8 年度）

＜研究主題＞

差別を自分事として捉え、共に立ち向かおうとする子どもの育成

(2) その他の研究指定校

① 県中学校研究協議会研究指定〔美術〕

本丸中学校（令和 7 年度）

② 県小学校研究協議会研究指定〔同和教育〕

七葉小学校（令和 7 年度）

(3) その他の事業

① 県学校・家庭・地域の連携協働事業〔地域学校協働本部事業〕

御免町小学校 東豊小学校 第一中学校 （平成 20 年度～）

外ヶ輪小学校 二葉小学校 本丸中学校 （平成 29 年度～）

② コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）モデル校

東豊小学校 （令和 6 年度～）

10 学校保健

(1) 事業内容

- ① 児童生徒の健康診断（内科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、検尿等）
- ② 県教職員の健康診断（内科、検尿、胃の検査（40歳以上）等）
- ③ 学校環境衛生検査（教室等の環境等）

(2) 市内小・中学生の身長、体重

		身長			体重		
		令和5年度			令和5年度		
		市平均	県平均	全国 平均	市平均	県平均	全国 平均
小学生 男子	1	117.9	117.3	116.9	22.2	21.8	21.6
	2	123.8	123.2	123.0	24.6	24.8	24.5
	3	129.0	128.9	128.6	28.2	27.8	27.8
	4	135.1	134.3	134.1	32.9	31.1	31.4
	5	140.5	139.9	139.6	36.4	35.6	35.3
	6	146.6	147.2	146.2	40.6	40.4	39.9
中学生 男子	1	154.5	154.9	154.2	46.0	46.5	45.8
	2	162.3	162.3	161.1	51.3	50.9	50.6
	3	166.7	166.7	166.0	55.6	55.1	54.9
小学生 女子	1	117.4	116.4	116.0	21.9	21.2	21.2
	2	122.6	122.8	122.1	24.1	24.2	24.0
	3	128.7	128.2	127.8	27.4	27.1	27.0
	4	135.9	135.1	134.4	31.9	31.0	31.0
	5	142.9	142.2	141.4	36.1	35.5	35.3
	6	148.1	148.4	147.9	39.9	40.5	40.2
中学生 女子	1	152.9	152.8	152.3	44.3	44.6	44.5
	2	155.4	155.4	155.0	47.1	47.2	47.6
	3	157.3	157.2	156.4	50.7	50.2	49.8

		身長			体重		
		令和6年度			令和6年度		
		市平均	県平均	全国 平均	市平均	県平均	全国 平均
小学生 男子	1	117.0	117.0	116.7	21.6	21.4	21.4
	2	123.9	123.6	122.6	25.1	24.8	24.2
	3	129.3	128.6	128.5	27.9	27.7	27.6
	4	134.4	134.7	134.0	31.7	31.4	31.2
	5	140.4	140.0	139.7	36.7	35.4	35.2
	6	147.3	146.4	146.0	40.9	39.6	39.6
中学生 男子	1	154.6	154.8	154.0	46.2	46.1	45.3
	2	162.0	161.8	161.1	51.3	50.8	50.5
	3	166.6	167.1	166.1	55.6	55.4	55.0
小学生 女子	1	116.5	116.1	115.8	21.5	21.2	21.0
	2	123.3	122.2	121.8	24.5	23.6	23.7
	3	128.5	127.9	127.7	27.2	26.5	26.9
	4	135.0	134.7	134.1	31.1	30.7	30.5
	5	142.6	141.9	141.1	36.1	35.5	35.0
	6	149.2	148.5	147.8	40.9	40.7	40.1
中学生 女子	1	152.8	152.8	152.3	44.2	44.1	44.4
	2	155.7	155.9	155.0	47.8	47.5	47.5
	3	156.5	157.0	156.4	50.0	49.7	49.6

※文部科学省の学校保健統計調査については、新型コロナウイルス感染症の影響による公表時期の遅れが解消されたため、「令和5年度学校保健統計調査」と「令和6年度学校保健統計調査」の2か年の結果を掲載。

1 1 しばたの心継承プロジェクト（食育を含む）

(1) 取組の意図と目的

【しばたの心継承プロジェクト】

令和2年度から市内全小・中学校において、「しばたの心継承プロジェクト」を実施しています。新発田の子どもたちが、新発田の歴史、自然、文化、産業等を学ぶことで、新発田への愛着と誇りを胸に、新発田の地を離れても再び新発田の地で、或いは世界のどこに住んでいても、新発田を思いながら活躍する人材を輩出することを目的に各校で工夫し、取り組んでいます。

【新発田市が目指す子どもの姿】

新発田への愛着と誇りをもち、夢や希望に向かって、学び続ける子ども

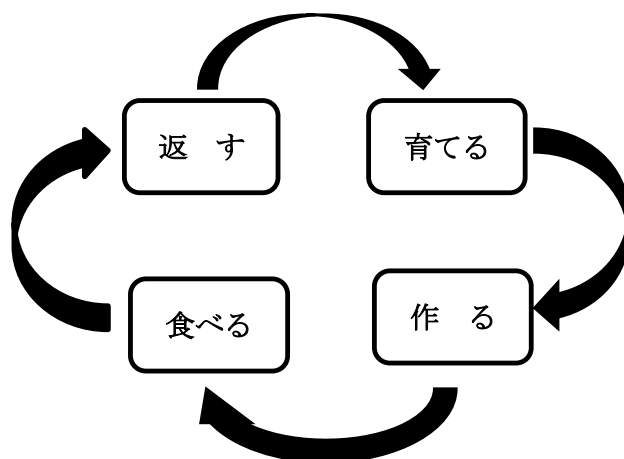
【目標】

小学校：新発田の歴史、文化、自然、産業等に関する学習を通して、新発田のよさやそこに携わる人の思いを知り、それらを大切にしようとする心や態度を育てる。

中学校：新発田を中心とした地域の歴史、文化、自然、産業等に関する学習を通して、新発田の特色や課題、新発田で生きる人々の思いを知り、地域とかわり貢献しようとする心や態度を育てる。

【食とみどりの新発田っ子プラン】

学校と地域が連携し、教育活動の中で、新発田の「豊かなる大地を基盤とした食のサイクル」（「育てる（栽培）」→「作る（料理）」→「食べる」→「返す（リサイクル）」→「育てる」・・・）を子どもたち自身が日常生活において意識し実践することにより、自立に向けた「生きる力」を身に付け、将来の新発田市を担う人材を育成することを目的としています。子どもたちは、学校菜園での栽培活動、給食時間における食事マナーの習得、地場産農産物や自分たちで育てた野菜を使った調理実習など、成長段階に応じた食育活動を通じ、食物に関わる全ての人への感謝の気持ちや、栄養バランスを考えた食事作りなど、将来の自立のために必要な知識や経験を身に付けています。



(2) 令和6年度の各校の取組

学校名	取組内容（代表的なものを抜粋）
外ヶ輪小学校	弁当作り、受けつがれる行事、木遣りを学ぶ 
猿橋小学校	新発田の宝物さがし・魅力を探る、ふるさと新発田弁当を作る
御免町小学校	郷土料理（新発田麩）の良さを学ぶ、新発田川的环境保全
二葉小学校	防災体験活動、地元の農畜産物（オータムポエム）の理解を深める 
東小学校	お米のパワー大発見、絵手紙作り、環境学習
川東小学校	川東ファーム 味わおう伝えよう川東の農産物、地域の伝統芸能体験学習 
七葉小学校	米作り、人権学習、福祉学習
佐々木小学校	佐々木たんけんたい、米作り、古太田川の調査活動
住吉小学校	野菜の栽培・収穫活動、「じんけん」授業の実施
東豊小学校	野菜作り、土鈴の絵付け体験、地域クリーン作戦
豊浦小学校	田植え・稲刈り体験、豊浦音頭の継承・発表
紫雲寺小学校	紫米を育てる、干拓太鼓の継承、食育・栽培（花・野菜）活動
米子小学校	紫雲寺潟干拓の歴史を学ぶ、野菜の栽培・収穫 
藤塚小学校	藤塚浜大漁太鼓の保存・継承活動、海の子・山の子交歓会
加治川小学校	加治川の地域探検、米作り、福祉体験

学校名	取組内容（代表的なものを抜粋）
本丸中学校	「参勤交代の道 八里を歩く」、小煮物作り、お城の清掃活動
第一中学校	古き良き新発田の街さんぽ、野菜栽培活動、小煮物作り 
猿橋中学校	「しばたの大人と未来を考える会」の実施、花壇の整備・緑化、小煮物作り
東中学校	新発田市巡検、課題解決型職場体験、小煮物作り
川東中学校	ふるさとウォーク、達人訪問の実施、里芋の栽培、小煮物作り 
七葉中学校	地域貢献活動、古紙回収活動、小煮物作り
佐々木中学校	琵琶の鑑賞会、人権教育・同和教育、小煮物作り
豊浦中学校	福祉体験、地域の清掃活動、笹団子・小煮物作り 
紫雲寺中学校	紫雲寺地区の未来を考えるプロジェクト、紫雲寺潟干拓史講演会、小煮物作り
加治川中学校	生き方授業、農家訪問、小煮物作り 
教育支援センター車野校	ジャガイモの栽培・収穫・カレー作り、玉ねぎ・さつまいも・ブロッコリー収穫体験 

文 化 行 政

1 基本方針

近年、少子・高齢化が急速に進み、市民の価値観は多様化しライフスタイルも大きく変容してきた。変化の激しい社会においては、伝統文化や文化財、芸術作品などが急速に失われていく恐れがある。これらを埋没させることなく未来に引き継ぎ、発展させていくことが喫緊の課題となっている。

課題の解決に向けては、単に先人の遺してくれた伝統文化や文化財などの確実な保存を図るだけではなく、市民にこれらの価値を再認識してもらうことが重要であり、そのための仕組みづくりが必要である。

文化財等の保存と活用により、子どもたちはじめ幅広い市民層に郷土の歴史や伝統文化に対する理解を深めてもらうとともに、その魅力を再認識してもらう事業を展開する。加えて、市民の主体的な郷土文化の保存と振興の活動を支援する。



新 発 田 城

2 文化行政における取組

地域の文化財の適正な保存と活用を推進し、市民の歴史に対する理解や関心を深めてもらうとともに、市内外に新発田の歴史文化を発信する。

(1) 文化財の調査／文化財調査審議会の開催

市内に潜在する文化財の調査を進め、新たに市が指定すべき文化財については、文化財調査審議会へ諮問する。

(2) 新発田城の公開

国指定重要文化財である新発田城表門・旧二の丸隅櫓及び復元した辰巳櫓を公開（4月～11月）するとともに、櫓および城内の適正な維持管理を行う。

(3) 五十公野御茶屋の公開

新発田藩主の別邸で、国指定名勝に指定されている五十公野御茶屋庭園の建物を公開（4月～11月）するとともに、建物の燻蒸と庭木の剪定などの維持管理を計画的に実施する。

(4) 指定文化財の保存修理支援

指定文化財を適正に保存・活用し、後世に伝えるため、所有者の行う修繕にかかる経費に対し、補助を行う。

(5) 民俗芸能保存のための支援

昭和20年以前から伝承されている獅子舞、盆踊りなどの民俗芸能保存団体が行う道具の購入・修繕や民俗芸能の公開、後継者育成に係る経費に対し補助を行う。

(6) 新発田城の石垣調査

石垣の動きを把握するための測量観測（定点観測）を引き続き行う。石垣の状態と変化の記録「石垣カルテ」の作成に向けた立面図・断面図作成を行う。

(7) 新発田城の耐震化

国指定重要文化財の新発田城旧二の丸隅櫓について、耐震補修工事に向けた実施設計を行う。

(8) 文化財保存活用地域計画の進捗管理

市内の文化財の保存と活用を図るため、新発田市文化財保存活用地域計画協議会及び市内ワーキンググループを設置し、事業の進捗確認を行う。

(9) 新発田城土橋門の整備

令和6年度に策定した「新発田城土橋門復元整備基本計画」に基づき、土橋門復元基本設計を行う。

(10) 複合・生涯学習施設（歴史資料館）の整備

「県立新発田病院跡地活用整備計画」に基づき、整備に向けた検討を行う。

3 埋蔵文化財における取組

遺跡の存在・状態を適切に把握し、開発工事等で消失してしまう遺跡は発掘調査によって記録し、情報として保存する。調査の結果は報告書にまとめて公開し、遺跡情報・出土品の保存と活用を図る。また、これらの埋蔵文化財を適切に保存・活用し、広く公開して市民の郷土理解を深めるための機会を提供する。

(1) 埋蔵文化財の発掘調査

○埋蔵文化財包蔵地を把握・周知するための分布調査

県営ほ場整備事業予定地区内などを踏査する。

○遺跡の保護を目的とする、開発調整のための試掘・確認調査

県営ほ場整備事業（中浦第2工区地区ほか）、市道改良事業（新発田城跡）、陸上自衛隊新発田駐屯地整備事業（新発田城跡）、新発田城土橋門復元整備事業、民間開発事業などに先立ち調査を行う。

○開発に先立つ本発掘調査に伴う整理・報告書作成作業

開発に先立ち遺跡情報の記録保存のために、令和5年度に現地調査を実施した堤下B遺跡・北野地遺跡（県営ほ場整備事業（滝沢地区）地内）の本格整理・報告書作成作業を実施する。

○小規模開発に伴う工事立会い調査

上下水道工事、県営ほ場整備事業、民間開発事業などで実施する。

(2) 埋蔵文化財の普及・活用

- ・市内小学校での社会科出張授業（6年生の歴史授業で、市内の出土品を公開・解説）
- ・加治川展示室での出土品などの展示・公開
- ・イクネス中央図書館での出土品展の実施
- ・講師派遣依頼への対応
- ・他の博物館等からの資料借用依頼等への対応など



イクネス中央図書館での出土品展 展示状況

文化芸術振興室

1 基本方針

文化芸術を身近に感じられるまちづくりの実現のため、音楽や演劇などの舞台芸術をはじめ、絵画などの美術作品の創作や展示、日本の伝統文化に親しむための茶会の開催など、幅広い文化芸術活動を推進することで、市民の生きがいがいづくりと文化芸術に親しむ心の醸成に寄与する。

事業実施にあたっては、市の文化芸術施策の拠点である市民文化会館を効果的に活用し、市民への文化芸術活動の発表の場の提供と優れた文化芸術を鑑賞する機会の拡充を行い、さらなる文化芸術の振興を図る。

2 重点事業

(1) 教育鑑賞事業

市の芸術文化活動の拠点施設として「ひとづくり」、「生きがいがづくり」に寄与する事業を実施し、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供する。

(2) 文化創造事業

市内等で活動する文化・芸術団体および個人に対して、日ごろの練習成果を大ホールで発表する機会を提供することを通して、市民の芸術・文化活動の活性化を図る。

(3) 全国「花嫁人形」合唱コンクール運営事業

新発田市出身の抒情画家・落谷虹児が作詩した唱歌「花嫁人形」を後世に歌い継ぐとともに、虹児のふるさと・新発田を全国に発信することを目的とした全国合唱コンクールを開催する。

(4) 市展運営事業、茶会開催事業

市民の文化・創作活動を活発化し、伝統文化を醸成するため、「新発田市美術展覧会・ジュニア展」、「市民茶会、呈茶席」を開催する。

(5) 美術品展示事業

市民に文化芸術にふれる機会を提供するため、市にゆかりのある作家や作品の美術展覧会を開催する。

(6) 落谷虹児記念館活用事業

魅力ある企画展や回遊展を開催し、落谷虹児の作品を広く市内外に紹介し、文化芸術の振興を図る。

(7) 貸館事業

日ごろの学習や練習の場を提供することを通して、市民の自主的、主体的な芸術・文化活動の振興に資する。

(8) 施設管理

施設の耐用年数が経過し老朽化が著しいことから、利用者の安全・安心を図るために、日々の点検、計画的な改修に努める。

◆教育鑑賞事業◆

本格的な各種舞台芸術をはじめ、地元出身アーティストの育成支援や青少年の芸術文化に対する感性を育む公演を企画し、安価な料金で鑑賞する機会を提供することで芸術文化の普及・振興を図る。

開 催 日	演 目	備 考
6 月 26 日 (木) ・ 27 日 (金)	小・中学校教育鑑賞事業 中学校の部 パフォーマンス「PPP」	主催：小・中学校教育鑑賞事業 実行委員会
7 月 6 日 (日)	新発田あやめ寄席 「春風亭昇太・林家つる子 落語会」	出演：春風亭昇太 林家つる子 ほか
7 月 27 日 (日)	小原孝×宮本貴奈スペシャルサマー 2 台のピアノライブ	
8 月 31 日 (日)	最強！歌まねジョイントライブ	出演：荒牧陽子 松浦航大
9 月 9 日 (火) ～12 日 (金)	小・中学校教育鑑賞事業 小学校の部 ミュージカル「ネバーランド」	主催：小・中学校教育鑑賞事業 実行委員会
11 月 2 日 (日)	新発田出身アーティストセレクシ ョン Vol.16 「渋谷駿マジックショー」	
11 月 9 日 (日)	森山良子コンサートツアー アコースティックバージョン	

◆文化創造事業◆

文化団体等へ活動発表の場を提供することで、芸術文化活動の普及拡大を図る。

開催日	演 目
5 月 11 日 (日)	箏・三絃・尺八演奏会
6 月 8 日 (日)	ライトミュージックコンサート
6 月 15 日 (日)	市民コンサート 2025
7 月 20 日 (日)	合唱のつどい

開催日	演 目
8 月 23 日(土)	高校音楽祭
9 月 28 日(日)	新発田市音楽文化協会定期演奏会
10 月 19 日(日)	秋を彩るバレエ・日舞・フラダンス
10 月 26 日(日)	伝統芸能のつどい（能楽／詩吟・吟舞）
随 時	会館ピアノ

〔昨年度開催の様子〕



◇箏・三絃・尺八演奏会



◇ライトミュージックコンサート

◆全国「花嫁人形」合唱コンクール運営事業◆

事業名	開催日	参加募集対象
第 26 回 全国「花嫁人形」合唱コンクール	10 月 12 日(日)	全国の合唱団体 (募集：25 団体)

◆市展運営事業◆

事業名	開催日	備 考
第 54 回新発田市美術展覧会 併催：第 53 回新発田市ジュニア展 (立体・書道作品)	10 月 18 日(土)) 22 日(水)	会場：カルチャーセンター

◆茶会開催事業◆

事業名	開催日	備 考
市民茶会	5 月 25 日(日)	会場：清水園・蔵春閣
呈茶席	令和 8 年 3 月 15 日(日)	会場：蔵春閣

◆美術品展示事業◆

事業名	開催日	備 考
新発田市所蔵美術作品展 併催：第 53 回新発田市ジュニア展 (絵画作品)	11 月 21 日(金) 〃 30 日(日)	会場：生涯学習センター

◆露谷虹児記念館活用事業◆

事業名	開催日	備 考
企画展 真珠まりこ絵本原画展	4 月 22 日(火) 〃 6 月 29 日(日)	会場：露谷虹児記念館
企画展 久保 修 切り絵の世界展～紙のジャ ポニスム～	7 月 8 日(火) 〃 9 月 28 日(日)	会場：露谷虹児記念館
企画展 渡仏 100 年 パリに咲いた虹 露谷虹 児展 (予定)	10 月 7 日(火) 〃 令和 8 年 1 月 25 日(日)	会場：露谷虹児記念館
企画展 日本アニメの原点 露谷虹児が描いた 夢と未来展 (予定)	令和 8 年 2 月 3 日(火) 〃 4 月中旬	会場：露谷虹児記念館

図 書 館

1 基本方針

(1) 基本理念

新発田市立図書館の基本理念を次のとおり定めます。

すべての人たちの学びを支え培う、知と情報の拠点
— ひと、まち、活動をつなぎ、歴史をつむぐ —

(2) 図書館基本方針

基本理念に基づき、次の4つの基本方針を柱として、図書館運営を進めていきます。

① 暮らしに役立ち利用しやすい図書館

- ア 生涯学習や課題解決を支援する資料、情報の整備と提供
- イ 地域の特性に応じた分館の充実
- ウ 高齢者、障がい者、乳幼児などにやさしい環境とサービスの充実
- エ 誰でも居心地が良いと感じる空間の提供

② 子どもの心を豊かに育む図書館

- ア 幼い時期から本に親しむ機会の提供と環境の整備
- イ 読書習慣の形成に向けた支援
- ウ 読書活動を支えるボランティアの養成と支援
- エ 学校図書館との連携と支援

③ 郷土の歴史や文化を大切にする図書館

- ア 未来へ向けた新発田市の歴史の継承
- イ 新発田市の歴史や郷土についての学びと発表の場の整備
- ウ 歴史で繋がるコミュニティと賑わいの創出

④ 市民とともに創る開かれた図書館

- ア 市民と協働する運営体制の構築
- イ 図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化
- ウ ボランティアの養成と協働



2 中央図書館

(1) 運営方針

図書館の4つの基本方針に基づき、市民の学びを支える拠点施設として、中央図書館の運営を進めていきます。

- ① イクネスしばたの核として、こどもセンターやキッチンスタジオ等それぞれの施設の活動を繋ぐ役割を担い、複合施設としての機能を十分に生かせる事業を実施します。
- ② 生涯学習支援のため、多様化するニーズに応えられる資料や情報の収集と提供を行い、誰もが利用しやすい読書環境の整備に努めます。
- ③ 新発田市子ども読書活動推進計画の基本方針に基づき、関係機関・団体等と連携し子どもの読書活動の推進に取り組みます。
- ④ 市民団体であるイクネスサポータークラブと協働で事業を進め、開かれた図書館を目指します。
- ⑤ 分館・分室については、地域の実情に応じた読書環境を整備し、サービスの向上に努めます。



～しばたの心継承プロジェクト～
ふるさとしばた「家族でかるたあそび」



絵本に出てくるお菓子をつくろう！

(2) 分館・分室

分館・分室	場 所	開設日・時間	貸 出
豊浦分館	豊浦地区公民館内 新発田市乙次 26-2 電話 22-2081	年末年始を除く 9:00-21:20	中央館、歴史図書館を含む5館合計で10冊まで。 期限は2週間。 ※貸出の場合は、 【利用者カード】をご用意ください。
紫雲寺分館	紫雲寺地区公民館内 新発田市稲荷岡 2371 電話 41-2291	年末年始を除く 9:00-21:00	
加治川分館	加治川地区公民館内 新発田市住田 501 電話 33-2433	年末年始を除く 9:00-21:20	
五十公野分室	五十公野コミュニティセンター内 (旧ふるさと会館) 新発田市五十公野 4930-1	日曜日 第2,4土曜日 9:30-11:30	各分室4冊まで。 期限は2週間。 ※貸出の場合は、 各分室の手続きに従ってください。
松浦分室	松浦農村環境改善センター内 新発田市法正橋 676	祝日を除く 月曜日～金曜日 8:30-17:00	
川東分室	川東コミュニティセンター内 新発田市下羽津 1908	毎週日曜日 10:00-12:00	
佐々木分室	佐々木コミュニティセンター内 新発田市則清 956-1	火曜日～金・日曜日 13:00-16:30 土曜日 9:30-16:30	

- 他に、住吉・赤谷・菅谷・七葉配本所があります。

(3) 令和7年度 中央図書館事業計画

行事名	開催月日・会場	内容
こども読書週間行事 「としょかんワンダーランド」	4月22日(火)～5月14日(水) 会場：2階 図書フロア	幼児から小学生を対象に、遊園地に見立てた図書館2階フロアにある5つアトラクションに参加してもらう。 全てのアトラクション参加で景品を進呈
読み聞かせボランティア養成講座	7月28日(月)・8月25日(月) 会場：1階 多目的室4,5	講師を招き、新規ボランティア養成のための読み聞かせ講座。 8月は参加者との情報交換会
雑誌リサイクルフェア	9月6日(土) 会場：1階 多目的室1	希望者に保存期間が終わった雑誌を無償で譲渡する
山岳会講演会	12月7日(日) 会場：2階 多目的室4,5	新発田市在住で新潟県の山について2冊の本を執筆した田中正彦氏を招いた講話
秋の読書週間行事 ぬいぐるみお泊り会	10月25日(土) 会場：2階 多目的室3	子ども達から預かったぬいぐるみが夜の図書館を冒険する様子を職員が撮影し、子ども達にプレゼントする。
家読と学校読み聞かせの本の展示	12月～1月	「新発田市子ども読書活動推進計画」に基づき、「家読(うちどく)」の啓発・推進を図るため、学校読み聞かせで使用した本のPR展示等を行う
新春企画 「ふくふく本」	1月4日(日)～ 会場：1～3階 図書フロア	図書館職員おすすめの本を福袋に入れて貸し出す。 中の本が何かは借りてからのお楽しみとなっている
図書館川柳コンテスト (一般の部、子どもの部) ※子どもの部については、しばたの心継承プロジェクト	募集：1月4日～1月20日頃 展示：2月中旬～3月中旬頃	新発田にちなんだ川柳を利用者から募集し、館内に展示するほか関連資料を展示する。今年度は2回目で新たに子どもの部を設けて行う
学校出前読み聞かせ	随時 会場：市内小学校	図書館の読み聞かせボランティアが学校に出向き、読み聞かせを行う
ブックスタート	毎月2回水曜日 会場：ハピネス☆しばた(豊浦保健センター)	3か月検診時に読み聞かせの実演と絵本のプレゼントを行う
企画展示	各季 会場：2階展示室	年4回テーマに沿った図書の展示を行う
絵本や紙しばいの読み聞かせ	毎月第3金曜日 10:30～11:00 会場：2階 多目的室3	読み聞かせボランティア「おはなしのとびら」による「ちいさいひとたちのためのおはなし会」(0～2歳児)
	毎週土曜日 10:30～11:00 会場：2階 多目的室3	読み聞かせボランティア「おはなしのとびら」による読み聞かせ
	毎月第2日曜日 11:00～11:30 会場：2階 多目的室3	読み聞かせボランティア「おはなしばたぼん」による読み聞かせ
ようこそ新発田読書会	5月24日(土)・8月30日(土) 会場：2階 多目的室4・5	小グループで、一人5分ずつお気に入りの本や感銘を受けた本を紹介し合い、フリートークで交流を行う。 サポータークラブ「新発田市立図書館利用者友の会」と共催で実施予定
ビブリオバトル	7月6日(日)・11月9日(日) 会場：1階 多目的室1	発表者おすすめ本の中から参加者の投票でチャンプ本を決める書評合戦 サポータークラブ「新発田市立図書館利用者友の会」、「敬和学園大学図書館愛好会ライブラリオ」と共催で実施予定

3 歴史図書館

(1) 運営方針

図書館の4つの基本方針に基づき、「歴史や文化が身近に感じられるまち」を目指し、市民の理解と関心を深められるよう、次のとおり歴史図書館の運営を進めていきます。

- ①これまで図書館が所蔵してきた歴史資料・郷土資料を未来へ引き継ぎ、適正な状態で管理します。
- ②歴史資料を所蔵している個人や団体と連絡を密にし、資料の散逸を防ぐとともに、市域全体の歴史資料保存に努めます。
- ③所蔵する資料を広く市民並びに研究者に活用してもらうようデジタルアーカイブ化を推進します。
- ④正保越後国絵図等のレプリカを活用した企画展や学校などへの出前授業などに取り組みます。

(2) 令和7年度 歴史図書館事業計画

①展示室1

行事名	開催期間	内 容
春季通常展 「新発田藩の歴史資料」	4月5日（土） ～6月17日（火）	新発田城本丸庭園図のほか県指定文化財「新発田藩資料」を展示
夏季企画展 「北を向く越後人」	7月1日（火） ～9月23日（火・祝）	古くから残る越後と北方社会との関係や越後人が北の大地に注目するきっかけを当時の資料をもとに紹介
秋季企画展 「11代藩主直溥の覚悟～ 五万石から十万石への決断～」	10月4日（土） ～12月21日（日）	新発田藩主溝口氏は蒲原郡6万石の領主として入封し、その後分地し5万石で推移するも新田開発などを進め石高が倍となり10万石大名になりました。それを成し遂げた時の藩主の描いた展望を読み解きます。
冬季通常展 「明治維新と新発田藩」	1月10日（土） ～3月29日（日）	異国船の来航から、廃藩置県に至るまでの明治維新の転換を、市内に残る資料から紹介

②展示室 2

* 季節や話題性のあることに合わせた所蔵資料を展示します。

③企画事業

行事名	開催期日（会場）	内 容
城下町まち歩き （全 3 回）	5 月 10 日（土）	蔵春閣～清水谷編
	10 月 11 日（土）	二の丸～四之町編
	11 月 8 日（土）	寺町～札の辻編
講演会（全 2 回）	8 月 2 日（土） （歴史図書館）	「漆器とアイヌ民族」 上越教育大学名誉教授 浅倉有子 氏
	10 月 18 日（土） （歴史図書館）	「新発田藩最後の藩主ともいえる 直溥公の一生」 新発田古文書解読研修会 前田恵子氏
古文書相談会	随時 （歴史図書館）	市民が所蔵する持ち込まれた古文 書を調査、解読
やさしい古文書講座	全 10 回	古文書解読研修会会員を講師に迎 えた古文書解読の基礎や実際の文 書を見ながらの講座



城下町まち歩き



国絵図を使った出前授業の様子

生涯学習

基本方針

多様化する市民の生涯学習ニーズに応えながら、いつでも学習できる機会と場を提供するとともに、市民が生きる張り合いや喜びを感じ、自己実現できるように支援していかねばならない。

これをより強く進めるため、生涯学習センターを当市の生涯学習の拠点施設と位置付けるとともに、次の三つの施策を基本としながら、生涯学習関連部署と連携を深め、事業を推進していく。

1 生涯学習

市民の生涯学習活動を充実させるため、多様化するニーズに応えた事業を推進するとともに、学習活動を幅広く支援し、生涯各期の生きがいくつくりと、人材育成に努める。

2 青少年育成

「豊かな心と広い視野を持ち、自主性・社会性・創造性に富んだ子ども」の育成を目指し、学校や家庭、地域社会が一体となった育成活動を行うとともに、社会参加活動や体験活動により、青少年の「生きる力」の育成に努める。

3 スポーツ・レクリエーション

子どもから大人まで誰もが気軽にスポーツに親しめる機会の充実や環境づくりを進めるとともに、スポーツを通じて市民の元気を育むまちを目指す。

生涯学習課

1 重点事業

- (1) 生涯学習の一環として、成人に対しても学習の機会を提供する中で、20歳の節目を祝うため、市全体、市民全体でお祝いするあたたかみのある式典を開催する。
- (2) 青少年の健全育成と赤谷地域の活性化のために、地元住民等と連携しながら青少年宿泊施設「あかたにの家」の利用促進を図る。
- (3) 子どもたちの「生きる力」を育むために、小学校が防災教育カリキュラムの一環として行う防災キャンプ、中学校が行う防災教育に対して支援を行う。
- (4) 各地区公民館、生涯学習センターとの連携を強化する。

2 事業計画

(1) 生涯学習

事業名	対象	期間等	事業内容
成人式開催事業	平成 17 年 4 月 2 日から平成 18 年 4 月 1 日までの間に生まれた人	令和 8 年 3 月 15 日(日)開催予定	成人となり 20 歳を迎えた方々を対象に市全体、市民全体でお祝いするあたたかみのある式典を実施する。
社会教育委員運営事業	社会教育法に基づく社会教育委員	社会教育委員の会議 令和 7 年 6 月 令和 8 年 3 月	社会教育委員の職務を適切に機能させるよう努め、社会教育関連の研究成果や助言を集約する会議等を定期的に開催し、関係事業に効果的に反映させる。
学校施設開放事業	市民やサークル、各種団体	通年	学習活動や会議、講習会、地域行事等の場を提供するため、市内小中学校の特別教室の一部を開放する。
地域おこし協力隊設置事業	市民など	令和 7 年 5 月～11 月 各月 1 回開催	アウトドアを楽しみながら防災にも役立てる企画を実施することで、青少年宿泊施設の利用促進につなげる。

(2) 青少年育成

事業名	対象	期間等	事業内容
青少年宿泊施設管理運営事業	団体、学校など	青少年宿泊施設「あかたにの家」 開館 4月～11月	合宿等の宿泊体験や会合、練習などを通じ、青少年の健全育成と赤谷地域の活性化を図る。
青少年宿泊施設利用促進事業	市民など  令和6年度「ぼうさいファミリーキャンプ」での防災クッキング体験	市民向け防災キャンプ 「ぼうさいファミリーキャンプ」 令和7年6月15日(日)	防災キャンプの拠点化を図り、市民向け防災キャンプを実施する。
家庭教育推進事業	P T A 等各種団体	通年	小中学校 P T A や幼稚園、保育園、認定こども園、子育てサークル等と連携し、家庭教育に関連した学習機会の充実を図る。
教育広報誌発行事業	市民	令和8年3月発行	青少年に関わるさまざまな体験活動や各種情報を発信し、市が取り組む教育活動への理解を深める。
防災教育推進事業	小中学校  「あかたにの家」での防災キャンプにおける避難所設営体験	通年	小学校が防災カリキュラムの一環として行う防災キャンプと中学校が行う防災学習に対して支援を行い、防災教育の推進を図る。

新 発 田 地 区 公 民 館

1 重点事業

- (1) 土曜学習支援事業の推進
- (2) 生涯各期にわたる学習機会を提供する生涯学習講座の充実
- (3) 多様化する高齢期のライフスタイルに合った高齢者大学事業の実施
- (4) 生涯学習課及び各地区公民館との連携

2 事業計画

(1) 生涯学習

事業名	対象	期間等	事業内容
土曜学習支援事業	本庁地区の小学校 4・5・6 年生 及び中学校 1～3 年生 定員 70 人(本庁地区)、30 人(川東地区)	【本庁地区】 5 月～3 月 (全 36 回) 【川東地区】 5 月～3 月 (全 41 回)	子どもたちの学習意欲の向上、学習習慣の定着、居場所づくり、学力向上を図るため、学校、家庭、地域が連携して、土曜日を利用した学習支援を行う。
市民レクリエーション開催事業	市民	「市民釣り大会」 5 月 18 日(日) 「市民将棋大会」 8 月 17 日(日) 「市民囲碁大会」 令和 8 年 2 月 8 日(日)	同じ趣味を持つ人の交流と成果発表のための各種大会を開催し、技術の向上を図る。
生涯学習講座開催事業	市民	5 月～3 月 「脳活書道講座」 「韓国語講座」 「PP バンドかご編み講座」	生涯学習に取り組むきっかけとなる場を提供し、市民の生きがいづくりを提供できる各種講座を開催する。 語学、体育、趣味・教養の向上講座などを計画する。
 アカペラ講座 (R6 年度実施)			

事業名	対象	期間等	事業内容
公民館こども交流 体験事業（オムレ ックラブ）	市内小学生	4月～3月	土曜日を中心に実施し、館外活動や体験学習、伝統文化を通して子どもたちの創造性や自主的な学習意欲を向上させるとともに、仲間づくりやひとづくりを目指す。また、当市の歴史や文化、伝統等を学び、ふるさとを愛する心を育む。 「体験学習コース」 「伝統文化コース」 「夏休み特別コース」 「冬特別コース」「こども将棋」を開催する。
オムレッククラブ体験学習コース「宿泊体験～うどん作り～」			
高齢者大学開催事業 （菖城大学）	各地区のおおむね60歳以上の男女	5月～12月	高齢者社会に対応し、健康で明るく、豊で生きがいのある生活を送ることを目的とし、交通手段や体力的な面から地域での活動を希望する高齢者に対し、各地区に出向いて健康体操、施設研修などの講座を実施する。 9地区各8回開催。
本庁、五十公野、松浦、米倉、赤谷、川東、菅谷、加治、佐々木地区			
			
			
			
モルック体験			
視察研修（新潟市）			

事業名	対象	期間等	事業内容
新潟県公民館連合会参画事業		4月～3月	新潟県公民館大会や各種研修会に参加し、県内公民館職員との交流や研修による職員のスキルアップを図る。
マナビィフェスティバル開催事業	市民	令和8年2月21日(土)～3月1日(日)	生涯学習活動を行う人に活動成果発表と仲間づくりの場を提供する。
手工芸・水墨画、いきいき作品展開催事業	(出品対象種目) 水墨画、陶芸、写真、書道、押し花等	6月12日(木)～15日(日)	手工芸・水墨画等の創作活動の振興を図り、日ごろの活動の成果を発表する場を提供する。



事業名	対象	期間等	事業内容
趣味の展示会運営事業 (エールコーナー)	生涯学習活動団体	通年	趣味活動で作り上げた作品や団体活動の発表ができる「エールコーナー」を通年を通して提供し、支援する。
マイタウンコンサート開催事業 	市民	バンドフェスティバル 11月2日(日)	小規模ホールにふさわしい音楽を提供することにより、文化的な地域づくりの一端を担う。バンドフェスティバルを計画。
文芸しばた発行事業 	市民	10月発刊	市民から文芸作品と運営委員を募り、「文芸しばた」を編集、発行する。冊子を発行・頒布することで、市民の創作意欲を高め、文芸に触れる機会を提供する。

(2) 生涯学習施設の運営・維持管理

事業名	部門等	期間	事業内容
新発田地区公民館・分館維持管理事業	施設維持管理	4月～3月	施設の維持管理を行うことで快適な施設利用を図る。

豊浦地区公民館

1 重点事業

- (1) 生涯にわたる学習機会の提供
- (2) 文化・芸術・芸能活動の場の提供
- (3) スポーツ・レクリエーションを通じた地域コミュニティ活動の推進
- (4) 「しばたの心継承プロジェクト」の推進による学校、地域との連携
- (5) 生涯学習課及び各地区公民館との連携

2 事業計画

(1) 生涯学習

事業名	対象	期間等	事業内容
土曜学習支援事業	小学校４年生 ～６年生及び 中学校１年生 ～３年生	５月～３月 (全３１回)	子どもたちの学習意欲の向上、学習の習慣化、確かな学力の定着・向上を図るため、学校、家庭、地域が連携して土曜日を利用した学習支援を行う。
公民館こども交流体験事業 (チャレンジ真木山キッズ)	小学生・保育園児(ただし、保育園児は一部の体験活動を除く。)	書道：６月～３月 原則毎月第２土曜日１０回、 体験活動(陶芸)：２回、	書道など様々な「体験」活動を通して、楽しみながら子どもたちの創造力及び学習意欲を向上させるとともに、人間関係の形成と「生き抜く力」を育む。
(しばたの心継承活動)	小学生・保育園児	４月～１１月 継承活動 ８回	地域の伝統文化・芸能を学校・保育園の行事等を通じて、子どもたちがしばたの心を継承する支援を行う。
市民教養講座開催事業 (家庭教育講座)	市民(親子)	１２月(１回)	親子クリスマスツリー教室を実施する。
(市民教室)	市民	９月、１０月 (２回)	自分だけの作品作りを楽しみながら文化・芸能祭への出展・参加を視野に入れた陶芸教室を実施する。

事業名	対象	期間等	事業内容
高齢者大学開催事業 (豊浦大学)	60 歳以上	6 月～3 月 年 8 回	高齢者が豊かな人生を送るための学習・交流の場として位置づけ、実生活に役立つ野菜づくり、健康づくりなど、生きがいにつながる講座を実施する。
市民レクリエーション 開催事業	市民	5 月 11 日(日) 10 月 26 日(日) 2 月 15 日(日)	月岡温泉湯ったりウォーク モルック体験会 ボッチャ大会
豊浦地区公民館 維持管理事業	市民・団体・ 機関	通年	施設管理・貸出業務、 図書貸出業務

(2) 芸術・文化

事業名	対象	期間等	事業内容
公民館文化祭開催事業 (豊浦地区文化・芸能祭)	地区公民館を 活動拠点とし ている団体お よび市民	11 月 15 日(土) ～16 日(日)	豊浦地区公民館を活動拠点としている団体及び個人の活動成果を発表する場として位置づける。

(3) 地域コミュニティスポーツ事業・体育施設運営

事業名	対象	期日	会場
① 真木山カップサッカーフェスティバル	県内の ジュニアチーム	5月31日(土) ～6月1日(日) 6月7日(土) ～8日(日)	豊浦総合運動施設多目的 グラウンド
② 豊浦地区ゴルフ大会	市民	6月15日(日) 10月19日(日)	フォレストカントリー倶楽部
③ レッツトライ！ スポーツチャンバラ	市民	7月31日(木) 8月7日(木)	豊浦地区公民館大ホール
④ 豊浦地区野球大会	市民	8月14日(木)	真木山中央公園野球場ほか
⑤ 新発田ジュニア杯 学童野球大会	市内小学生チ ーム	10月25日(土) 10月26日(日)	真木山中央公園野球場 豊浦中学校グラウンドほか
⑥ 豊浦杯バドミントン 大会	市民	12月7日(日)	豊浦体育センター
⑦ スポーツ体験会	市民	随時	真木山中央公園多目的練習 場ほか
真木山中央公園 体育施設維持管理事業	市民・団体	通年	施設管理・貸出業務
豊浦体育センター 維持管理事業	市民・団体	通年	施設管理・貸出業務
豊浦総合運動施設 維持管理事業	市民・団体	通年	施設管理・貸出業務

*①～⑦は豊浦地区スポーツ振興会主催

紫雲寺地区公民館

1 重点事業

- (1) 地域関係団体との連携強化
- (2) 生涯にわたる学習機会の充実
- (3) 土曜学習支援事業の推進
- (4) 生涯学習課及び各地区公民館との連携

2 事業計画

(1) 生涯学習

事業名	対象	期間等	事業内容
市民レクリエーション開催事業 (囲碁将棋大会) 	囲碁将棋 愛好者	2月1日(日)	囲碁・将棋愛好者の技術向上を図るとともに、交流の場を提供する。 伝統文化の継承のため若者の参加をうながす。
市民教養講座 (ボクシングエクササイズ) (一閑張講座)	市民 (18歳以上)	6月～10月	健康を見直し、体力づくりとストレス社会でのリラクゼーション効果を得る機会とする。 また、趣味や芸術文化の学習の場を提供し、市民の生きがいを増進するとともに、学習意欲を支援し、新たな趣味の発見と仲間づくりの場を提供する。

事業名	対象	期間等	事業内容
土曜学習支援事業 	市内小学校4～6年生 市内中学校全学年	5月～3月 土曜日（午後） 全34回	子どもたちの学習意欲の向上、学習の習慣化、確かな学力の定着・向上を図るため、学校・家庭・地域が連携し、土曜日を利用した学習支援事業を実施し、推進する。 学校授業の予習・復習、宿題、問題集や参考書など、各自で教材を用意して自主学習に取り組む場を提供するもの。 教科の疑問・質問・相談は、教員経験者、市民、高校生、大学生など、有償ボランティアによる講師が指導、対応する。 小学生は算数、中学生は数学・英語を基本とする。
公民館こども交流体験事業 （風の子クラブ）	小学生 （4～6年生）	5月～2月 年間10回	土曜日を中心に 野外活動や体験活動、社会奉仕活動などを開催するとともに、地域の高齢者との世代間交流事業を実施する。 子どもの学習意欲を高めるとともに、次代を担う子どもたちの自主性・協調性・創造性を養う。
高齢者大学開催事業 （五葉大学） 	市民 （60歳以上）	5月～3月 年間10回	学級生による運営委員会で学習計画をたて、学習意欲の向上を図り、学習成果を地域に還元し、生きがいにつなげる。
文化・芸術祭開催事業 （紫雲寺地区文化祭）	市民 文化団体	10月25日（土） 10月26日（日）	作品の充実を図るとともに、誰にでも「親しめる・楽しめる」文化祭を実施する。絵画・手工芸など多彩な作品を展示する。

事業名	対象	期間等	事業内容
(子ども芸能音楽祭)	地区内小・中学生	11月9日(日)	地区内の小・中学生が、日頃の練習成果を発揮することができ、また、保護者だけでなく、地域の方々にも子どもたちの成長を感じてもらえる音楽祭。
(芸能音楽祭) 	地区公民館利用団体他	11月9日(日)	紫雲寺地区公民館を利用している活動団体の日頃の練習の成果を発表する場を設け、利用団体の活動意欲の向上と芸能文化の振興に努める。

(2) 生涯学習施設の運営・維持管理

事業名	対象	期間等	事業内容
紫雲寺地区公民館・分館維持管理事業	市民、団体、機関	通年	○施設管理、施設貸出業務 ○図書貸出業務 ○学習情報の提供 ○館内ロビーでのミニ作品展
紫雲寺地区体育施設維持管理事業	市民、団体、機関	通年	○施設管理、施設貸出業務

(3) 青少年育成

事業名	対象	期間等	事業内容
紫雲寺地区青少年健全育成協議会（事務局）	市民	通年	○環境浄化パトロール ○広報「おもいやり」の発行 ○教育振興大会 ○「わが家わが地域の元気っ子」写真コンクール ○れんぎょうパトロール隊の育成と連携強化 ○助成金交付

(4) スポーツ・レクリエーション

事業名	対象	期間等	事業内容
地域コミュニティスポーツ事業 	市民	4月13日(日) 春夏秋冬の3回 6月8日(日) 6月29日(日) 9月24日(水) 1月 12月7日(日) 随時	各種スポーツ大会、教室の開催 (平成25年度から市の委託事業として実施) ○れんぎょう・さくらお花見ウォーク ○紫雲寺地区ゴルフ大会 ○紫雲寺地区ソフトバレーボール大会 ○ハイキング&登山にチャレンジ ○グラウンド・ゴルフ大会 ○卓球大会 ○紫雲寺・レンギョウ吹き矢フェスティバル ○加盟団体及び地区体育振興会への活動助成 ○全国大会、北信越大会出場者への派遣支援 ○紫雲寺スポーツ振興会だよりの発行(年2回)

加 治 川 地 区 公 民 館

1 重点事業

- (1) 生涯にわたる学習機会の充実
- (2) 青少年教育の充実
- (3) 地域関係団体との連携と地域づくりの推進
- (4) 生涯学習課及び各地区公民館との連携

2 事業計画

- (1) 生涯学習

事業名	対象	期間等	事業内容
土曜学習支援事業	加治川・七葉小学校 4～6 年生、 加治川・七葉中学校 1～3 年生、 加治川・七葉小中学校以外の児童・生徒も参加可能 定員 30 人	5 月～3 月 土曜日（午後） （全 37 回）	学校授業の復習・予習、宿題、問題集や参考書など、各自で教材を用意して自主学習に取り組む場を提供する。 教科の疑問・質問・相談は、教員経験者、市民、高校生など、有償ボランティアによる講師が指導する。 主に算数・数学、英語（国語、理科、社会も可）
公民館こども交流体験事業 （わくわく桜体験隊）	市内小学生 小学校 1～6 年生	7 月～3 月 （年間 10 回程度）	小学生を対象として、主に加治川地域の様々な体験学習や創作活動を通して、子どもたちの学習意欲を向上させるとともに、人間関係の形成と「生きる力」を育む。連続コース（全 4 回）と単発コースの 2 コースを計画。 ○内容 スポーツ体験、サマーキャンプ、4 館合同事業、カヌー体験、料理体験など

事業名	対象	期間等	事業内容
市民教養講座開催事業 (歴史講座)	市民	10 月 予定	地域に由来のある歴史講座を開催し、地域の歴史の理解を深めるとともに郷土の魅力を再発見することを目的に講座を開催する。
(園芸講座)	市民 各回定員 24 人	5 月～11 月 (全 4 回)	生き生きとした日常生活を過ごしてもらうため、新たな趣味の発見と仲間づくりの機会とする。
(スキルアップ講座)	市民 定員 15 人	10 月 予定	家庭や地域で役立つ技術を身につけるための講座を開催する。
高齢者大学開催事業 (高齢者団体生涯学習活動支援事業)	加治川地区内の 市民 (概ね 60 歳以上、10 名以上で構成する団体)	通年 4 月～3 月 (随時)	高齢者が豊かで生きがいのある生活を送るため、加治川地区で活動する高齢者団体の生涯学習活動を支援する。
(ラクラク教室)	主に加治川地区内の市民（主に中高年者）	通年 4 月～3 月 (24 回程度)	「心と体を楽にする」をテーマに、気軽に参加できる教室を開催する。 ○内容 体操教室（24 回）
文化・芸能祭開催事業 (加治川地区公民館まつり)	市民	11 月 8 日（土） ～9 日（日）	地域住民の文化活動の発表、展示を行い、学習の成果を披露する機会として開催する。 ○内容 作品展示、芸能発表など

(2) 生涯学習施設の運営・維持管理

加治川地区公民館維持管理事業 (中川分館含む)	市民・団体・機関	通年	○施設管理・施設貸出業務 ○図書貸出業務 ○学習情報・協力業務 ○公民館ガイド発行
加治川地区体育施設維持管理事業 (加治川地区体育館、大天城公園野球場・テニスコート、屋外運動場等)	市民・団体・機関	通年	○施設管理・施設貸出業務

(3) 青少年育成

加治川地区青少年健全育成協議会（事務局）	市民	通年	○小・中学校の活動支援 ○地域環境パトロール ○地域子ども会等の活動支援 ○広報紙「はぐくみ」発行
----------------------	----	----	--

(4) スポーツ・レクリエーション

事業名	対象	期間等	事業内容
市民レクリエーション開催事業（春の大峰山ハイキング）	市民ほか	4月29日	自然への親しみを図り、健康増進に資するため、大峰山ハイキングを実施する。
地域コミュニティスポーツ委託事業（加治川地区公民館地域コミュニティスポーツ委託事業）	市民	（通年） 4月 5月・9月 10月 11月 1月 未定	スポーツを通じて地域住民の健康増進と地域コミュニティの円滑化を図るため、地域コミュニティスポーツ事業を加治川スポーツ振興会に委託し実施する。 （主な振興会実施事業） ○さくらお花見ウォーク ○グラウンド・ゴルフ大会 ○ゲートボール大会 ○テニス大会 ○バレーボール大会 ○親善卓球大会 ○スポーツ体験教室

生涯学習センター

1 重点事業

(1) 研修室等の貸出し、市民のかたらいの場・学習コーナー等の機能の充実

2 事業計画

(1) 生涯学習施設の運営・維持管理

事業名	対象	期間等	事業内容
生涯学習センター維持管理事業	施設維持管理	通年	施設管理・貸出業務

(2) 視聴覚ライブラリーの運営

内容	対象	期間等	事業内容
視聴覚機器教材の貸出	登録団体	通年	視聴覚機器・教材の貸出事業 不良・破損や不要教材等の分別整理

※ 令和6年度貸出状況（参考）

区分		所有数	貸出数
利用状況	利用団体数	—	34団体
	観覧者数	—	962人
教材	DVD	62本	0本
	ビデオ	649本	0本
	16mmフィルム	525本	3本
機材	プロジェクター	2台	26回
	スクリーン	4台	20回
	16mm映写機	1台	1回
	書画カメラ	1台	0回

青少年健全育成センター・児童センター

1 基本方針

当市における青少年の健全育成については、「豊かな心と広い視野をもち、自主性・社会性・創造性に富んだ子ども」の育成を目指し、「自ら学ぶ意欲と思いやりのある心」、「さまざまな社会の変化に主体的に対応できる力」、「新発田への愛着と人に対する敬意や誇り」の育成を重点目標に掲げ施策を推進する。

「深めよう絆」をモットーに学校、家庭、地域社会における望ましい人間関係の再構築を図るとともに、街頭指導活動や青少年健全育成活動等、地域社会が一体となった育成活動を行う。

さらに、関係機関との密接な連携のもと、ボランティア活動をはじめとした社会参加活動や体験活動を重視し、子どもたちにこうした機会や場を積極的に提供することにより、深刻ないじめや非行問題の解消を図り、青少年の「生きる力」の育成に努める。

2 重点施策

- (1) 新発田青少年健全育成市民会議をはじめ、青少年育成団体等との連携を図りながら、青少年健全育成の充実と青少年団体の活動の活性化を推進する。
- (2) 少年補導委員による市内各所への巡回活動を実施するとともに、「愛の一声運動」を積極的に推進し、青少年の健全育成を図る。
- (3) 児童センター及び児童運動センター「ユウネスしばた」において、折々の行事を実施し、遊びの指導と体力増進を図る。
- (4) 19 児童クラブにおいて、就労等により昼間家庭にいない児童等に適切な遊びや生活の場を提供し、健全育成を図る。
- (5) 放課後子ども教室において、放課後の児童の安全・安心な居場所の確保と多様な活動の場を提供する。
- (6) 各種事業を周知するため、ホームページをはじめとした周知方法の工夫を図るとともに、学校や関係機関との連携を進め、学生ボランティアの育成を強化する。

<子どもまつり>



<フットサル教室>



3 事業計画

【令和7年度 青少年健全育成センター事業計画】

事業	内容
1 遺児激励事業	遺児が心身ともに明るく健全に成長することを願い、もって遺児家庭の福祉の増進を図るため、各種事業を実施する。
2 青少年地域活動推進事業	地域・関係機関等が一体となり市内全中学校区独自の活動を行う各種健全育成活動を推進するため、新発田青少年健全育成市民会議へ事業委託する。
3 青少年育成組織への活動支援助成事業	青少年健全育成の推進のため、新発田青少年健全育成市民会議に活動助成を行い、少年団体や地域育成協議会等の関係団体相互の連携強化及び活動の充実を推進する。
4 少年補導活動運営事業	市内各所での補導活動や青色回転灯装着車両を活用した不審者対策等を実施し、青少年の健全育成を図る。

【令和7年度 児童センター事業計画】

事業		対象	内容
1 児童センター活動事業 (児童センター・児童運動センター「ユウネスしばた」での遊びの指導・体力増進)	体で遊ぼう	小学生	○ドッジボールやなわとびなどの遊びを通して、子ども達の交流と体力増進を図る。
	ユウネスしばた行事	幼児～小学生	○講師の指導によるかけっこやパラスポーツなどの遊びの場を提供し、子ども達の体力増進や施設の利用促進を図る。
	学生ボランティア	中学生～大学生	○行事等への参加を通じて、子ども達との関わりを体験する。
2 児童クラブ運営事業	放課後児童健全育成事業	小学生	○19児童クラブにおいて、就労等により昼間家庭にいない保護者が養育する児童等に適切な遊びや生活の場を提供する。
3 放課後子ども教室推進事業	学校・家庭・地域の連携促進事業	小学生	○外ヶ輪、猿橋、二葉の3小学校の児童を対象として、放課後に学習や様々な体験・交流活動を実施し、健全育成を図る。

《 資 料 》

1 歴代教育委員等一覧

氏 名	期 間
原 清七	S27.11. 1 ～ S31. 9.30
酒井 環	S27.11. 1 ～ S31. 9.30
高 橋 規 策	S27.11. 1 ～ S30. 4.17
中 野 林 八	S27.11. 1 ～ S31. 9.30
吉 田 重 男	S27.11. 1 ～ S32. 4.30
関 久	S27.11. 1 ～ S38. 1. 5
大 沼 藤 雄	S30. 4. 1 ～ S31. 9.30
湯 浅 順 次	S30. 4. 1 ～ S31. 9.30
肥田野才之丈	S30. 4. 1 ～ S31. 9.30
加 藤 清 吉	S30. 4. 1 ～ S31. 9.30
田 巻 精 二	S30. 4. 1 ～ S31. 9.30
森 俊童	S30. 4. 1 ～ S31. 9.30
佐 藤 精 一	S30. 4. 1 ～ S31. 9.30
肥田野 文治	S31.10. 4 ～ S34. 6.29
高 沢 敬 信	S31.10. 4 ～ S37.10. 5
増 田 大 秀	S31.10. 4 ～ S37. 5.12
川瀬 新太郎	S32. 5.20 ～ S34.10. 3
栗 林 米 造	S34. 6.30 ～ S41. 3.31
梨本 彦一郎	S34.10.30 ～ S38.10.28
戸 石 政 恕	S37. 9.29 ～ S43.10. 3
井上 美一郎	S37.10. 5 ～ S45.10. 3
高 沢 哲 史	S38. 7. 9 ～ S48.10. 3
石山 平四郎	S38.12.19 ～ S46.12.18
大森 清太郎	S41. 4. 1 ～ S43.10. 3
阿 部 修 一	S43.10. 4 ～ S51.10. 3
吉 田 久 平	S44. 3. 1 ～ S52. 2.28
北 条 文 雄	S46. 6.29 ～ S52.11.30
渡 辺 義 平	S46.12.24 ～ S54. 3.31
宮 村 太 郎	S50. 6.27 ～ S54. 6.26
尾 谷 新 三	S51.12.15 ～ S58. 7.27
高橋 恂三郎	S52. 3. 5 ～ S60. 3. 4
山 口 哲 夫	S53. 3. 3 ～ S54. 6.28
高橋 剛	S54. 6.29 ～ S62. 6.28
佐 藤 泰 彦	S54. 6.28 ～ S62. 6.27
本間 不二夫	S54.12.24 ～ S62.12.23

氏 名	期 間
熊 倉 竜 夫	S58. 9.13 ～ S63.12.14
渡 辺 秀 晃	S61. 4. 1 ～ H 6. 3.31
長谷川真智子	S62. 6.29 ～ H 7. 6.28
桂 重房	S62. 6.28 ～ H 7. 6.27
斉 藤 斌	S62.12.24 ～ H 7.12.23
内 山 格	S62.12.15 ～ H 8.12.14
鈴 木 明 夫	H 6. 4. 1 ～ H11. 3.31
佐久間明 三	H 7. 6.29 ～ H15. 6.28
中 村 弘 正	H 7. 6.29 ～ H15. 6.28
樋 口 義 健	H 7.12.24 ～ H11.12.23
桂 宏	H 8.12.15 ～ H17. 7. 6
白 井 茂 夫	H11. 4. 1 ～ H15. 6.30
増 子 哲 夫	H11.12.14 ～ H15.12.23
大久保 久	H15. 6.29 ～ H19. 6.28
大滝 昇	H15. 7. 1 ～ H22.11.30
関 根 信 行	H15. 7. 7 ～ H17. 7. 6
高 山 威 彦	H16. 4. 1 ～ H20. 3.31
小泉 茂	H17. 7. 7 ～ H19. 7. 6
中野 俊	H17. 7. 7 ～ H19. 6.30
山 田 真 嗣	H19. 7. 1 ～ H23. 3.31
中 村 直 美	H19. 7. 7 ～ H23. 7. 6
今 井 延 子	H19. 6.29 ～ H23. 6.28
岸 本 正 智	H20. 4. 1 ～ H24. 3.31
塚 野 純 一	H22.12.27 ～ H25. 2.28
鈴 木 佳 秀	H23. 4. 1 ～ H27. 3.31
籠島 由美子	H23. 7. 7 ～ H27. 7. 6
外 山 陽 子	H23. 6.29 ～ H29. 3.31
大 山 康 一	H25. 3. 8 ～ H27. 3.31
小 池 庸 子	H29. 4. 1 ～ R 2. 3.31
桑原 ヒサ子	H27. 4. 1 ～ R 4. 3.31
関川 直	H24. 4. 1 ～ R 6. 3.31
笠 原 恭 子	H27. 7. 7 ～
村 川 孝 子	R 2. 4. 1 ～
山 崎 由 紀	R 4. 4. 1 ～
石坂 均	R 6. 4. 1 ～

歴代教育委員長

氏名	期間
原 清 七	S27.11. 1 ～ S29.11.14
高 橋 規 策	S29.11.15 ～ S30. 4.17
吉 田 重 男	S30. 4.18 ～ S31.10. 3
関 久	S31.10. 4 ～ S37.10. 4
梨本 彦一郎	S37.10.16 ～ S38.10.28
戸 石 政 恕	S38.11.11 ～ S43.10. 3
井上 美一郎	S43.10. 7 ～ S45.10. 3
吉 田 久 平	S45.10. 9 ～ S46.10. 8
	S48.10. 4 ～ S50.10. 3
高 沢 哲 史	S46.10.11 ～ S48.10. 3
北 条 文 雄	S50.10. 4 ～ S52.11.16
高橋 恂三郎	S52.11.17 ～ S54. 3.21
尾 谷 新 三	S54. 3.22 ～ S58. 7.27
佐 藤 泰 彦	S58. 8.10 ～ S62. 6.27
本間 不二夫	S62. 6.28 ～ S62.12.23
斉 藤 斌	S62.12.28 ～ H 7.12.23
中 村 弘 正	H 7.12.26 ～ H15. 6.28
大 久 保 久	H15. 6.29 ～ H19. 6.28
山 田 真 嗣	H19. 7.11 ～ H22.12.16
岸 本 正 智	H22.12.17 ～ H24. 3.31
関 川 直	H24. 4. 6 ～ H27. 3.31

歴代教育長

氏名	期間
酒 井 環	S27.11. 1 ～ S31. 9.30
肥田野 文治	S31.10. 4 ～ S34. 6.29
栗 林 米 造	S34. 6.30 ～ S41. 3.31
石山 平四郎	S41. 4. 1 ～ S46.12.18
吉 田 久 平	S47. 1. 1 ～ S47. 7.31
渡 辺 義 平	S47. 8. 1 ～ S54. 3.31
高橋 恂三郎	S54. 4. 1 ～ S60. 3. 4
本間 不二夫	S60. 4. 1 ～ S62. 3.31
渡 辺 秀 晃	S62. 4. 1 ～ H 6. 3.31
鈴 木 明 夫	H 6. 4. 2 ～ H11. 3.31
白 井 茂 夫	H11. 4. 1 ～ H15. 6.30
大 滝 昇	H15. 7. 1 ～ H22.11.30
塚 野 純 一	H22.12.27 ～ H25. 2.28
大 山 康 一	H25. 3. 8 ～ H27. 3.31

新教育委員会制度（平成27年4月改正）施行後

氏名	期間
大 山 康 一	H27. 4. 1 ～ H30. 3.31
山 田 亮 一	H30. 4. 1 ～ H30.10.17
工藤 ひとし	H31. 4. 1 ～

2 各種委員

(1) 新発田市同和教育推進協議会委員

(任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日)

選出区分	氏名	備考
第1号委員 (学識経験者)	坂井 智	
	小柳 龍史	
	高橋 加代子	
	大川原 さとみ	
	小野澤 珠子	
	渡辺 睦夫	
	伊與部 博	
	馬場 政雄	
第2号委員 (小中学校長・高等学校長)	中野 隆一	住吉小学校長
	関川 紀博	七葉小学校長
	廣田 徳昭	猿橋中学校長
	藤原 靖也	七葉中学校長
	土田 利康	御免町小学校長 (小学校長会長)
	長谷川 裕高	第一中学校長 (中学校長会長)
	石黒 浩司	新発田高等学校長
第3号委員 (社会教育関係団体役員)	小室 千代子	連合下越地域協議会
	磯部 勇	小・中学校PTA連合会
第4号委員 (行政関係職員)	渡邊 正裕	人権啓発課長
	彌源治 仁伺	学校教育課長

(2) 新発田市いじめ防止対策等に関する委員会委員

(任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日)

氏名	専門分野	備考
有田 正知	精神保健	医師
猪俣 博英	教育分野	元・中学校校長
古田 潤子	青少年健全育成	新発田市青少年健全育成センター所長
齋藤 徹	社会福祉	新発田市社会福祉協議会事務局長
中川 雅博	法律	弁護士
森本 成彦	社会福祉	新潟県中央福祉相談センター 事務専門幹

(敬称略・五十音順)

(3) 新発田市学校運営協議会（東豊小学校）委員

(任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日)

選出区分	氏名	備考
第1号委員 (対象学校が所在する地域の住民)	粕谷 弘之	豊町1・2丁目町内会会長
	本間 紀夫	豊町3・4丁目町内会会長
	長谷川 修栄	東新町西町内会会長
	中野 義雄	東新町2丁目町内会会長
	佐藤 大輔	東新町3丁目町内会会長
	今井 雅康	東新町4丁目町内会会長
	今井 峰夫	高浜町内会会長
第2号委員 (対象学校に在籍する児童又は生徒の保護者)	菅家 基史	東豊小学校PTA会長
	松本 力	東豊小学校PTA副会長
第3号委員 (対象学校の運営に資する活動を行う者)	栗原 勉	学校評議員
	波多野 龍行	学校評議員
	安田 将和	学校評議員
	東 洋正	学校評議員
	畑山 多恵子	学校評議員
	三浦 紀子	学校評議員
第4号委員 (対象学校の校長)	飯塚 進	東豊小学校校長
第5号委員 (対象学校の教職員)	金子 康太郎	東豊小学校教頭
	中村 美恵子	東豊小学校主幹教諭
	神田 章	東豊小学校教務主任
第8号委員 (その他教育委員会が適当と認める者)	小沼 一久	育成協議会会長

(4) 新発田市文化財調査審議会委員

(任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日)

	氏 名	専 門 分 野	備 考
学 識 経 験 者	伊 藤 喜 行	歴史	新発田郷土研究会会員
	時 田 一 雄	歴史	元短期大学校教授
	大 沼 長 榮	歴史・古文書	新発田古文書解読研修会会員
	松 川 滋 子	美術・工芸	工芸作家
	若 林 泰 子	美術	下越美術会会員
	鈴 木 耕 一	歴史・古文書	紫雲寺古文書に親しむ会会長
	鈴 木 秋 彦	民俗・歴史	新発田郷土研究会理事
	大 川 戸 フ ミ	歴史	新発田市観光ガイドボランティア協会会長

(5) 新発田市文化財保存活用地域計画協議会委員

(任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日)

選 出 区 分	氏 名	備 考
地域住民 ボランティア	高 橋 眞 一	新発田市自治会連合会会計
	大 川 戸 フ ミ	新発田市観光ガイドボランティア協会会長
関係団体 民間企業	石 川 富 夫	新発田郷土研究会会長
	西 村 純 子	街角こんぱす(株)代表取締役
	高 澤 健 爾	新発田商工会議所専務理事
	樋 口 英 明	新発田市観光協会事務局長
所有者・管理者保存団体	佐 藤 隆 男	(一財)北方文化博物館副館長、清水園園長
小・中学校	藤 原 靖 也	新発田市中学校長会、新発田市立七葉中学校校長
専門機関	坂 井 秀 弥	奈良大学名誉教授、新潟市歴史博物館館長
	伊 藤 喜 行	新発田市文化財調査審議会委員長
行 政	萬 歳 真 紀	新潟県観光文化スポーツ部文化課課長
	渡 辺 貴 守	新発田市観光振興課課長

(6) 新発田市立図書館協議会委員

(任期：令和5年7月1日～令和7年6月30日)

選 出 区 分	氏 名	備 考
学 校 教 育 関 係	清 水 謙 一	川東中学校長
	齋 藤 博 敏	佐々木小学校長
社 会 教 育 関 係	加 藤 康 雄	社会教育委員
	芦 田 隆	公民館運営審議会委員
家庭教育の向上に 資する活動を行う者	中 野 佐代子	加治川読書クラブ
	田 中 三枝子	おはなしのとびら代表
学 識 経 験 者	高 澤 健 爾	新発田商工会議所専務理事
	富 川 尚	敬和学園大学教授
	伊 藤 美江子	新発田市立図書館利用者友の会
	前 田 恵 子	新発田古文書解読研修会幹事長

(7) 新発田市社会教育委員

(任期：令和7年6月1日～令和9年5月31日)

氏 名	法 区 分	備 考
岡 崎 功 一	学校教育関係者	新発田市小学校長会
森田 華菜子	学校教育関係者	新発田市中学校長会
桐 生 正 栄	社会教育関係者	新発田市子ども会連合会
渡 邊 定 雄	社会教育関係者	青少年育成等
大久保 美 幸	家庭教育	新発田国際交流委員会かけはし
加 藤 康 雄	学識経験者	元新潟県社会教育委員
富 川 尚	学識経験者	敬和学園大学（人文学部教授）
森 文 雄	学識経験者	大学非常勤講師
清 野 敏 子	学識経験者	民生委員
金 井 ふみ子	学識経験者	元高校教諭

(8) 新発田市公民館運営審議会委員

(令和7年6月1日～令和9年5月31日)

選 出 区 分	氏 名	備 考
学校教育関係者	関 川 紀 博	七葉小学校長
社会教育関係者	中 村 明	高齢者大学参加者
	小 林 信 一	版画同好会「版志会」代表
	岩 崎 三 希 子	みきの会代表
	齋 藤 や よ い	己書講座講師
	三 宮 広 大	ギター講座講師
	兼 田 隆	新発田市スポーツ少年団 加治川硬式テニス代表
	片 山 恵 美 子	楊名時健康太極拳（片山教室）代表
学識経験者	芦 田 隆	元紫雲寺地区公民館長
	近 忠 浩	デッサン講座講師

(9) 新発田市民文化会館運営審議会委員

(令和6年4月1日～令和8年3月31日)

選 出 区 分	氏 名	備 考
文化団体の代表者	五十嵐 ミネ	豊浦地区文化団体
	増 田 千 穂 子	紫雲寺地区文化団体
社会教育関係団体の代表者	井 上 隆	ミュージックファンクラブ
	小 島 慎 二	新発田ジャズ倶楽部
	石 川 美 佐 子	新発田市合唱連盟
	能 仲 咲 子	ファイア・オ・カフラしばた教室
	渡 辺 千 鶴	スタジオ・ブルー
知識経験を有する者	森 田 華 菜 子	佐々木中学校
	関 川 紀 博	七葉小学校
関係行政機関の職員	野 崎 光 晴	新発田地域広域事務組合

※上記委員のうち森田委員及び野崎委員については令和7年4月1日から委嘱

(10) 新発田市青少年問題協議会委員

(令和7年度)

選出区分	氏名	備考
会長（市長）	二階堂 馨	新発田市長
1号委員（副市長）	渡 邊 毅	新発田市副市長
2号委員（教育長）	工 藤 ひ と し	新発田市教育長
3号委員（関係行政機関の長）4名	阿 部 昭	新発田警察署長
	南 澤 豊	新発田地域振興局健康福祉環境部長
	斎 藤 博 教	新潟地方法務局新発田支局長
	石 沢 明 美	新発田児童相談所長
4号委員（学識経験者）10名	小 竹 聖 一	西新発田高等学校長（高等学校長協会）
	今 野 由 紀 子	新発田市立東中学校長（中学校長会）
	須 貝 克 徳	新発田市立豊浦小学校長（小学校長会）
	小 出 隆 一	新発田青少年健全育成市民会議会長
	海 老 井 修	新発田市自治会連合会副会長
	桂 重 之	新発田市小・中学校PTA連合会理事
	藤 間 淑 則	新発田市少年補導委員会副会長
	田 代 隆 子	新発田市民生委員児童委員連合会副会長
	大 波 朝 治	豊浦地区青少年健全育成協議会長
	服 部 美 穂	紫雲寺地区青少年健全育成協議会運営委員

(11) 新発田市青少年健全育成センター運営審議会委員

(令和7年度)

選出区分	氏名	備考
1号委員（関係行政機関の職員）2名	野 呂 一 博	新発田警察署生活安全課長
	澤 田 将 幸	新発田地域振興局健康福祉環境部副部長
2号委員（関係団体の役員）5名	松 田 直 也	新発田青年会議所副理事長
	駒 澤 勲	新発田市小・中学校PTA連合会理事
	小 出 隆 一	新発田青少年健全育成市民会議会長
	藤 間 淑 則	新発田市少年補導委員会副会長
	櫻 井 賢 七	新発田地区交通安全協合理事長
3号委員（学識経験者）3名	中 野 義 雄	新発田市自治会連合会理事
	服 部 大 祐	紫雲寺地区青少年健全育成協議会運営委員
	大川原さとみ	しばた虹っ子クラブ会長
4号委員（小中学校・高等学校の校長 または教頭）2名	堀 田 正 秀	加治川中学校長
	小 竹 聖 一	西新発田高等学校長
5号委員（児童民生委員）2名	畑 田 洋 一	新発田市民生委員児童委員連合会副会長
	籠 島 道 子	新発田市民生委員児童委員連合会児童部長
6号委員（社会福祉協議会の役員）	田 中 利 光	新発田市社会福祉協議会副会長

(12) 新発田市少年補導委員会委員

(令和7年度)

	氏 名	備 考		氏 名	備 考
1	山 口 幸 雄		21	石 栗 英 敏	東小
2	田 代 隆 子		22	五 日 市 美 穂	住吉小
3	渡 邊 悟		23	神 田 章	東豊小
4	中 山 真由美		24	日 下 部 友 大	本丸中
5	藤 間 淑 則		25	竹 内 文 比 古	第一中
6	齋 藤 富美子		26	市 橋 伸	猿橋中
7	福 島 清 行		27	本 間 誠 道	東中
8	清 野 敏 子		28	加 藤 育 志	豊浦中
9	矢 川 安 子		29	六 井 啓 一 郎	紫雲寺中
10	池 戸 理		30	渡 邊 剛	加治川中
11	小 林 真由美		31	谷 川 永 一 郎	新発田高
12	上 野 純 一		32	村 山 智 明	西新発田高
13	中 野 悠 志		33	小 田 雅 之	新発田南高
14	齋 藤 美 恵 子		34	石 澤 剛	新発田農高
15	五十嵐 繁弘		35	桃 井 雅 史	新発田商高
16	栗 山 香		36	澤 田 圭 介	新発田中央高
17	山野 邊 美 毅	外ヶ輪小			
18	戸 松 隆 行	猿橋小			
19	神 田 洋 志	御免町小			
20	高 山 晶 子	二葉小			

3 学校教育関係団体一覧

団体名	代表者氏名	事務局等	
		所在地	幹事氏名
新発田市小学校長会	土 田 利 康	外ヶ輪小学校	角 直 浩
		猿橋小学校	磯 部 裕 之
		豊浦小学校	須 貝 克 徳
		東豊小学校	飯 塚 進
		川東小学校	岡 崎 功 一
		加治川小学校	丸 山 久 志
		佐々木小学校	金 平 弘之郎
新発田市中学校長会	長谷川 裕 高	東中学校	今 野 由紀子
新発田市小学校教頭会	大 石 康 範	猿橋小学校	笠 原 良 樹
		住吉小学校	小 栗 玲
新発田市中学校教頭会	清 野 正 康	東中学校	長谷川 直 紀
		加治川中学校	廣 澤 正 文
新発田市立学校教育研究協議会	磯 部 裕 之	猿橋小学校	大 石 康 範
新発田市立幼稚園教育研究会	加 藤 直 美	御免町幼稚園	加 藤 直 美
新発田市小学校教育研究会	角 直 浩	外ヶ輪小学校	佐 野 亮 太
新発田市中学校教育研究会	廣 田 徳 昭	猿橋中学校	高 山 雄 一
新発田市小学校体育連盟	飯 塚 進	東豊小学校	河 野 祐 希
新発田市中学校体育連盟	小野沢 謙 一	本丸中学校	皆 川 将 太
新発田地区小中学校警察等連絡協議会	今 野 由紀子	東中学校	本 間 誠 道
新発田市小学校図書館協議会	金 平 弘之郎	佐々木小学校	高 橋 美貴子
新発田市中学校図書館協議会	若 月 隆 雄	川東中学校	皆 川 加代子
三市北蒲原郡特別支援教育推進地区協議会	工 藤 ひとし	市教委事務局	岡 田 崇 宏
新発田市特別支援教育推進委員会	工 藤 ひとし	市教委事務局	岡 田 崇 宏
学校保健会新発田支部	土 田 利 康	市教委事務局	彌源治 仁 伺
新発田市学校給食運営協議会	須 貝 克 徳	市教委事務局	笹 木 美智子
三市北蒲原郡地区理科教育センター	阿 部 英 幸	生涯学習センター内	高 橋 弘 幸
新発田教科書センター	彌源治 仁 伺	市教委事務局	田 邊 和 史
新発田市小・中学校PTA連合会	後 藤 仁義志	東小学校	渡 邊 正 樹
新発田市教育支援委員会	工 藤 ひとし	市教委事務局	岡 田 崇 宏
新発田市同和教育推進協議会	坂 井 智	市教委事務局	松 田 和 博

4 市立教育施設一覧

幼稚園

(令和7年5月1日現在)

学番	学校名	所在地	電話番号	学級数	園長氏名	副園長氏名
1	ごめんまち 御免町幼稚園	大栄町4-5-17	22-4536	1	加藤 直 美	—

小学校

(令和7年5月1日現在)

学番	学校名	所在地	電話番号	学級数	校長氏名	教頭氏名
1	とがわ 外ヶ輪小学校	中央町5-8-9	22-2549	19	角 直 浩	佐 野 亮 太
2	さるはし 猿橋小学校	中曽根町3-8-29	22-2123	32	磯 部 裕 之	大 石 康 範 笠 原 良 樹
3	ごめんまち 御免町小学校	大栄町4-5-33	22-2216	25	土 田 利 康	片 野 一 輝
4	ふたば 二葉小学校	中田町3-6-1	22-2164	18	近 藤 幸 栄	中 島 美千子
5	ひがし 東 小学校	五十公野4862	22-3641	20	五十嵐 潤	渡 邊 正 樹
6	かわひがし 川東小学校	下羽津1938	25-2009	9	岡 崎 功 一	川 崎 英 樹
7	ななは 七葉小学校	黒岩66	29-3305	14	関 川 紀 博	中 村 克 行
8	ささき 佐々木小学校	則清856	27-2011	8	金 平 弘之郎	水 澤 公 彰
9	すみよし 住吉小学校	住吉町3-6-22	24-1148	26	中 野 隆 一	小 栗 玲
10	とうほう 東豊小学校	東新町4-10-8	23-5075	24	飯 塚 進	金 子 康太郎
11	とようら 豊浦小学校	大伝465-2	22-2034	18	須 貝 克 徳	関 慎太郎
12	しうんじ 紫雲寺小学校	稲荷岡2389	41-2022	15	鈴 木 真 史	五十嵐 敦 志
13	かじかわ 加治川小学校	上今泉366-1	33-2435	13	丸 山 久 志	高 澤 元

中 学 校

(令和7年5月1日現在)

学番	学校名	所在地	電話番号	学級数	校長氏名	教頭氏名
1	ほんまる 本丸中学校	緑町2-7-22	22-2525	21	小野沢 謙 一	菊 地 清 勝
2	だいいち 第一中学校	御幸町4-5-25	23-1151	14	長谷川 裕 高	渡 邊 正 則
3	さるはし 猿橋中学校	住吉町1-7-1	23-1175	26	廣 田 徳 昭	高 山 雄 一
4	ひがし 東 中学校	五十公野4981	22-3824	10	今 野 由紀子	長谷川 直 紀
5	かわひがし 川東中学校	下羽津1566-1	25-2011	4	若 月 隆 雄	八 木 克 洋
6	ななは 七葉中学校	上館乙84-2	22-3524	7	藤 原 靖 也	山 田 絵美子
7	ささき 佐々木中学校	則清102	27-2505	4	森 田 華菜子	小 出 祐 一
8	とようら 豊浦中学校	乙次50	24-4492	8	笹 木 綾 子	清 野 正 康
9	しうんじ 紫雲寺中学校	真野原外3499	41-4000	8	五十嵐 めぐみ	青 山 亮
10	かじかわ 加治川中学校	川口330	33-2214	8	堀 田 正 秀	廣 澤 正 文



御免町幼稚園

住 所 新発田市大栄町4丁目5番17号
TEL 0254-22-4536
FAX 0254-22-4937

1 園の概要

(1) 創立 昭和42年4月1日

(2) 教職員



園長 加藤 直美

教諭	3	養護教諭		事務職員	
講師		学習補助員			
介助員		用務手	1		
預かり	1				

(3) 学級編制

学年	未満児	3歳児	4歳児	5歳児	計
学級数				1	1
男				2	2
女				1	1
計	0	0	0	3	3

2 地域の概要

- 市街地に近く、住宅地に立地している。御免町小学校に隣接しており小学校の取組を目にすることができる環境にある。
- 南公園にも近く、散歩に行き四季折々の変化を感じながら十分に身体を動かしたり、地域住民と挨拶を交わしたりしながら関わったりしている。
- 園児数が減少しているが、保護者や地域住民は幼稚園教育に関心が高く協力的である。

3 教育目標

- みんなと仲良く遊び、自分の力を伸ばしていく子ども

4 園の課題（伸ばしたいところ）

- 人とのかかわる力の育成
 - ・身近な人と気持ちのよい挨拶をする。
 - ・保育者や友達と一緒に好きな遊びに十分取り組む。
 - ・一人一人のよさを発揮し、互いのよさに気づき、認め合う。
 - ・遊びや活動の中で、感動や思い、考えたことを自分なりに表現する。
 - ・思いを伝え合ったり受け入れたりしながら、友達と協同して遊ぶ。

5 園の経営方針

- 職員の基本姿勢
 - ・職員一人一人が主体的、創造的に園務遂行に当たる。和と協力を大切にし、協同の力が発揮できるように努める。
 - ・教師は進んで研修に参加し、専門性の向上に努める。
 - ・一人一人の幼児に対する理解を深める。幼児との信頼関係を築き、心の安定を図るように努める。
- 豊かな人間性や社会性の基礎を育む
 - ・幼児期にふさわしい教育を行う
 - ・遊びを通して総合的な指導を行う教育
 - ・幼児期の特性を踏まえ環境を通して行う教育
 - ・幼児の興味関心に基づいた直接的な体験が得られる教育

6 年度の重点目標

- 自分で考え、工夫する子ども
- 豊かな心で、友達と仲良く遊ぶ子ども
- 体が丈夫で、最後までがんばる子ども

7 年度の努力事項

- 環境構成の工夫
- 仲間関係の育成
- 学年・学級経営の工夫
- 家庭・地域との連携

8 研修・研究

(1) 研究主題

人と関わる力の育成

～ 一人一人のよさを発揮しながら友達と協同して遊ぶための活動の在り方を探る ～

わたしの!! ともだちの!! みんなの!!

「いいね」があふれる幼稚園を目指します

～自己肯定感の育成～

(2) 研究内容

- 5歳児：

友達と思いを出し合いながらよさを認め、折り合いを付けて遊びを進められるようになるための活動の在り方を探る。



外ヶ輪小学校

住 所 新発田市中央町5丁目8番9号
 TEL 0254-22-2549
 FAX 0254-23-7203
 URL <http://togawa.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 明治25年10月7日

(2) 教職員



校長 角 直浩



教頭 佐野 亮太

教諭	21	養護教諭	1	用務手	1
講師	1	介助員	9	事務職員	1
助教諭	1	補助教員	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	2	1	2	2	2	2	8	19
男	13	14	23	28	18	31	28	155
女	22	13	24	28	19	25	11	142
計	35	27	47	56	37	56	39	297

2 地域の概要

○学区は新発田市の中心部に位置し、市役所をはじめ、警察署、市民文化会館、市立歴史図書館、生涯学習センター等の公共施設が集中している。

○地域住民は、教育活動への理解が深く、協力的である。新発田まつりパレードや木遣り等を熱心に子どもたちに指導してくれている。

○文化祭では、PTA役員を中心に「外ヶ輪フェスティバル」を開催し、子どもと保護者、そして教職員の絆を深めている。

3 教育目標

ともに伸びゆく
 ～ かかわる つづける ふりかえる ～

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

<外ヶ輪っ子に育てたい資質・能力4つのキーワード>

【主体性】

・ねばり強く挑戦し続ける主体性や主体的に判断し行動する力

【学び合う力】

・認め合い、高め合うコミュニケーション能力

【問題解決力】

・自ら課題を見だし、見通しをもって主体的に解決しようとする問題発見・解決力

【活用力】

・学んだことを生かし、よりよいものを求める活用力

5 学校の経営方針

<目指す学校の姿>

- かかわりの中で、お互いに信じ合い、高め合い、認め合う学校
 - ◎ 人を信じることができる人物に育ってほしい
 - ◎ 人のかかわりの中で、お互いに高め合う人間関係を築いてほしい
 - ◎ 相手を思いやり、認め合いながら、あたたかな居場所（学校）をつくってほしい
- 外ヶ輪小学校の色を創造し、鮮やかにするためのスローガン「チェンジ チャレンジ チャンス」
 - ◎チェンジ
 - ・「既成の型」にこだわらない意識
 - ◎チャレンジ
 - ・目標をもち、「挑戦」しようとする力
 - ◎チャンス
 - ・ピンチの時こそ成長できるという意識
- 子どもたちの「笑顔」「人権」「命」を守る学校

6 年度の重点目標

- (1) 主体的に学び、かかわり合う中で、考えを深める子
 - ・タブレット端末の活用などの実践研究の推進
 - ・主体的、対話的で深い学びを目指した授業改善の推進
 - ・児童の実態に合わせたテスト、まなチャレの活用
 - ・情報活用能力の基礎となる読解力の育成
- (2) よいことを習慣とし、気持ちを伝え合い、互いのよさに気が付く子
 - ・児童主体のあいさつ運動の推進
 - ・活動を通して自己有用感や人間関係の育成
 - ・社会性やよい習慣を身に付けた子どもの育成
 - ・困り感を抱えた子どもの早期発見と即時対応によるいじめの起きにくい学校づくりの推進
- (3) 仲間と一緒に、ねばり強く運動し、元気に生活する子
 - ・運動に向かう意欲の向上
 - ・体力向上のめあてや振り返りの場の設定
 - ・よい生活習慣が身に付くための家庭への働き掛け

7 年度の努力事項

- (1) 教育課題の明確、学校評価の着実な実施
- (2) 教育課程の実施・評価・改善の取組
- (3) いじめ、不登校の未然防止
- (4) 校内教育相談体制の強化
- (5) 学校支援地域本部事業の推進
- (6) 働き方の見直し、業務改善
- (7) 安全・防災教育の推進

8 研修・研究

(1) 研究主題

主題：主体的に学び かかわり合う中で 考えを深める子

副題：各教科における深い学びを目指した対話的活動の工夫

(2) 研究内容

- ① 主体的にかかわるための課題設定の有効性の検証
- ② 考えを深めるための対話的活動の有効性の検証



猿橋小学校

住 所 新発田市中曽根町3丁目8番29号
TEL 0254-22-2123
FAX 0254-22-5892
URL <http://saruhashi-e.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 明治7年3月

(2) 教職員



校長 磯部 裕之



教頭 大石 康範



教頭 笠原 良樹

教諭	40	養護教諭	1	栄養教諭	2
事務職員	2	講師	3	非常勤講師	2
介助員	13	用務手	1	SSS	1
図書事務	1	給食運搬	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	3	3	3	3	3	3	14	32
男	47	37	35	35	38	44	62	298
女	43	38	50	48	55	48	8	290
計	90	75	85	83	93	92	70	588

2 地域の概要

以前は猿橋村として新発田町の西方に位置していたが、昭和18年町村合併により鴻沼村とともに新発田町に合併となり、その後昭和22年市制施行により新発田市となった。

学区は、新発田市の中央部に位置し、14町内からなっている。新旧混在している地区である。

また、地域の教育に対する関心が高く、期待も大きい。校区には「猿橋中学校区 すこやかな子どもを育てる会」があり、健全育成に関わる様々な活動を行っている。平成30年度、学校支援ボランティアを「瑠玖良サポーター」として組織化し、保護者・地域住民の学校教育への参画が一層促進している。

3 教育目標

つながり 高め合い みんなでつくる 瑠玖良校
～ ともに きらきら かがやこう ～

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

【分かる・できるを実感する力】

学んだことや経験したことを振り返り、自分で得た学びを自覚し、自分のものに子ども

【かかわる力】

積極的にいろいろな人とかかわり、思いや考えを聞いたり、伝え合ったりする子ども

【つくり出す力】

これまでの学びや経験を基に、新たな情報を得たり、他者と協力したりしながら、よりよい考えを形にする子ども

【思いやる力】

他者との違いを認め、相手の気持ちを考えて行動できる子ども

【やり遂げる力】

自ら進んで自分の成長のために目標を決め、目標に向かって最後までやり遂げる子ども

5 学校の経営方針

教育目標に込めた願い

【**つながり** とは】 子ども同士のつながりはもとより、子どもたちを取り巻くあらゆるつながりを指す。人とつながることを通して学びを深めたり、思いやりの心を育んだりしていく。

【**高め合い** とは】 さまざまなかかわりを通して、共に高め合う子どもの姿であり、正に「瑠玖良」という建学の精神、切磋琢磨を意味する。

【**みんなで作る** とは】 「みんな」は、子どもたち・保護者・地域住民・教職員など、猿橋小学校に関わる全ての人々を指す。「みんなで作る みんなの学校」それが新たに目指す「瑠玖良校」である。

【**ともに きらきら かがやこう** とは】 子どもも、保護者も、地域住民も、教職員もともにきらきらとかがやく学校を目指す合い言葉である。

150周年記念事業を終え、さらなる飛躍をめざしてチーム猿橋で取り組む！

6 年度の重点目標

《知育》

○他者とかかわり、自分の思いや考えを伝えることができる子どもを育てる。

○学んだことを振り返り、身に付けたことを自覚することができる力を育てる。

《徳育》

○他者とのつながりを意識し、親切にしたり、思いやりたりすることができる子どもを育てる。

○友達と仲良く協力し、助け合える集団を育てる。

《体育》

○自分でめあてを決め、進んで運動や生活改善に取り組む態度を育てる。

○活動を振り返り、身に付けた技能や記録の伸びを実感できる子どもを育てる。

7 年度の努力事項

○市教育委員会同和教育推進委託事業を受け、人権教育、同和教育を推進する。

<生きて働く学力の定着>

○仲間と対話しながら、自らの学びを実感することができる授業の実施

○UDLの視点を生かした学習環境整備と授業づくりと「学習3原則」及び「た・い・わ」に基づいた学習規律の確立

○家庭学習の習慣化

<思いやりの心と社会性の育成>

○つながりマナー（さんづけ、ルールを守る、はいと返事、しずかに聞く）を身に付けさせるための授業や集会活動等の実施

○かかわる同和教育を土台とした、他者のよさや違いを認め合う人間関係づくり

○児童の発想や主体性を生かした挨拶習慣化の取組の実施

<自ら運動や生活改善に取り組む態度の育成>

○体力向上に向けた基礎的な技能の育成と自らの学びを実感できる授業の実施

○運動する楽しさや喜びを体感できる場の設定と評価方法の工夫

○基本的生活習慣の確立に向けた保健指導・栄養指導、家庭と連携した元気アップ週間の実施

8 研修・研究

(1) 研究主題

差別を自分事として捉え、共に立ち向かおうとする子どもの育成

(2) 研究内容

○自分の中の「心の弱さ」を見つめるための手立て

○人権学習に対して「ブラスイメージ」をもつための手立て



御免町小学校

住 所 新発田市大栄町4丁目5番33号
 TEL 0254-22-2216
 FAX 0254-24-4610
 URL <http://gomenmachi.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 明治6年2月19日

(2) 教職員



校長 土田 利康



教頭 片野 一輝

主幹教諭	1	教諭	27	養護教諭	1
事務職員	1	講師	1	介助員	10
用務手	1	S S S	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	2	3	3	3	3	3	8	25
男	22	38	32	37	33	32	36	230
女	30	45	34	42	33	41	17	242
計	52	83	66	79	66	73	53	472

2 地域の概要

- 学区は新発田市のほぼ中央部に位置し、古くからの地区と新興住宅地が混在している。
- 清水園、足軽長屋、諏訪神社、寺院など、城下町の歴史的な文化遺産を随所にとどめている。新発田まつりの台輪を継承している地区も多い。
- 地域住民は学校教育に関心が高く、協力的である。

3 教育目標

「みんなとともに生き 自分の力をせいいっぱい
 伸ばしていく子ども」

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 主体的・意欲的に学ぼうとする態度、身に付けた基礎・基本を活用して課題解決を図るための「考える力」をさらに高めたい。
- 自らの課題に挑戦し、自らの力で乗り越えていく強さ、自分を大切にし、他者も思いやれる優しさをさらに育てたい。
- より高い目標に向かって挑戦し、達成感を味わう中で自信を深めさせたい。また、学校生活を楽しむための前向きな生活習慣を定着させたい。
- 子どもたちの心を育てるために、人の思いや生き方を学ばせたい。

5 学校の経営方針

- 学校経営方針の要に郷土愛育成を据え、次に示す四つの取組を力強く推進する。
 - ・ふるさとを愛する子どもの育成
→生活科、総合的な学習の時間の改善、充実
地域素材を取り入れた授業
 - ・認め合い、助け合う職場環境の構築
→職員の得意分野を生かした交換授業
失敗に寛容な支持的風土
 - ・家庭や地域と連携・協働した教育の推進
→学校での取組の情報発信
地域の人材を活用した授業
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の推進
→「子どもまんなか授業」の具現
個に応じた課題と自己調整

6 年度の重点目標

- 学習に主体的・意欲的に挑戦する態度を身に付けさせる（知育）
 - ・考えを述べ合って思考する集団を育成する。
 - ・考えさせることや体験活動を大切に、容易に剥がれない知識を獲得させる。
- 自他をつなげる優しい心と未来を切り拓く粘り強さを育てる（徳育）
 - ・互いに認め合い、優しさを発揮し合える集団を育成する。
 - ・『失敗』することを学びの原点とし、その都度きちんと考えさせる。
- 向上心を持ち、目標達成に挑戦する気力・体力を育てる（体育）
 - ・仲間とともに楽しく運動に親しむ集団を育成する。
 - ・向上心と挑戦意欲を持ち、諦めないで続ける態度を身に付けさせる。

7 年度の努力事項

- 特別支援教育が学校教育の基礎であるという捉えのもと、個の実態を踏まえた教育を行う
- 特活的思考方を重視し、「本気で取り組む特別活動」を実施する
- 「教師が教える授業」から「児童が考える授業」へ
- 相互の考えを認め合いながら学習する集団の育成
- 思考力の向上に結び付く良質な問いの提供
- 言葉による指導だけでなく、「体験」を共有させて学ばせる
- 子どもたちを信じ、「活動」させる中で相互理解させる
- 「失敗」から学ばせながら「振り返り」を丁寧に経験させ、賞賛できるまで繰り返し支援する
- 声を掛け合い楽しみながら運動に取り組む場の提供
- 健康的な生活習慣の定着に向けた全校あげでの取組
- 運動を通して達成感を味わわせる場の提供
- 個の生活実態に応じた家庭と協働した取組

8 研修・研究

(1) 研究主題

協働的な学びを通して、自ら主体的につながる子ども

(2) 研究内容

- 次に示す授業づくりで大切にする「主体的に学ぶための三つの『つながる』柱」をどのように工夫すれば、子どもたちが自ら学びを深めることにつながるのかを、実践を通して検証していく。
- 「学習内容・教材」とつながる（課題提示の工夫等）
- 「他者」とつながる（対話、協働場面の設定等）
- 「自分」とつながる（振り返りの活用等）



二葉小学校

住 所 新発田市中田町3-6-1
TEL 0254-22-2164
FAX 0254-22-6690
URL <http://futaba.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和39年4月1日

(2) 教職員



校長 近藤 幸栄



教頭 中島 美千子

教諭	22	養護教諭	1	事務職員	1
講師	5	補助教員	1	栄養教諭	1
栄養士	1	用務手	1	介助員	6
SSS	1	給食運搬	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	2	2	2	2	2	2	6	18
男	22	21	25	24	23	28	27	170
女	28	21	23	29	19	24	11	155
計	50	42	48	53	42	52	38	325

2 地域の概要

二葉小学校は昭和39年に開校した。その後まもなく昭和41年と42年の水害で、地域は大きな被害を受けた。このことから、当校は、現在防災教育に力を入れ、いのちを大切に、いのちを守る教育を重視している。

地形としては、加治川が地域を流れ、広々とした田園と近代的な町並みとを併せもつ地域である。また、保護者を始め、祖父母や地域の学校に対する関心と期待の高さが感じられる風土である。平成27年度PTA文部科学大臣表彰を受けた。地域と学校で組織する「二葉ネットワーク」も平成29年度に文部科学大臣表彰を受けた。地域と学校が連携・協働して教育活動を推進している。

3 教育目標

たくましく 生きる 二葉っ子

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

【知育】

- ・ 児童の憧れや困り感、疑問等からめあてや課題を設定し、それらを協働して追求し、振り返りを大切にした授業を構成することで、主体的に学習に取り組む意欲、態度を育成する。
- ・ ツールを活用した協働的な活動や自他の考えを説明し合う活動を設定し、それらを活かす個の活動を組み合わせることで、試行錯誤しながら見通しをもって学ぶ力を育む。

【徳育】

- ・ 道徳教育、人権教育、同和教育、縦割り班活動等を通して、自他を大切に思いやりをもってかかわる態度と行動力を育む。
- ・ いじめをしない・許さない・見逃さないを合い言葉に、行動（相談）することができる子どもを育成する。

【体育】

- ・ 自分の課題を見付け、さらなる体力向上に取り組む態度を育成する。
- ・ 月に一度の食育指導を通して、食に関心をもち、自己の健康管理をする態度を育成する。

5 学校の経営方針

○ 目指す学校像

- ・ ルールの守られた安心・安全な学校・学級
- ・ リレーションあふれる学校・学級
- ・ 家庭・地域との連携・協働し地域とともに歩む学校

○ 目指す児童像

- ・ お互いを認め合い、自他の生命を尊重できる子
- ・ 学校（学級）に必要とされている実感をもつ子

○ 目指す教職員像

- ・ 子どもを「分かってもらう」教職員
- ・ 子どもの困り感に寄り添い話を「聴く」教職員
- ・ 子どもとともに考え、自己決定を促す教職員
- ・ 子どものリソースを見つけ、伸ばす教職員
- ・ 子どもの未来を考え、成長への期待を込めて、適切に、指導・支援する教職員

6 年度の重点目標

◎ ふるさと（新発田）が好きで、夢や希望へ向かって学び続ける子

【知の育ち】主体的に学習に取り組む子

- ・ 授業が「分かる」「学ぶ楽しさ」を実感する子
- ・ 試行錯誤しながら、見通しをもって取り組む子
- ・ 学習状況を振り返り、自分の成長を実感する子

【徳の育ち】自他を尊重し大切にする子

- ・ 自他を大切に、思いやりをもってかかわる子
- ・ いじめをしない・許さない・見逃さない子

【体の育ち】心身の健康管理ができる子

- ・ 課題を見付け、さらなる体力向上に取り組む子
- ・ 食に関心をもち、健康管理ができる子

7 年度の努力事項

- (1) 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を図る。
- (2) 子どもが安心して学ぶことができる学級経営の充実を図る。
- (3) 社会性の育成を重点に置いた発達支持的・課題予防的な生徒指導を推進する。
- (4) 健やかな体力づくりの充実を図る。
- (5) 特別支援教育の考え方を教育の原点とする。

8 研修・研究

(1) 研究主題

子どもが動き出す授業の創造
～主体的に学習に取り組む子を目指して～

(2) 研究内容

① 充実した学習プロセス

【目的】 「授業が『分かる』楽しさを実感し、主体的に学習に取り組む子」の育成

【方法】 ・ 授業づくりに関する全体研修の実施
・ 年3回のプロジェクト支援訪問を活用した知識の習得と実践方法の理解と推進

② しばたの心継承プロジェクト

【目的】 しばたの心継承プロジェクトを中核とし新発田のよさやそこに携わる人の思いを知り、それらを大切にしていこうとする心や態度の育成

【方法】 ・ 地域の人材や団体、企業、NPO、行政等と協働した教育活動の展開
・ 保護者・地域・学校評議員による学校評価と公開

③ 資質・能力の重点

【目的】 人、もの、こととのかかわりを通して、課題や学びに気づき、自己の力を発揮する態度の育成

【方法】 ・ 日常から子どもを「分かってもらう」とし、子どもの話を「聴く」学校風土の醸成
・ 「貢献」できる喜びを味わう場の設定



東小学校

住 所 新発田市五十公野 4 8 6 2 番地
T E L 0 2 5 4 - 2 2 - 3 6 4 1
F A X 0 2 5 4 - 2 2 - 8 6 4 4
U R L <http://higashi-e.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 平成 3 0 年 4 月 1 日

(2) 教職員



校長 五十嵐 潤



教頭 渡邊 正樹

教諭	23	養護教諭	1	事務職員	1
講師	4	補助教員		栄養教諭	1
介助員	7	用務手	1	学校看護師	1

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	2	2	2	2	2	2	8	20
男	17	19	18	19	20	31	32	156
女	34	15	22	23	29	32	8	163
計	51	34	40	42	49	63	34	319

2 地域の概要

平成30年度に松浦小、五十公野小、米倉小の3校が統合し、誕生した学校である。学区は広大であり、住宅地や農村部、さらには山間地もあるなど、自然豊かな地域である。

地域の方々は学校に対して協力的で、家庭と学校が共同して教育活動を行うことができるものと考え。令和元年度に東小学校後援会が立ち上がり、物心両面にわたる支援をいただいている。また、通学支援ボランティアの方から、子どもたちの登下校の見守りを行っていただいている。地域の学校に対する期待は大きい。

3 教育目標

ともに伸びる 元気な子ども

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

【知育】

- ・主体的に取り組む態度
- ・筋道を立てて考える力
- ・聞き合い、話し合う力

【徳育】

- ・認め合い、差別を許さない態度
- ・相手を思いやる心
- ・ふさわしい言葉遣い

【体育】

- ・基本的な生活習慣についての理解
- ・体力を保持増進に進んで取り組む態度

5 学校の経営方針

基本方針

- ◎自分も相手も大切にする子
～自分が好き 人が好き 学校が好き～
- 子ども一人一人の成長をともに喜ぶあたたかい学校

- (1) 安心できる心づくり
- (2) ともに認め合い高まろうとする集団づくり
- (3) 子どもを「主語」にした授業づくり
- (4) 人権教育、同和教育の推進
- (5) 安心・安全な学校

6 年度の重点目標

【知育】

共に考え、かかわり合って問題解決する子ども

【徳育】

自分や他の人のよさや違いを認め合って、自分も相手も大切にする子ども

【体育】

進んで運動を行う習慣や基本的な生活習慣を身に付け、健康的な生活をする子ども

7 年度の努力事項

【知育】

- 基本学習タイムでの基礎基本の習熟と徹底
- 東小スタンダードに基づく、深い学びの評価基準を明確にした授業実践
- 「聴く」意識を高める場の設定

【徳育】

- 通年のあいさつ運動と「さん付け呼称」の運動
- 人権教育、同和教育の視点に立った道徳授業の充実
- いじめや不登校、問題行動等の早期発見と即時対応

【体育】

- 児童が自己の目標に向かって粘り強く取り組むことができることに主眼をおいた指導実践
- 保護者と連携した基本的な生活習慣定着に向けた取組
- 体力向上プログラムの見直し、体育授業の充実

8 研修・研究

(1) 研究主題

自分の生き方を見つめ、他者を尊重する子どもの育成

(2) 研究内容

- ①児童が自分事として捉えられる資料の提示
- ②他者との違いを知覚し、対話する場の設定
- ③考えの深まりとともに設定される真の問いの追求



川東小学校

住 所 新発田市下羽津1938番地
TEL 0254-25-2009
FAX 0254-25-2911
URL <http://kawahigashi-e.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 平成26年4月1日

(2) 教職員



校長 岡崎 功一



教頭 川崎 英樹

教諭	11	養護教諭	1	栄養教諭	1
事務職員	1	介助員	3	用務手	1
給食運搬員	1	S S S	1	講師	1

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	1	1	1	1	1	1	3	9
男	7	5	10	10	16	14	9	71
女	10	7	11	9	14	12	2	65
計	17	12	21	19	30	26	11	136

2 地域の概要

当校は、新発田駅から南東へ約5.9km、二王子岳を東に望み、加治川の清流の恵を受けた田園地帯にある。地域には、「教育村川東」の伝統が引き継がれており、教育に関心が高く、学校に対して協力的である。

3 教育目標

「かしこく やさしく たくましく」

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 基礎学力の定着
- 社会的・職業的自立の基礎的能力や態度
- 自己有用感や人間関係を築く能力
- よりよい集団づくりのための社会性の育成
- 健康的な基本的生活習慣の定着

5 学校の経営方針

ふるさとを愛し 夢や目標をもち
進んで学び合う子ども

ふるさとを愛し【あい】
人と仲よくかかわり【ひと】
自分をみつめ【じぶん】
自分らしく生き【いきる】
未来を切り拓く子【みらい】

<学びの合言葉>
「夢や目標」に向かって
チャンス・チャレンジ・チェンジ
<生活の合言葉>
いじめ・差別をしない、許さない
やさしい川東っ子

6 年度の重点目標

<まなびの重点目標>
進んで学び合い、確かな学力を身に付ける子ども
○学校生活アンケートで「国語や算数の学習が分かる」と答える児童が80%以上にする。
○学校生活アンケートで「関わり合いを通して、自分の考えが広がったり、深まったりした」と答える児童が80%以上にする。
<こころの重点目標>
いじめ・差別をしない、許さないやさしい子ども
○学校生活アンケートで「友達や自分のよさががんばりを認めている」と答える児童が80%以上にする。
○学校生活アンケートで「進んであいさつができる（自分からあいさつする・あいさつをしっかりと返す）」と答える児童が80%以上にする。
<からだの重点目標>
進んで運動し、健康的に生活する子ども
○学校生活アンケートで「体育や運動に関連する行事でめあてに向かって一生懸命取り組んだ」と答える児童が90%以上にする。
○メディアコントロールウィークでメディア使用の目標時間を達成した児童が85%以上にする。

7 年度の努力事項

進んで学び合い、確かな学力を身に付ける子ども
○学んだことを説明できるようにする学習指導
○意欲を高めて自ら学ぼうとする学習習慣の定着

いじめ・差別をしない、許さないやさしい子ども
○ルールとリレーション（人間関係）指導と教育相談の充実
○人間関係形成能力を高める活動

進んで運動し、健康的に生活する子ども
○体力実態に基づいた体力向上の取組
○健康に生活するための好ましい生活習慣の定着

8 研修・研究

- 研究主題
関わり合いを通して学びを深める子どもの育成
- 研究内容
◎関わり合いをもとに学びを深める授業づくり研修の実施
 - ・新発田市授業スタンダードを意識した授業研究
 - ・ICT機器を用いた授業づくり等に関する研修
 - ・NRT、NINOの分析と補充指導
 - ・その他伝達講習など



七葉小学校

住 所 新発田市黒岩 6 6 番地
T E L 0 2 5 4 - 2 9 - 3 3 0 5
F A X 0 2 5 4 - 3 1 - 2 0 1 2
U R L <http://nanaha-e.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和 4 5 年 4 月 1 日

(2) 教職員



校長 関川 紀博



教頭 中村 克行

教諭	14	養護教諭	1	事務職員	1
講師	1	補助教員	1	助教諭	1
介助員	5	用務手	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	1	1	1	2	2	2	5	14
男	17	10	16	22	18	19	24	126
女	6	8	12	18	21	17	6	88
計	23	18	28	40	39	36	30	214

2 地域の概要

○学区は櫛型山脈西側に広がる水田地帯にある。加治川地域に隣接しながら、二王子岳山麓まで広がる。令和 3 年度に旧菅谷小学校と統合し、学区がより広範囲となり、北西は胎内市に隣接する。

○国道 7 号線沿いの新興住宅地域と旧集落の水田地域に分けられる。新興住宅地の児童数が全体の 7 割を占めている。

3 教育目標

自分を高め
みんなとともに
生きる子ども

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

○学ぶ意欲を持ち、ともに学び合い、思考力、判断力、表現力を伸ばす。

○自分や友達のように気づき、共感的な人間関係を築く。

○進んで運動し、体力の向上や心身の健康づくりに取り組む。

5 学校の経営方針

笑顔あふれる七葉

○人権教育、同和教育を中核に据えた教育活動

＜教育活動を行う上での 3 つの視点＞

・自他の大切さを認め合う態度・行動

・相手を尊重する態度

・自分自身の言動を問い続ける感性

○「七葉愛！」愛情をもって児童へ、保護者へ、地域へ、同僚へ接する。

○「認め合い」「学び合い」「鍛え合い」3 つの「合い」で愛情と信頼を基に、誇りと自信、謙虚な心で七葉小学校の子どもたちの教育に携わる。

○子どもを尊敬し、子どもの全部を受け止めていく。傾聴し、自己決定を促し、支援することで、自己肯定感の向上を目指していく。

6 年度の重点目標

【知】ともに学び、確かな学力を身に付ける子ども

・対話から考えを深める・広める

・学習したことが分かる・できる・使える

【徳】温かな人間関係を築ける子ども

・自分からあいさつをすることができる

・自他を大切にしたい態度・言動ができる

【体】すすんで運動し、健康的に生活する子ども

・自分の健康を考えて生活できる

・めあてに向かって運動を楽しむ

7 年度の努力事項

(1) 教育の源は愛情

(2) チーム七葉

教職員みんなで声を出し、情報を共有し合う。

(3) すべての教育活動の土台となる人権教育、同和教育 子どもたちに寄り添い、あたたかい学級、学校の風土を培っていく。

(4) 特別支援教育の充実と特別支援教育の目

子どもの困り感に寄り添い、子どもの声、保護者の声を聞き、特別支援教育の目で教育にあたる。

(5) 地域との連携・協働

地域の人、もの、ことを活用した授業実践を行い、連携・協働を進め、地域学校協働体制を構築していく。

(6) ICTを活用した授業

「一人一台端末」を活用し、子どもたちや教師のスキルの向上を目指す。

8 研修・研究

(1) 研究主題

自分を、みんなを大切にして、共に伸びようとする子どもの育成

～対話を通して自分や他者と向き合い、

互いを尊重し合う態度と実践力を育てる～

(2) 研究内容

①人権教育、同和教育の視点に立った教育活動の取組

② 6 年間を見通した人権学習「きずな」の授業実践

③保小中連携、家庭・地域連携の取組



佐々木小学校

住 所 新発田市則清856番地
TEL 0254-27-2011
FAX 0254-27-2275
URL <http://sasaki-e.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 明治35年7月10日

(2) 教職員



校長 金平 弘之郎



教頭 水澤 公彰

教諭	9	養護教諭	1	事務職員	1
講師	0	補助教員	0		
介助員	2	用務手	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
男	6	13	10	13	14	8	8	72
女	11	7	5	7	9	5	4	48
計	17	20	15	20	23	13	12	120

2 地域の概要

- 学区は、新発田市の西部に位置し、新発田市街、聖籠町、新潟市北区に近接している。18区約1,200世帯からなっている。
- 当地区は、稲作を中心とする田園が広がっているが、旧国道7号周辺には西部工業団地があり、工場も多い。
- 共働きの家庭が多いが、保護者及び地域住民は学校教育に対して理解があり、協力的である。

3 教育目標

- 自分で深く考える子
- 思いやりをもって助け合う子
- がんばってやりとげる子

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 学びに向かう力の向上（主体性・学習意欲）
- 思いやりの心の育成
- 体力・健康の向上
- 特別な支援が必要な児童へのケア

5 学校の経営方針

「一人一人が輝き、幸せな学校」

子どもたちは、個性的で、それぞれ違ったよさをもったかけがえのない存在である。当校では、子どもたち一人一人の学習意欲や知的好奇心を引き出し、授業や学校生活で子どもたち一人一人の個性が輝く学校づくりを推進していく。学校で子どもたち一人一人の存在を認め尊重することで、心の内に幸せ感を湧き起こす。そして、一人一人の子どもたちが幸せ感から表出するうれしそうな笑顔や楽しそうな笑顔を引き出すことができる学校が「幸せな学校」である。

そんな笑顔あふれる子どもたちを育てるために学校職員、保護者、地域の方々皆で力を合わせて、子どもたちの成長を支えていく。そして、かかわる大人たちも子どもたちからの笑顔がうつり、皆が笑顔になる学校にしたい。学校生活を、子どもたちが楽しむ、先生も楽しむ、保護者・地域の方も楽しむ、そんな幸せな学校の実現を目指す。

6 年度の重点目標

【知育】

- (1) 学習が分かる、できる喜びを実感できる子
- (2) 進んで家庭学習に取り組む子

【徳育】

- (1) しっかりとあいさつや返事をする子
- (2) お互いを認め合い、協力し合う子

【体育】

- (1) 運動を楽しみ、進んで運動する子
- (2) 自分が食べられる量を決められる子

7 年度の努力事項

- (1) 「対話を通した深い学び」の実現
- (2) 習熟度確認と個別指導の機会の確保
- (3) 「しばたの心継承プロジェクト」の充実
- (4) 「基本的な生活習慣（あいさつ・返事）」の定着
- (5) 「温かい人間関係」の醸成（学級・たてわり班）
- (6) 人権感覚を高める「人権教育、同和教育」の推進
- (7) 運動の楽しさを実感させる体育学習の展開
- (8) 「健康的な生活習慣」の定着
- (9) 「食とみどりの新発田っ子プラン」の充実
- (10) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
- (11) 安心・安全に過ごせる学校環境づくりの推進

8 研修・研究

(1) 研究主題

- 対話を通して、自己の考えの変容と深まりを自覚し主体的に学ぶ子どもの育成

(2) 研究内容

- 対話による子どもの変容を促すとともに、見方・考え方を働かせられる深い学びを目指す。
 - ① 対話を通して、考えが深まる手立てを工夫する。場や働きかけを明確に位置付けた授業を行う。よりよい対話の要件を探る。
 - ② 対話の質を支える学級づくりを工夫し、互いに考えを抵抗なく伝え合える学級風土を醸成する。子どもが「自分らしい学び方」を選択できる柔軟な学習環境を整える。



住吉小学校

住 所 新発田市住吉町3丁目6番22号
 TEL 0254-24-1148
 FAX 0254-23-3993
 URL <http://sumiyoshi.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和53年4月1日

(2) 教職員



校長 中野 隆一



教頭 小栗 玲

主幹教諭	1	教諭	32	養護教諭	1
事務職員	2	講師・助教諭	3	補助教員	0
介助員	9	用務手	1	SSS	1
地域Co.	1	図書館事務	1	給食運搬	1

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	3	3	3	3	3	3	8	26
男	38	31	42	46	38	39	45	279
女	37	36	32	42	41	54	9	251
計	75	67	74	88	79	93	54	530

2 地域の概要

学区の南側をJR白新線が通り、近年、西新発田駅を中心に宅地開発と同時に大型店の進出により、交通量が多くなった。

地域住民は、学校教育に理解があり、行事やその他教育活動に対して大変協力的である。

3 教育目標

助け合い、進んで学習するたくましい子ども

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

当校は、保護者と学校職員がパートナーとなり、互いを尊重し、力を合わせて教育と子育てを行っている。具体的にはPTA活動の充実など、連携した教育を推進している。

また当校は、市の課題ならびに、学区内に同和地区と人権啓発のための拠点施設である隣保館があることを受け、教育の基盤を「人権教育、同和教育の充実」に置き教育活動を進めている。児童一人一人に人権感覚と実践的態度の育成を図るとともに、職員が児童一人一人に寄り添うことによって、人権や差別の問題を自分の問題としてとらえられるような指導の充実をさらに図っていく。認め合い、支え合い、高め合う経験を通して、将来の自立に向け、たくましく生きていく力を付けることを柱として学校づくりを進めている。

5 学校の経営方針

- (1) 一人一人に寄り添い、響き合う学校づくり
- (2) 自分も他の人も大切にすることの育成
- (3) 高いチーム力で取り組む教職員
 - ① 目標と手段の共有
 - ② 自分の役割と使命の理解
 - ③ コミュニケーション
- (4) 教育活動の根底におくこと
 - ① そこに愛はあるのか
 - ② 居場所づくり・絆づくり
 - ③ 転んでも起き上がる力

6 年度の重点目標

- (1) かかわる力の育成
 - ・ 自分もみんなも大切にすること
- (2) 学力の向上
 - ・ 互いの考えを認め、学び合える子ども
- (3) 体力向上・健康増進
 - ・ 互いのよさを認め、楽しく運動する子ども
 - ・ 正しい生活習慣を身に付ける子ども

7 年度の努力事項

- (1) かかわる力の育成
 - ① 人権や差別の問題を自分の問題としてとらえる「じんけん」学習の充実（人権教育、同和教育の充実）
 - ② 学級集団、異学年集団の人間関係づくり能力の育成
 - ③ 「チャットタイム」等による相談活動の実施
- (2) 学力の向上
 - ① 「聞く力」「話す力」の育成
 - ② 授業構想の工夫（板書計画）
 - ③ にいがた学びチャレンジの活用
- (3) 体力向上・健康増進
 - ① 体育授業におけるグループ学習の活用
 - ② 家庭と連携したパワーアップ週間の実施
 - ③ タブレットを活用した授業の実施

8 研修・研究

(1) 研究主題

自分の差別意識を見つめ、差別に立ち向かおうとする
 思いを強める子どもの育成
 ～同和問題をはじめとする様々な差別問題から
 自分を見つめ直す授業実践を通して～

(2) 研究内容

- ① 同和問題をはじめとする様々な差別問題（社会にある差別問題）と、対象児を核とした学級内の問題を扱った授業や単元の開発（資料発掘）を行う。
- ② 授業や単元において、自己の差別意識をより深く見つめ、差別解消に向けて立ち向かおうとする思いを強める指導過程、指導法を明らかにする。
- ③ 差別に立ち向かおうとする思いを強めた具体的な姿を明らかにする。



東豊小学校

住 所 新発田市東新町4丁目10番8号
TEL 0254-23-5075
FAX 0254-23-5189
URL <https://toho.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和63年4月1日

(2) 教職員



校長 飯塚 進



教頭 金子 康太郎

主幹教諭	1	養護教諭	1	地域CO・SSS	1
教諭	29	用務手	1		
講師	4	事務職員	1		
介助員	6	図書館事務	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	3	3	3	3	3	3	6	24
男	43	43	36	44	44	35	32	277
女	45	45	42	52	47	50	9	290
計	88	88	78	96	91	85	41	567

2 地域の概要

旧市街地の東部に位置する校区は、住宅地域と農村地域の二つの地域から成り立っている。学校周辺は新興住宅地に変容し、児童数が急増した。それに伴って、平成8年度には6教室の校舎増築が行われた。

学校周辺には田園風景も見られ、清楚な教育環境にあるが、通学路には、交通量の多い県道米倉・板山・新発田線と同新発田・津川線が横切っている。また、校区内には、新しく宅地造成が進み、今後の住宅の増加が見込まれる。

地域や家庭の学校教育に対する関心は高く、協力的である。さらに一層の連携強化を図っていく。

3 教育目標

- 【知育】 かしくく
- 【徳育】 なかよく
- 【体育】 たくましく

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 【知育】
 - 自ら課題を見付け、思いや考えを伝える。
 - 学習内容を深く理解し、知識や技能を身に付ける。
 - 自分の考えを深化、変容させる。
- 【徳育】
 - 友達を思いやり、寛容性・協調性をもって仲良くする。
 - 相手や場にふさわしい言葉遣いや接し方をする。
 - 自他の有用感を高めるために、主体的に行動する。
- 【体育】
 - 健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む。
 - 健康・安全についての知識と基本的な運動技能を身に付ける。
 - 運動や健康に関する課題解決に向けて試行錯誤しながら何度も取り組む。

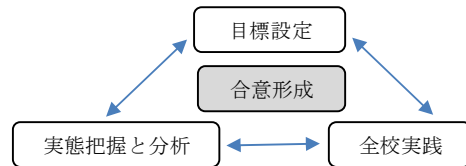
5 学校の経営方針

【目指す学校像】

「人を大切にし、人から大切にされる和やかな学校」

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現
- (2) 豊かな人間関係の構築
- (3) 試行錯誤しながらも最後まであきらめないたくましさの育成

【達成のための実践サイクル】



6 年度の重点目標

【目指す子ども像】

- (1) 自分のよさを発揮し、自分らしく生き生きと過ごす子ども
 - 自己有用感の育成
 - 一人一人の居場所の確保
- (2) 友達の気持ちを分かちあえられる子ども
 - 行動の背景の確認
 - 「どうしてそうしたのか」理由の確認
- (3) 知的好奇心をもち、友達と協力しながら学ぶ子ども
 - 課題設定までの過程の工夫
 - 自己の考えの深化、変容への意識化
 - 指示よりも賞賛、提示による視覚化

7 年度の努力事項

【知育】

- 単元における指導内容の検討や、ワークテストの結果分析を学年で行う。
- 「家庭学習1学年1取組」について、各学年の目指す子どもの姿及びそれを具現化するための手立てを学年で学期ごとに検討する。
- 職員の資質向上を目的とした校内研修に参加する。

【徳育】

- 児童会と連携した「思いやり月間」の取組を学期に1回以上実施する。
- 各学期に1回以上、ねらいや振り返りを大切にしたい「あいさつ」に関する取組を全校一斉に実施する。

【体育】

- 児童の実態を考慮して、全学年でパワーアップ週間に合わせ、事前・事後指導を行う。
- 全学年が学期ごとに過程を連携したパワーアップカードの記入を実施する。
- 学期毎に全学年で重点単元を決め、場や人数ルールなどを工夫したり、最低限身に付けさせたい力を設定したりして体力づくりに取り組む。

(1) 研究主題

本気になって学ぶ子ども
～「対話的に学ぶ」授業づくり・組織づくりを目指す～

(2) 研究内容

- ① 授業研究において、「本気になって学ぶ子ども」の姿（目指す子どもの姿）を設定し、具現化するための手立てを探る。
- ② 授業研究後の協議会において、具体的な子どもの姿を根拠に対話し、手立ての有効性や「本気になって学ぶ子ども」の在り方を探る。
- ③ 各種校内研修を踏まえ、教師自身の学びを対話や省察によって振り返り、自らの子ども観や授業観、「本気になって学ぶ子ども」の在り方を探る。



豊浦小学校

住 所 新発田市大伝465番地2
T E L 0254-22-2034
F A X 0254-23-7002
U R L <https://toyoura-e.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 令和3年4月1日

(2) 教職員



校長 須貝 克徳



教頭 関 慎太郎

教諭	21	養護教諭	1	事務職員	1
助教諭	1	補助教員	1	S S S	1
介助員	6	用務手	2	図書事務	1
給食運搬	1				

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	2	2	1	2	2	2	7	18
男	21	19	17	18	26	26	31	158
女	17	23	14	23	21	24	10	132
計	38	42	31	41	47	50	41	290

2 地域の概要

中浦小、本田小、天王小、荒橋小が統合して令和3年4月に開校した学校である。学区の多くは田畑であり、豊かな自然に恵まれた農村地帯である。小坂、興野地区の梅林園、滝沢地区の水芭蕉の群生地、乙次地区の真木山公園といった、四季を楽しめる恵まれた地域である。「美人の湯」で有名な月岡温泉やゴルフ場施設があり、多くの観光客が訪れる。また、乳牛を飼育する牧場や地場産の新鮮な野菜や特産物を販売する大規模な商業施設がある。地域の人は温順であり、地域の伝統を大切にし、学校の教育活動に大変協力的である。

3 教育目標

- 校訓 「伸びる。ともに伸びる」
- 自分で決める
 - 人を大切にする
 - 問い続ける

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

◎挑戦 和 更新

〈挑戦〉

子どもたち自らが目標をもち「挑戦」しようとする力を育てる。困難を乗り越え、成長できたと実感できる経験、振り返りの場を設定する。

〈和〉

多様性と包摂性が重視される中、子どもと保護者の価値観や考え方を受容し、和をもって接する。

〈更新〉

「既成の型」「これまでどおり」にこだわらない意識をもつ。子どもたち主体の学びとなるように、社会の変化や子どもたちに応じた教育活動・学習を展開していく。

5 学校の経営方針

(1) 【目指す子どもの姿】

- ①自分で決めることの自由や楽しさを知り、主体的に学ぶ子ども 〈主体的な学び〉
- ②思いやりの心を持ち、他者と協働し、互いに認め合える子ども 〈協働的な学び〉
- ③常によりよいもの、新しいものを求めて粘り強く根気強く取り組み、生み出していく子ども 〈探究的な学び〉

(2) 【具体的な取組の方針】

- ①何事にも失敗を恐れず挑戦する心情の育成
- ②お互いに信じ合い、共感し、認め合う集団づくり
- ③変化をしようとする精神の育成
- ④専門性を存分に発揮する職員の育成
- ⑤児童理解と授業力の向上のための積極的な研修

6 年度の重点目標

(1) 自分で決める

- ①自らの問いを大切にし、進んで追求する。
- ②根拠を大切に、自ら判断する。
- ③得意なこと、好きなことを自ら伸ばす。

(2) 人を大切にする

- ①相手のことを認め、共感する。
- ②自分や友だちのよさに気付く。
- ③自分ができることを進んで行う。

(3) 問い続ける

- ①失敗から学ぼうとする。
- ②自らの言動を振り返り自分を見つめようとする。
- ③体力や生活習慣が向上するよう工夫しようとする。

7 年度の努力事項

(1) 学力・学習意欲の向上

- ①授業において、「目標」「めあて」を的確に設定し、「まとめ」「振り返り」を確実に行う。
- ②何ができて何ができないかを認知する。
- ③得意分野の発掘と適切な評価によって個性の伸張を図る。

(2) 「生きる力」の醸成

- ①試行錯誤を繰り返し、失敗から学ぶ時間と環境を構築する。
- ②認め合う場面を設定し温かな居場所づくりに取り組む。
- ③体力の向上と健康の維持について考える学習場面を設定する。

(3) 特別支援教育の充実

- ①一人一人が認められ、個別の指導、支援を全校体制で行う。
- ②自立活動を適切かつ確実に取り組む。

(4) しばたの心継承プロジェクトの「見える化」

8 研修・研究

(1) 研究主題

一人一人が学びを実感できる授業の創造
～「対話的な学び」のある授業づくりを目指して～

(2) 研究内容

- ①単元を見通した主体的な学びを実現するための「学びのマップ（単元の流れ）」の共有
- ②「対話的な学び」のある授業づくりのための手立て
- ③新発田市授業スタンダードを踏まえた授業の定着



紫雲寺小学校

住 所 新発田市稲荷岡2389番地
TEL 0254-41-2022
FAX 0254-41-2042
URL <http://shionjies.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 令和7年4月1日

(2) 教職員



校長 鈴木 真史



教頭 五十嵐 敦志

教諭	13	養護教諭	1	事務職員	1
講師	3	非常勤講師	2	用務手	1
介助員	4	SSS	1	地域Co.	2
給食運搬	1	図書館事務	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15
男	21	16	21	17	25	29	17	146
女	15	18	25	20	25	23	3	129
計	36	34	46	37	50	52	20	275

2 地域の概要

令和7年4月に、紫雲寺小学校・米子小学校・藤塚小学校が統合し、新しい紫雲寺小学校が開校した。

学区は、紫雲寺潟の干拓によって発展してきた地域で、周辺には広大な水田や、砂丘地帯に広がる畑地が多く見られる。また、松林、加治川沿いの桜並木、たくさんの野鳥が集まる「さえずりの里」、海水浴場など、自然豊かで教育的価値の高い環境が整っており、子どもたちが地域に愛着と誇りをもてる場所である。また、地域の中心部には地元企業が集積しており、地域経済を支えている。

地域の人々は、古くから受け継がれてきた伝統を大切にしながら生活しており、学校と連携した教育活動にも大きな期待を寄せている。さらに、「地域全体で子どもを育てる」という意識が根付いており、学校の教育活動にもとても協力的な地域である。

3 教育目標

学び合い 認め合い 高め合う 子ども

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

当校は、三つの小学校が統合し、新たな環境の中で学校生活がスタートした。新しい環境に不安を感じている児童も多く、子ども同士の「仲間づくり」を進めることが重要な課題である。一方で、すでに様々な事情により学校に通えていない児童も複数おり、誰一人取り残さない教育の実現が求められる。

また、言葉遣いや思い込みなどが原因でトラブルにつながる傾向も見られる。これは、相手を理解しようとする力や、自分とは異なる考えをもつ人も認めようとする力の不足が要因と考えられる。相手の思いや立場を尊重し、ともに学び合う力を育てることも課題である。

さらに、児童が三つの地域のよさに気づき、紫雲寺地区に対する愛着や誇りを持ち、自分たちのふるさとのために何かしたいという気持ちを醸成することが、地域からも期待されている。

5 学校の経営方針

次のような学校づくり、子どもの育成をめざす

【めざす学校像】

- (1) 「自己実現」の基礎を育てる学校
- (2) 子ども同士と教師とがつながる学校
- (3) 子どもが安心して生活できる学校
- (4) 授業を通して互いに学ぶ学校
- (5) 地域の宝を育てる学校

【めざす子どもの姿】

- (1) 知りたくて学びたくて挑戦する子〈知育〉
- (2) 自分もみんなも大切にする子〈徳育〉
- (3) よりよい生活をめざす子〈体育〉

6 年度の重点目標

【知育】知りたくて学びたくて挑戦する子をめざして…

- ① 主体的・対話的で深い学びのある授業
- ② 「めあて」と「振り返り」の授業構成
- ③ 学習意欲を喚起する教材提示
- ④ 見方・考え方を重点においた授業
- ⑤ 学習習慣の確立

【徳育】自分もみんなも大切にする子をめざして…

- ① キャリアパスポートの活用
- ② 人権教育、同和教育の推進
- ③ 縦割り班活動による人間関係力の向上
- ④ 保護者・地域と協働する活動
- ⑤ 言葉を大切にする気持ちの醸成

【体育】よりよい生活をめざす子をめざして…

- ① 運動目標の設定と評価
- ② 健康3原則の推奨と実践
- ③ メディアコントロールの指導と啓発
- ④ 生活時間マネジメント指導の充実
- ⑤ 生活向上重点期間の設定と評価

7 年度の努力事項

【知育：知りたくて学びたくて挑戦する子】

「授業が分かる」と答える児童の割合が80%以上。

【徳育：自分もみんなも大切にする子】

「ふわふわ言葉をかけてもらえている」と答える児童の割合が80%以上。

【体育：よりよい生活をめざす子】

「めあてをもって運動に取り組んでいる」「進んで身体を動かしている」と答える児童の割合が80%以上。健康維持に関わるめあてを立て、そのめあてが「できた」と答える児童の割合が80%以上。

8 研修・研究

学力向上にかかわる校内研修

【研究主題】

主体的・対話的で深い学びの姿を求める

【研究内容】

- (1) 児童の実態把握と人間関係づくりの実践
- (2) 学力の分析と指導方法に関する研修
- (3) 公開授業による研究推進



加治川小学校

住 所 新発田市上今泉 3 6 6 番地 1
T E L 0 2 5 4 - 3 3 - 2 4 3 5
F A X 0 2 5 4 - 3 3 - 3 9 9 9
U R L <http://kajikawa-e.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 平成 2 0 年 4 月 1 日

(2) 教職員



校長 丸山 久志



教頭 高澤 元

教諭	9	養護教諭	1	事務職員	2
講師	6	補助教員	1	SSS・非常勤講師	1
介助員	6	用務手	1	給食運搬	1
図書館事務	1	地域Co.	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	4	5	6	特	計
学級数	2	1	1	1	1	1	6	13
男	14	12	11	11	15	16	23	102
女	18	14	17	10	18	13	10	100
計	32	26	28	21	33	29	33	202

2 地域の概要

- (1) 平成17年の市町村合併前の旧加治川村の三小学校が統合し、平成20年に開校した。学区の西には加治川が流れ、東には日本最小の楕円山脈が連なる。中央を J R 羽越本線と国道 7 号が南北に通っている。
- (2) 学区西には旧中川小学校区の集落、中央には旧加治川小学校区の集落、北には旧新金塚小学校区の集落が存在する。
- (3) 地域住民の学校を愛する気持ちは強く、協力を惜しまない。学校の施設・設備や教育活動の充実に尽力してくれている。

3 教育目標

学び合い 高め合い 共に伸びる子

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- (1) 学力向上の面から
 - ・コミュニケーション能力を伸ばし、子どもが対話を通して主体的に学び、共に学び合う姿を目指す。
 - ・どの子どもにも基礎・基本を定着させ、学力を向上させる。
- (2) 豊かな心の育成の面から
 - ・自分で考えて豊かな人間関係づくりができるようになる。
 - ・自分と他者の違いを受け入れ、楽しむ心のゆとりを気付かせ、「自他尊重力」を育てていく。
- (3) 体力向上の面から
 - ・知識の活用、めあての設定により、よりよい生活習慣を身に付け、体力を向上させる。

5 学校の経営方針

【目指す学校像】

○瞳輝き 笑顔あふれる学校

新発田の教育キャッチフレーズ「ひとが第一、ひとが大事、新発田の教育」と3本柱である「しばたの心継承プロジェクト」「人権教育、同和教育」「食とみどりの新発田つ子プラン」を受け止め、これからの時代を担う人材育成という考え方の下に学校づくりを進める。

【知育】人の話を聞いて受けとめ、自分の思いや考えを伝える子

【徳育】どうすればよいかよく考え、誰もが心地よい人間関係を築く子

【体育】安全で健康な生活のための知識を活かし、自分のめあてに向かって取り組む子

6 年度の重点目標

- (1) 「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業の充実
 - ・失敗や間違いを恐れず主体的に学ぶ授業
 - ・自分と相手の考えを尊重した対話のある授業
- (2) 豊かな人間性と社会性の育成
 - ・よさや頑張りを認め、認め合い、伸ばす教育
 - ・自己有用感をもたせ、よりよい人間関係を構築する力の育成
- (3) 体力の向上と望ましい生活習慣の定着
 - ・運動の特性を味わわせる授業の工夫
 - ・家庭と連携し、望ましい生活習慣の形成
- (4) 全体の基盤となる特別支援教育・人権教育、同和教育
 - ・自他を大切にする言動の育成
 - ・教育的ニーズに合った特別支援教育の充実

7 年度の努力事項

【知育】

- ・「にいがた学びチャレンジ」の活用
- ・家庭学習強調週間の設定やカードの工夫
- ・「しばたの心継承プロジェクト」の実施
- ・発表力、表現力を育てる学習発表会の実施

【徳育】

- ・スキル教育の充実
- ・ピアサポートプログラムに基づく縦割り活動
- ・人権教育、同和教育の視点からの道徳授業公開
- ・アンケートや教育相談、情報交換会の活用

【体育】

- ・運動の楽しさを十分に味わわせる授業の工夫
- ・食と健康に関する指導の充実
- ・生活習慣改善のための事前指導の実施

8 研修・研究

(1) 研修主題

主体的に学習へ向かい、学び合う子【2年次】
～子ども同士の主体的な対話のある授業を目指して～

(2) 研修内容

子どもが習得・活用・探究という学びの過程の中で「深い学び」を実現するためには主体的に討論をしたり、他者に説明したりするようなアウトプットのある学習活動を仕組む必要がある。そこで、「子ども同士の主体的な対話のある授業」の実現のためには、どのような手立てが有効なのかについて研修を進める。



本丸中学校

住 所 新発田市緑町2丁目7番22号
T E L 0254-22-2525
F A X 0254-22-0342
U R L <https://honmaru.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和22年5月1日

(2) 教職員



校長 小野沢 謙一



教頭 菊地 清勝

教諭	35	養護教諭	1	事務職員	1
講師	2	用務手	1	補助教員	1
介助員	5	S S S	1	A L T	1
給食運搬	1	S C	1	地域Co.	1
図書館助手	1				

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	5	5	5	6	21
男	81	89	75	20	265
女	74	81	81	20	256
計	155	170	156	40	521

2 地域の概要

学区には外ヶ輪小学校、二葉小学校、東豊小学校の3小学校がある。

学校と保護者、地域等が連携・協力して子どもの健全育成を図っている。

全国で唯一の「本丸」の名称の基となる新発田城を地域のシンボルとして、平成29年度から外ヶ輪小学校児童と協力した「新発田城清掃活動」を行い、地域を愛し地域に貢献する本丸中学校を目指している。

3 教育目標

錬磨し 協調し 創造する生徒

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- (1) 自ら学びを調整し、目的意識をもって学びに向かう力
 - ①自分の目標に向かって工夫し、粘り強く目的意識をもって学ぶ意欲を評価する
 - ②他者と学び合う場面設定を意図的に設定し、学習意欲の向上と学びの深まりにつなげる
- (2) 自己肯定感を高め、互いに認め合い高め合う力
 - ①一人一人が自己肯定感を高め、互いに認め合い、高め合う共感的人間関係、心理的安全性のある集団となる
 - ②全校生徒が参画する自立的で漸進的な生徒会活動の展開を支援する
- (3) 健康でたくましく生きる力
 - ①体力づくり運動を授業に取り入れ、体力の向上を図る
 - ②食育指導や給食指導を通じてバランスの取れた食事や食の大切さを学ぶ機会を設定し、望ましい生活習慣の確立を目指す

5 学校の経営方針

「人を大切にすること、人の思いを大切にすること」を学校経営の柱とする。全教職員の力を結集し、本丸中学校がさらに発展するように学校運営にあたる。

生徒を中心に考え物事を進めることとなる。その土台には、直接生徒に寄り添い、指導・支援する教職員がいる。教職員の声も大切にしていく。

本丸中伝統の「リスペクト」とは思いやり、感謝、他者理解であり、「本丸魂」とは自信、誇り（プライド）である。つまりは「心」である。「心を磨く、心を育てる」ことが肝要である。生徒、職員、地域で思いを共有し、よりよい学校づくりを進めていく。

6 年度の重点目標

- (1) リスペクト精神で共感的な人間関係を築き、心理的安全性のある集団を育てる。
- (2) 主体的に学ぶ意欲を高めるために、個別最適な学び、協働的な学びを充実させる。
- (3) 食に関する指導とデジタルシチズンシップの取組を強化し、心も体も健康でたくましく生きる力を育てる。

7 努力事項

- (1) 新発田市授業スタンダードをふまえて、他者と学び合う活動を意図的に設定し、学習意欲の向上と学びの深まりにつなげる。
- (2) 家庭学習強調期間を設定し、生徒の目標設定、実践、振り返り、自己調整、次の目標設定へとつなげる支援を行う。
- (3) 学習の三原則の指導によって、望ましい学習規律を確立する。
- (4) 一人一人の自己肯定感、学びに向かう力、人間性を高めるウェルビーイングの向上を図り、互いに認め合い高め合う共感的人間関係、心理的安全性のある集団を育てる。
- (5) 互いを認め合う活動や話し合い活動を計画的に設定し、生徒の自治的な力を高める。
- (6) 自殺予防プログラム等を活用し、生徒の問題行動や学校生活上の諸問題の早期発見に努め、保護者の協力を得ながら、生徒自身が問題解決を図ることができるように支援する。
- (7) 生徒の自主的な活動を中心とするいじめ見逃しゼロスクールの取組を継続的に全校体制で行う。
- (8) 健全な食生活につながる食育を栄養教諭と連携しながら計画的に実践する。
- (9) 体力テストの結果から、生徒の実態を把握し、課題解決に向けて授業改善に取り組む。
- (10) 体を動かすことの楽しさを感じることができる授業づくりに努める。
- (11) 保護者、医療機関、相談機関と連携し、自立的で健康的な生活を送ることができるよう支援する。
- (12) 食、生活リズム、メディアとのより良い関わり方について、生徒会の専門委員会が主体となって取り組む。

8 研修・研究

(1) 研究主題

高い目的意識をもち、主体的・協同的に学ぶ生徒の育成 ～学校生活で「本丸魂」と「リスペクト精神」を発揮させる取組を通して～

(2) 研究内容

協働的な学びの実現のため、「学び合い」の目的を明確にするとともに、学習意欲の向上につながる「学び合い」の場面を意図的に設定する授業を実践する。また、指導と評価の一体化を意識し、単元デザインを構築し、めあてと振り返りの設定を全校体制で取り組むことで、授業の改善を図る。



第一中学校

住 所 新発田市御幸町4丁目5番25号
 TEL 0254-23-1151
 FAX 0254-24-1026
 URL <https://shibata-1.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和22年5月24日

(2) 教職員



校長 長谷川 裕高



教頭 渡邊 正則

教諭	20	養護教諭	1	事務職員	1
講師	3	補助教員	0	図書館司書	1
介助員	2	用務手	1	SSS	1
SC	1	運搬パート	1	ALT	1

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	4	3	4	3	14
男	49	39	71	8	167
女	57	45	63	6	171
計	106	84	134	14	338

2 地域の概要

本校は、新発田市の中央部に位置し、11町内からなる新旧混在している地区である。学区には御免町小学校、東豊小学校の2小学校がある。

保護者や地域の住民は、学校教育に関心が高く、協力的である。第一中学校区「未来を築く子どもを育てる会」を組織し、学校と地域が連携して児童生徒の健全育成を図っている。

3 教育目標

目標をもち
 自ら考え
 ねばり強く実践する生徒

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- (1) 知の領域
 - ① 基礎的な知識・技能が定着しているかを知る。
 - ② 自分の考えを練り直し、新たな問いをもてるような活動を今後も実践する。
- (2) 徳の領域
 - ① いじめで物事を解決することはできないという認識を醸成する。
 - ② 自分の存在を大切にし、周りに対しても感謝できる指導を継続する。
- (3) 体の領域
 - ① 総合的な体力づくりへの意欲を高める。
 - ② メディア対応力を定着させる。

5 学校の経営方針

- (1) 目指す学校像
 笑顔あふれる学校 魅力ある学校
 ～保護者・地域とともに歩む学校づくり～
- (2) 目指す授業像
 課題の発見と課題の解決に向けた「主体的・対話的で深い学び」のある授業の創造
- (3) 開かれた学校づくりの推進
- (4) 生徒と向き合うゆとりの確保
- (5) 配慮事項
 - ① 確実な組織マネジメント（PDCA）サイクルの実行による教育活動の見直し
 - ② 短期及び長期の見通しを踏まえた計画・立案・審議
 - ③ 生徒による地域貢献活動の推進

6 年度の重点目標

- (1) 知の領域
 共に学び合い、思考を深め、広げていく生徒の育成
- (2) 徳の領域
 思いやりの心と強い正義感をもち、互いに信頼し合う生徒の育成
- (3) 体の領域
 基本的な生活習慣を身に付け、進んで運動の楽しさや喜びを求める生徒の育成

7 年度の努力事項

- (1) 知の領域
 - ① 「目標」「課題」「まとめ」「振り返り」のある授業
 - ② 「思考力・判断力・表現力」を伸ばす授業
 - ③ 自ら取り組む家庭学習の工夫
- (2) 徳の領域
 - ① 「考え、議論する道徳」の実践
 - ② 全校体制で取り組むいじめ見逃しゼロ活動（人権教育、同和教育）の充実（SNS対応も含む）
 - ③ 異学年交流活動、職場体験の充実
- (3) 体の領域
 - ① 基本的な生活習慣の定着（食育も含む）
 - ② メディア接触をコントロールする力の育成
 - ③ 体育科・部活動での体力向上

8 研修・研究

- (1) 研究主題
 つながりを生かして学び合い、
 将来にわたって 学び続ける 人材の育成
 ～主体的・対話的で深い学びを通して～
- (2) 研究内容
 - ① 「深い学び」実践ポイント
 - 学ぶ意欲を引き出す課題の工夫
 - 4つの場を生かした単元構想の工夫
 - ・見通しをもつ場
 - ・考えを伝え合う場
 - ・實質・能力を活用・発揮する場
 - ・振り返りの場
 - 全体交流での教師の意図的な働きかけの工夫
 - 深める問いの設定
 - ② 「つながり」を活かした学び合いを実現するポイントを探る。



猿橋中学校

住 所 新発田市住吉町1丁目7番1号
TEL 0254-23-1175
FAX 0254-23-6185
URL <http://saruhashi-j.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和24年4月1日

(2) 教職員



校長 廣田 徳昭



教頭 高山 雄一

主幹教諭	1	教諭	38	事務職員	2
講師	2	養護教諭	1	養護助教諭	1
介助員	5	SSS	1	用務手	1
非常勤講師	1	補助教員	1	図書館事務	1

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	6	5	6	9	26
男	84	94	90	32	300
女	112	78	92	12	294
計	196	172	182	44	594

2 地域の概要

猿橋中学校は、昭和24年、新発田中学校から、分離独立して誕生した。学区は、農村地域の旧猿橋村（昭和18年新発田町に合併）を中心とし、我が村の中学校であった。開校以来、一度も校舎の移転がない。生徒は、基本的に、愛校心が強く、みんなでまとまって物事を成し遂げていくのが好きである。卒業生同士の繋がりが強い。近年、大規模商業施設が進出し、田畑の住宅化が進んでいる。昔ながらの地域に、新しさと勢いが加わり、生徒数は、下越地区最大規模となっている。学区には、隣保館があり、当校は、人権教育、同和教育においても、中核的な役割を果たしている。

3 教育目標

「正しく 強く 大らかに」

校歌にも刻まれる、開校以来の教育目標「正しく 強く 大らかに」は、いつの時代にも、社会を生きていくために重要であり、猿橋中学校が目指す姿である。

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

当校の生徒は、総じて、明るく、一生懸命である。授業や生徒会活動、部活動、学校行事をはじめ、これらの長所が発揮されてきている。教職員の前向きな姿勢、そして、保護者・地域の方々の大きな支援と期待は、その大きな要因となっている。教職員の前向きさ、チームワークは、猿橋中学校の大きな長所であり、「明るく、前向きに、丁寧」に、「生徒一人一人を大切に」をスローガンに、丁寧で温かい教育を進めたい。そして、猿中生の長所を大切に伸ばしていきたい。

一方、課題である自信、主体性は、徐々にではあるが育ってきている。生徒一人一人を認め、伸ばしていくことで、生徒に自信を付けさせたい。授業や特別活動で、「教師企画・生徒実行→教師支援・生徒企画・実行」の場面を増やし、主体性を伸ばしたい。また、人間関係によるトラブルやいじめ、不登校の防止、また、将来も見据え、人間関係づくり能力の育成を図りたい。

5 学校の経営方針

生徒、教職員ともに前向きに挑戦を続けることにより、生徒、教職員一人一人の可能性を引き出し伸ばすことにより、そして、学校全体がまとまって同じ方向に向かうことにより、猿橋中学校をさらに前進させていきたい。「猿橋中学校の生徒でよかった」、「猿橋中学校に入学させてよかった」、「猿橋中学校の教職員でよかった」と思える、生徒も教職員も伸びていく、温かさとしつこさのある学校を目指したい。

6 年度の重点目標

「実践力の育成（2年目）」 変化の激しい社会をたくましく生き抜くためには、「実践力」がより求められていく。「実践力」とは、学習指導要領の趣旨も踏まえ「主体的・協働的に課題を解決していく力」と捉える。目標達成のための方策を「自分の意見や考えをもち、伝え合い、深めていくコミュニケーション能力の育成」とする。「自分の意見や考えをもち、それらを発表し、伝え合い、深めていくコミュニケーション能力」を、授業や道徳、特別活動など様々な活動で総合的に高めることにより「実践力」の育成を図る。

7 年度の努力事項

【5つの柱】

- 1 授業
学校・学習の大黒柱。
「学びの共同体」の推進、改善。
- 2 学年・学級
学校生活の基盤。
認め合う温かい学級・学年。生徒とともに。
- 3 生徒会
自主性・協働性伸ばす。
教師作成 生徒実行→ 生徒作成・実行 教師支援
- 4 部活動
ガイドラインの確実な実施と地域移行への準備。
ルールとマナーを徹底する。
- 5 家庭・地域・小学校との連携
学校と家庭・地域・小学校は共同体。

【伝統校への思い・期待】

「人権教育、同和教育」の推進、「特別支援教育の充実」、アントレプレナーシップの視点の意識化を継続する。今年度は学校評議員会をSCA（猿橋中学校区・コミュニケーション・アソシエーション）として取り組む。

8 研修・研究

(1) 研究主題

『互恵的に学び、共に成長できる生徒の育成』

(2) 研究内容

- ① 学びの基礎力の育成
ア 「よい姿勢」で「聞く力」を学びの基礎と位置付け、主体的学びを支える
イ 基礎学力の習得と学習意欲の喚起、学習の振り返り
- ② 学習形態の工夫
ア 新しい生活様式に配慮しつつペアや少人数グループでの学習活動の導入
イ 対話の中身を重視した日頃の指導
- ③ 全員が学習に参加するための基礎づくり
ア 学習の見通しをもたせる工夫
（「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」のカード）
イ ユニバーサルデザインの推進によるシンプル化
ウ まなボードやICT機器の活用
エ 「学習三原則」と「た・い・わ」の継続指導



東中学校

住 所 新発田市五十公野 4 9 8 1 番地
T E L 0 2 5 4 - 2 2 - 3 8 2 4
F A X 0 2 5 4 - 2 6 - 3 5 4 3
U R L <http://higashi.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和 4 7 年 4 月 1 日

(2) 教職員



校長 今野 由紀子



教頭 長谷川 直紀

教諭	17	養護教諭	1	事務職員	1
講師・助教諭	2	補助教員	1	A L T	1
介助員	2	用務手	1	S C	1
図書館支援員	1	給食運搬	1	地域Co.	2

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	2	2	3	3	10
男	31	26	41	7	105
女	29	35	32	5	101
計	60	61	73	12	206

2 地域の概要

当校は、新発田市の南東部に位置し、学区は北西から南東にかけて18.5km、北から西10km、総面積213.59平方kmと広大な地域を有する。

東に二王子・五頭・飯豊の連峰を望み、加治川や荒川沿いに平地が開ける。従来から稲作と畑作等の農業が盛んである。

学区には、松浦地区、五十公野地区、米倉地区、赤谷地区の4地区がある。平成30年度に各地区の小学校が統合し、東小学校が発足した。

学区にはスポーツ施設や公園などがあり、学校周辺は緑豊かな環境である。

3 教育目標

「進んではげむ 心ゆたかな生徒」

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

当校は、生徒指導に課題を抱えている時期があり、学力不振が大きな課題であったが、社会性の育成に取り組み、現在ほどの学年も落ち着いた学校生活が実現できている。

また、不登校等への対応として、校内教育支援センターを設置し、生徒の居場所づくりや、家庭と学校、医療、行政等機関と連携改善につとめ、成果があった。

そのような中、昨年度の職員研修で「関わり合う力」「認め合う力」の育成が当校の最重要課題であるという共通認識に至った。ここ数年は人間関係づくりの希薄さから、生徒指導上の問題が発生していることも踏まえ、今年度は、すべての教育活動を通して、「関わり、認め合う」ことのできる生徒を育成していく。

そのために、今ある様々な活動の骨格は変えずに、教師の構えとして、「①関わる場」「②主体は子ども」「③信じて委ねる」「④価値づける」「⑤振り返り」の循環を大切に、全ての教育活動を行っていく。

5 学校の経営方針

「子どもが主役の学校」

- (1) 子どもが笑顔で安心してのびのびと自分の力を発揮できる学校
- (2) 関わり認め合う中で、子どもが「幸せ」を感じる学校
- (3) 子どもたちのことを思い、全力で子どもを支える教職員集団
- (4) 保護者が地域とともに、子どもが育つことに喜びを感じる学校

6 年度の重点目標

<「関わり 認め合う」生徒の育成>

- (1) 確かな学力の育成
思考し問い続ける生徒の育成
- (2) 豊かな心の育成
指示的風土の醸成を通して、認め合う生徒の育成
- (3) 健康な心身の育成
たくましい心と体の育成

7 年度の努力事項

- (1) 確かな学力の育成
 - ①「深い学びの技法」を基に授業改善を図り、相互の考えを認め、考えを深める生徒を育成する。
 - ②学習ログを蓄積し、「次への問い」を見出す振り返りを行う授業を展開する。
 - ③探究のサイクルを重視したアントレプレナーシップ教育を推進する。
- (2) 豊かな心の育成
 - ①生徒同士が関わり合う場や、生徒が活躍する場を設定し、「価値づけ」「振り返り」を行うことで、生徒の主体的な活動の創造を支援する。
 - ②生徒相互による「認め合い」の活動を通じて、自己理解や他者理解を深めさせ、親和的な風土の醸成を図る。
 - ③「生きるIV」を中核に据え、すべての教育活動で、「かかわる同和教育」を実践する。
- (3) 健康な心身の育成
 - ①体育等で、他と関わり合いながら運動に親しみ、体力の向上を目指す生徒を育成する。
 - ②「食とみどりの新発田っ子プラン」を活用し、食育を推進する。
 - ③メディアコントロール、眠育に関する学習を実施する。

8 研修・研究

- (1) 研究主題
「深い学びにいたる授業」
- (2) 研究内容
「思考し問い続ける生徒の育成」を目指した授業改善
- (3) 具体的実践事項
 - ①一人一実践による授業改善
 - ・「深い学びの技法」を取り入れた授業を計画する。
 - ・主体的に取り組むこと、他と共に学び合うことを意識した手立てを講じる。
 - ②単元のねらいに沿った「本質的な問い」の設定
 - ・単元の始めと終わりに実施し、自分がどのように変容したのか、メタ認知する機会を設ける。
 - ③「学習ログ」の蓄積と活用
 - ・学習内容の蓄積と活用するために、授業の「振り返り」の位置づけを明確にする。



川東中学校

住 所 新発田市下羽津1566番地1
T E L 0254-25-2011
F A X 0254-25-2022
U R L <https://kawahigashi-j.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和22年5月1日

(2) 教職員



校長 若月 隆雄



教頭 八木 克洋

教諭	8	養護教諭	1	事務職員	1
講師	1	図書館事務	1	A L T	1
介助員	0	用務手	1	S C	1

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	1	1	1	1	4
男	10	17	7	2	36
女	7	14	13	1	35
計	17	31	20	3	71

2 地域の概要

市域の東端に位置し、加治川右岸から二王子西麓までの広大な田園地帯に点在する25集落から成り、大部分の生徒が自転車で通学している。

平成26年度から川東小学校・竹俣小学校・車野小学校が統合し、新たに川東小学校が新設され、中学校区の小学校設置数は1校となった。

保護者のほとんどが昔からこの地に住居を構えて生活している。三世代家庭が多く、地域への愛着は強い。教育に対する考え方は多様化しており、学校への期待は大きい。そのニーズを把握することが難しくなっている。

近年、生徒数が減少の一途を辿っており、「教育村」と称されてきた川東地区にも、将来に向け、新しい教育課題が生じてきている。

3 教育目標

正しく 強く 心豊かに

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

(1) 「知の分野」

素直で何事にも真面目に取り組む生徒が多いが受動的である。

- ①探求的な意欲や態度を育てる。
- ②自主的な学習態度や学習習慣を育てる。

(2) 「徳の分野」

一小一中のため人間関係が狭く固定化しており、自分の能力を十分に発揮できないところがある。

- ①自己肯定感を高めながら、お互いを尊重し切磋琢磨する人間関係を築く。
- ②夢や目標に向かって努力し続ける心を育てる。

(3) 「体の分野」

体力テストで持久力が県平均より劣っている。栄養バランスを考えて食事する生徒の割合が若干下がっている。

- ①体力テストの目標設定と振り返りを年に2回実施する。
- ②栄養バランスを考えた食事、アウトメディアを考えた生活など、家庭と連携して生活習慣を向上させる。

5 学校の経営方針

(1) 育てたい生徒像

- ①かかわり合って学び合い、主体的・意欲的に学習に取り組む生徒
- ②自他のよさを認め合い、勇気をもって挑戦する生徒
- ③心身ともに健康で「心を豊かにする活動」を日常実践できる生徒

【心を豊かにする活動4項目】

- ア 元気はつらつ挨拶・返事
- イ 学舎（まなびや）に感謝する清掃
- ウ 食の恵みに感謝する給食
- エ 「川中大好き」校歌斉唱

(2) 経営の重点

- ①カリキュラム・マネジメントに基づく指導計画を作成・実施し、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。
- ②知識・技能の確かな習得を基盤に、自らの考えをもち、互いに高め合う生徒を育成する。
- ③ストレス・マネジメントを教育活動に取り入れ、知・徳・体のバランスのよい成長を図る。
- ④生徒が前面に出る活動を推進する。
- ⑤家庭や地域との連携強化を図る。
- ⑥地域コミュニティの中核としての学校づくりを促進する。

6 年度の重点目標

- (1) 「知の分野」：各教科の本質に沿った「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、思考力、判断力、表現力等の育成を図る教育の推進
- (2) 「徳の分野」：命を大切に、豊かな心を育てる教育の推進
- (3) 「体の分野」：たくましく生きる力を育む健康体力の向上を図る教育の推進

7 年度の努力事項

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした「学び合い」を取り入れた授業改善を進める。
- (2) 主体的に家庭学習に取り組む生徒を育てる。
- (3) 全教育活動をストレス・マネジメントの視点で捉え、自他のよさを知り、許し励まし合い高め合い、可能性に挑戦する実践力を育てる。
- (4) 生徒の人権を尊重し、よさを認め勇気付けるアプローチを繰り返し、自尊感情を高める。
- (5) 情報発信の充実を図る。
- (6) 「二王子会」組織を機能させ、小中特別支援学校の連携を強化する。

8 研修・研究

(1) 研究主題

かかわり合って、主体的に学ぶ生徒の育成
～UDLを基盤とした、対話のある学び～

(2) 研究内容

- ①単元や題材ごとのガイダンスを丁寧に行い、教員と生徒が学びの方向を共有した授業を展開する。
⇒「ガイダンス用の資料作成」
- ②新発田市授業スタンダードをもとにした「川中UDL」を意識した授業を展開する。
⇒学期ごとの自己チェックで授業の振り返りを行う。
ア 授業の目標と流れの提示
イ 生徒が追究したくなる課題の提示や発問の工夫
ウ 1時間の学習内容が分かる板書
エ 本時のまとめやポイントの明示
オ 本時の振り返りの時間の確保
- ③単元の指導計画・評価計画を整備し、指導と評価の一体化を図る。
⇒計画と実際の指導の結果を資料として蓄積し、よりよい授業の在り方を確立していく。



七葉中学校

住 所 新発田市上館乙84番地2
TEL 0254-22-3524
FAX 0254-26-3621
URL <https://nanaha-j.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和55年4月1日

(2) 教職員



校長 藤原 靖也



教頭 山田絵美子

教諭	10	養護教諭	1	事務職員	1
講師	1	補助教員	1	介助員	1
用務手	1	図書館事務	1	非常勤講師	1
SC	1	栄養教諭・給食運搬	2	ALT	1

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	1	2	2	2	7
男	14	28	20	7	69
女	16	13	22	1	52
計	30	41	42	8	121

2 地域の概要

学区は、新発田市の北東に位置し、要害山と加治川に囲まれた自然豊かな地域である。また、学区は国道7号線が通っていることから住宅地の開発も進んでいる。加治川、坂井川沿いに、菅谷・熊出地区から上館・三日市地区までと広大である。コミュニティバスを利用し、通学している生徒もいる。

3 教育目標

「磨け自己 高めよ理想」

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

(1) 知の領域

課題解決しようとする粘り強さが不十分である。主体的な態度を育むとともに、自ら問いをもちその解決に向けて粘り強く取り組んでいく生徒を育成する。

(2) 徳の領域

集団生活のきまりやマナーを遵守して生活している。グループ活動や生徒会等の様々な活動に協働して取り組むことができる。

一方、自分の良さに自信をもつ生徒は増えていくが、主体性が不十分であったり、不登校傾向を示す生徒の割合も多い。これからも、自他の良さに気づき、より良い生き方を主体的に考えていく生徒を育成する。

(3) 体の領域

メディアの利用に伴い、生活習慣を見直す必要がある。タイムマネジメント力、生活習慣の向上を目指して、家庭との連携を進めていく。

5 学校の経営方針

(1) 目指す生徒の姿

自他の良さに気づき、主体的に取り組む生徒

(2) 経営の理念

意図的に生徒間の人間関係を育む活動を年間計画に位置付け、取り組むことで生徒の「自己肯定感」「自己有用感」を高め、学校生活に主体的に取り組む生徒の育成を目指す。

(3) 基本方針

- 生徒が安心・安全に学べる学校実現のために、全教職員が協力して学校を運営する。
- 保護者・地域から信頼される、協力してもらえる、温かい学校にする。

6 年度の重点目標

(1) 【知】知識・技能を習得し活用しながら粘り強く課題に取り組む生徒

- ① 研究主題をもとに「深い学び」の授業に迫る実践研究
- ② タブレット等のICTを活用した授業改善の推進

(2) 【徳】共に認め合い、自分の生き方を考える生徒

- ① 考えや思いを深める道徳授業実践
- ② 「思いやり・協力・感謝」に基づいた生徒が主体となる特別活動の推進

(3) 【体】健康・体力の向上に努める生徒

- ① 体力テストの結果を基に、目標達成に向けた体力向上プログラムの作成と実施
- ② 健康チェックカードを利用した健康教育の実施

7 年度の努力事項

(1) より良い生き方を追求するキャリア教育の取組
地域を活用した体験活動により、役割や生き方を考えるキャリア教育を推進する。

(2) 「全校体制での特別支援教育」の取組
生徒や保護者と相談し、合理的配慮の下で、指導・支援内容を確認する。

(3) 人権尊重の心を育てる人権教育、同和教育の取組
同和教育を中核とした人権教育に取り組み、かわる同和教育を行う。

(4) 学習指導要領の趣旨に基づいた教育課程の編成
教育計画の実践を通して、研修会等で教育課程の評価・改善を推進する。

(5) 開かれた学校づくりの取組
ランドデザイン・いじめ予防の取組等を保護者に説明する。

8 研修・研究

(1) 研究主題

主体的に生きる生徒の育成（3年次）
～対話を充実させることで、学びの深まりを実感できる生徒を目指して～

(2) 研究内容

- ① 生徒が自ら問いをもとに課題を設定し、その解決を図る手立ての工夫
- ② 3つの対話（自己・他者・教材）の循環
「目指す生徒の姿」を具体的に設定し、全教員が研究主題に沿って授業し、授業改善に取り組む。
- ③ 「新発田市授業スタンダード」「七葉中授業スタンダード」を基にした授業
「めあて」「課題」「まとめ」を板書し、授業や単元の最後に「振り返り」を位置付ける。



佐々木中学校

住 所 新発田市則清102
 TEL 0254-27-2505
 FAX 0254-27-2229
 URL <http://sasaki-j.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和22年5月17日

(2) 教職員



校長 森田 華菜子



教頭 小出 祐一

教諭	7	養護教諭	1	事務職員	1
教諭(兼務)	2	常勤講師	0	非常勤講師	0
補助教員	0	介助員	0	用務手	1
図書館事務	1	A L T	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	1	1	1	1	4
男	8	12	2	2	24
女	12	8	12	0	32
計	20	20	14	2	56

2 地域の概要

純農村地域で、佐々木村として、早くから一小一中で学校を設置していた。

学校は、大型商業施設などが立ち並ぶ新発田市の新興住宅地の近くに位置しているが、市内の他の中学校との交流は比較的少ない。

少人数であるため、保護者は学校行事やPTA活動に大変協力的である。また、佐々木中学校体育文化後援会、佐々木中学校同窓会、さわやか佐々木っ子育成会、自治会を中心としたコミュニティー等、学校をサポートする組織も整っている。

3 教育目標

よく考え、進んで実践する生徒

4 学校の課題(伸ばしたいところ)

○知の分野

・生徒の学習意欲。生徒を中心に据えた授業を目指し、個別最適な学びと協働的な学びが一体的に実現されるよう、授業改善に取り組む。

○徳の分野

・生徒の自己肯定感。自分の良さに気付かず、自信がもてない面がある。不登校傾向の生徒も複数おり、自尊感情を育みながら活動に見通しをもたせ取り組ませていく。
 ・明るい挨拶。呼びかけや小中連携を通じてより良い佐々木中学校区を目指す。

○体の分野

・運動習慣の確立。相対的に中学生に必要な量の運動が出来ていない生徒が約半数いるため、週に1度、全校でトレーニングを行う時間を設定し、運動への意識付けを図る。

5 学校の経営方針

○地域の特色を最大限に生かし、地域とともに歩む信頼される学校。

・誰もが安全に生活、安心して学習ができ、居心地の良い生徒の可能性や良さを伸ばせる学校。
 ・教職員が生き生きと活動し、やりがいをもって働ける学校。

○主体性と協働性を身に付け、最後までやりぬく生徒。

・主体的・協働的な学習態度で、確かな学力を身に付けている生徒。
 ・運動を好み、望ましい生活習慣が身に付いている生徒。
 ・いじめをしない、許さない、自分と他の人(の命)を大切にしようとする生徒。

○学校の目標を共有し、協働して課題解決に取り組める教師。

・生徒の心に寄り添い、成長を願い自己研鑽に励む教師。
 ・自らの人権感覚を磨き、生徒や職員一人一人を大事にする教師。
 ・地域とかかわり、地域や保護者の方に丁寧に対応する教師。

6 年度の重点目標

○自分を大切に、他との関わりの中で、互いに高め合う生徒の育成

～豊かな体験活動と話し合い活動を通して～
 ・目的を共有し、見通しをもち粘り強く課題に取り組む生徒を育成する。
 ・認め合い、協力し合い、高め合える生徒を育成する。
 ・心身ともに健康でたくましい生徒を育成する。
 ・新発田や佐々木地区を知り、誇りに思う生徒を育成する。
 ・いじめ、差別や偏見を許さない、人の心の痛みが分かる生徒を育成する。

7 年度の努力事項

○「新発田市授業スタンダード」を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、更なる授業改善に取り組む。

○率先垂範に基づいた指導。教師自身が人権感覚を高め、人の心の痛みが分かり、差別や偏見を許さない態度を育成する授業づくり。

○教職員が一体となった学校運営。

○地域の教育力の活用と地域交流や地域貢献。

○実効性のある学校評価と情報発信の充実。

8 研修・研究

○研究主題

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による主体的・対話的で深い学びの実現
 ～ICTの活用を通して～

○研究内容

公開する単元を決め、単元の構想をイメージするとともに、以下をポイントに、ICTの活用方法、授業構想を考えて指導案を作成し、一人一実践で授業を公開する。

・紙媒体よりも学習効果が期待できる場面の設定
 ・生徒個別での活用(思考ツール、記録、検索等)
 ・生徒間での活用(共有、交流、発表等)



豊浦中学校

住 所 新発田市乙次50番地
TEL 0254-24-4492
FAX 0254-24-4450
URL <https://toyoura.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和50年4月1日

(2) 教職員



校長 笹木 綾子



教頭 清野 正康

教諭	15	養護教諭	1	事務職員	1
講師	1	補助教員	0	非常勤講師	2
介助員	0	用務手	1	調理手	0
A L T	1	S C	1	図書館支援員	1
臨時栄養士	0				

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	2	2	2	2	8
男	22	25	23	5	75
女	24	28	29	1	82
計	46	53	52	6	157

2 地域の概要

- 校区の面積の半分以上が田畑という穀倉地帯であり、東に真木山、西に福島潟を臨む美しく雄大な自然の中に位置している。
- 校区には月岡温泉があり、近年の交通網の整備と相まって観光地としても発展している。
- 保護者・地域の学校への期待は大きく、協力的である。

3 教育目標

言葉と心のキャッチボール
～Let's play catch
with our words and hearts.～

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 難しいことでも失敗を恐れないで挑戦したり、家庭学習などで自己の学習を調整したりすることに課題がある。また、他者とのかわりに課題を抱える生徒も見られる。
- 夢や希望をもち、目標に向かって粘り強く挑戦し続ける態度を育成したい。
 - 様々な人と協働しながら、自ら考え判断し、進んで行動できる力を高めたい。
 - 自他を尊重し、時と場に応じた礼儀正しい言動がとれる思いやりの心を育みたい。

5 学校の経営方針

「子どもと真ん中」
一人一人に寄り添い 一人一人を大切に

- 子どもの笑顔と感動があふれる、安全・安心な学校
- 学校・家庭・地域が連携し、「生きる力」を育む学校
- 保護者や地域から親しまれ信頼される、地域とともにある学校

6 年度の重点目標

- (1) 確かな学力の育成（知）
- (2) 豊かな心の育成（徳）
- (3) 健康な心身の育成（体）

7 年度の努力事項

- (1) （知）の努力事項
 - 困難な課題等にも挑戦し続け、粘り強く自ら課題を解決していく実行力を高めるとともに自分の学びをより豊かに広げ、更新し続ける主体的な態度を育成する。
 - ・生徒が「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を実感する授業の実践
 - ・ICTの効果的な活用
 - ・総合的な学習の時間、キャリア教育の充実・工夫
- (2) （徳）の努力事項
 - 人権感覚を高め、差別や偏見を許さない生き方を求め続ける。自他の大切さを認め合いながら、自己肯定感や自己有用感を高める。
 - ・道徳教育、人権教育、同和教育・特別活動等の授業や体験的な学びの充実・工夫
- (3) （体）の努力事項
 - 自分の健康や心身の課題に向き合い、改善しようと行動する力を高める。
 - よりよい食や生活の習慣を身に付け、生涯にわたって健康な生活を営む力を育む。
 - ・生活習慣チェックウィークの取組の工夫

8 研修・研究

- (1) 研究主題

かわり合い、表現することで学びを深める生徒～自ら問いを見つけ交流しあうことで学びを積み上げ、発展させていく授業の工夫～
- (2) 研究内容
 - ① 生徒が主体的に学びを進めるための課題提示を工夫した授業づくりの推進
 - ② 互いの考えを尊重しながら新たな視点を得るためのかわりあう場面の工夫



紫雲寺中学校

住 所 新発田市真野原外3499番地
TEL 0254-41-4000
FAX 0254-41-2235
URL <http://shiunjihs.shibata.ed.jp>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和22年5月29日

(2) 教職員



校長 五十嵐めぐみ



教頭 青山 亮

教諭	15	養護教諭	1	栄養教諭	1
事務職員	1	非常勤講師	1	補助教員	1
用務手	1	介助員	1		
図書館支援員	1	給食運搬パート	1		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	2	2	2	2	8
男	21	27	30	10	88
女	23	28	23	0	74
計	44	55	53	10	162

2 地域の概要

- 紫雲寺地区（旧紫雲寺町）は新発田市の北西に位置し、総面積は26.58平方キロメートルで、約2,000世帯約7,000人が居住している。
- 3つの旧小学校区（紫雲寺、米子、藤塚）から成り立っており、地域は畑や松林に囲まれ、緑豊かな自然環境にある。
- 三世代同居が多く、生徒は家族の中で愛情を受けて育っている。

3 教育目標

『知性・自主・実践・協調』

知性を磨き、自主自立の精神を高め、たくましい実践力を養い、協力して社会の発展に貢献する人間を育成する。

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 多様な他者とのかかわり
 - 自尊感情の中でも特に「自己有用感」を重視することで、自ら学ぶ意欲や課題をよりよく解決しようとする意欲を高める。
 - 様々なかかわりの中でコミュニケーション能力を高め、「誰かの役に立つ」経験をとおして、自己有用感を高める。
 - 互いのよさを認め合い、協働して困難を乗り越えることで、たくましさを育てる。
- 人権感覚、自己指導能力
 - 人権感覚を磨き、自分も他人も大切にする気持ちをはぐくむ。
 - 自己決定を重視し、自分の言動に責任をもてる「自己指導能力」を育てる。

5 学校の経営方針

『個のよさを生かす活力ある学校』

- 違いを認め合い、ともに育ち合う学校
- 失敗を糧に成長し、自信と意欲を高める学校
- かかわりをとおして、自己有用感を高める学校
 - ※ 学校は失敗をし、失敗から学び、たくましく成長する場
- 失敗をしても、恥をかいでも大丈夫という安心感を大切にする。（心理的安全性の確保）
- 生徒同士、生徒－職員間の信頼感を大切にする。（教育は信頼の上に成り立つ）

6 年度の重点目標

- 人権感覚・望ましい社会性（自己有用感、他者と協力して課題解決する力）の育成
- 確かな学力（思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性）の育成

7 年度の努力事項

- 「分かった！できた！」を実感し、自ら進んで学ぶ生徒の育成
 - 「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を実感できる授業づくり
 - 家庭学習習慣確立に向けた取組
- 互いに認め合い、高め合う生徒の育成
 - 支え合いながら活動し、認め合う場の設定
 - 「考え、議論する」道徳の実践
 - 人権教育、同和教育の充実
- 主体的に健康づくりに取り組み、生活リズムを整えた生活ができる生徒の育成
 - メディア利用時間を1日2時間以内とする取組
 - 「早寝・早起き・朝ご飯」啓発活動
- 全校体制でかかわる特別支援教育
 - ～一人一人を大切にする教育～

8 研修・研究

- 研究主題
 - 「分かった！できた！」を実感し、自ら進んで学ぶ生徒の育成」
 - ～生徒が主体性を獲得し、発揮する場面づくりを通して～
- 研究内容
 - 新発田市授業スタンダードの徹底
 - ア 「めあて」と「振り返り」、「課題」と「まとめ」を明確にした授業づくり
 - 単元（題材）計画をもとにした指導
 - ア 単元（題材）オリエンテーションでの計画と目標の共有
 - イ 単元（題材）内で、生徒の主体性を引き出し発揮させる場面の設定単元（題材）の振り返りの充実（学習内容と学習方法）
 - ウ テスト（小テスト、単元テスト、定期テスト）の計画的な実施
 - エ 指導と評価の一体化
 - 教科部での密な情報交換
 - ア 単元（題材）計画、指導方法の共有
 - イ 教科経営についての日常的な情報交換
 - 家庭学習定着確立に向けた取組
 - ア 授業とリンクさせた家庭学習課題の提示
 - イ 学習タイムを活用した学習計画の指導と意欲を高める見とりの工夫



加治川中学校

住 所 新発田市川口330番地
TEL 0254-33-2214
FAX 0254-33-3354
URL <https://kajikawa-j.shibata.ed.jp/>

1 学校の概要

(1) 創立 昭和55年4月1日

(2) 教職員



校長 堀田 正秀



教頭 廣澤 正文

教諭	11	養護教諭	1	事務職員	1
助教諭	0	講師	1	補助教員	1
介助員	1	用務手	2		

(3) 学級編制

学年	1	2	3	特	計
学級数	2	2	2	2	8
男	23	22	21	5	71
女	16	27	23	3	69
計	39	49	44	8	140

2 地域の概要

- 新発田市街と胎内市街の中間に位置し、JR羽越線と国道7号線が加治川地域の中央部を南北に縦断し、日本海沿岸東北自動車道も整備されている。
- 純農村地域ではあるが、兼業農家の増加、振興住宅地の人口増により変化が起きている。児童・生徒数はわずかに減少傾向にある。
- 生徒のしつけや社会的ルール等、全般的に家庭の教育力が高い。地域をあげて教育に対する期待も大きく、健全育成に協力する姿勢がある。

3 教育目標

豊かな知性を育て きびしく自己をきたえ 高め合う生徒

4 学校の課題（伸ばしたいところ）

- 確かな学力の向上
・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を推進するために、「かかわり合い」を大切にし、一人も独りにしない「ケアの関係」を大切にした授業や「わかる」「できる」を実感できる授業づくり
- 社会性や人間関係力の育成
・望ましい人間関係の構築に向け、相手の気持ちを受入れるとともに、自己を大事にした「互いの良さを認め合う心」の意識の醸成
- 将来の生き方を真剣に考えることができる資質・能力の育成
・自己実現のためのキャリア教育や「考え、議論する道徳」授業、いじめ予防、人権教育・同和教育
- たくましく生きるための健康や体力、望ましい生活習慣の形成
・家庭学習の習慣化や質の向上、食と生活の充実に向けた取組

5 学校の経営方針

- 「かかわり合い」を大切に生徒指導と学習指導による、いじめの起きにくい学校づくり
- 授業の充実：全校体制で、「かかわり合い」を取り入れた授業を行い、学び合う授業を展開し、一人一人に学びに向かう力を引き出していく。また、個々の「わかる」「できる」を大事にした指導と評価を進めていく。
 - 家庭学習の習慣化：中学校区、家庭が連携し、「家庭学習の習慣化」に取り組む。学校評価等で分析し生徒や保護者にフィードバックする。
 - 生徒会活動の充実：「生徒が生徒に働きかける教育効果」を最大限生かす。生徒が「自信の付く事実」を積み上げることで、自己肯定感を育み、次へのエネルギーと生き抜く力を高める。

6 年度の重点目標

「かかわり合い」を大切に心の教育を目指す学校づくり

教育目標の実現にむけて、重点目標である「かかわり合い」を大切にしながら、教育活動全体を通して「心の育成（徳育）」を図る。当校で言う「心」とは、具体的に「正義（差別、いじめを許さない）の心」「思いやりの心」「あきらめない心」「感謝の心」「素直な心」の5つの心をさし、すべての教育活動において、その育成に取り組む。

今年度は、年間を5つの教育期に分けて、目標や目的を明確にししながら、教育活動を進めていく。また、生徒会活動とタイアップしながら、子どもたちの成長を促し、教育活動に取り組んでいく。

7 年度の努力事項

- 確かな学力の育成
・「自ら学び、考えを深め合う生徒の育成」を目指した協働的な学びの充実
- 豊かな心を育む教育活動の推進
・年間35時間の「考え、議論する道徳」授業の充実
・生徒が生徒に働きかける生徒会活動や自治活動の充実
・道徳を中心に「励ます個人内評価」の取組
- 健やかな心身の育成
・「家庭学習の習慣化」の取組
・食の生活習慣の向上に向けた取組
- しばたの心継承プロジェクトの推進
・生き方授業を通じたキャリア教育の充実
・農家訪問、職業体験、上級学校訪問等の実施

8 研修・研究

- 研究主題
自ら学び、考えを深め合う生徒の育成
～協働的な学びをより充実させるための工夫～
- 研究内容
・思考力・判断力・表現力を育成する授業実践
・話し合いや教え合いの場面の効果的設定
・授業のまとめや振り返りの充実
・「自ら考える時間」や「考えを発表する時間」などの確保
・自主性、学習に向かう態度の育成
・生徒にとって「つまづき」のある課題の設定
・終会時にプランニングタイムを設定し、家庭学習の充実
・個別の家庭学習状況の把握と支援

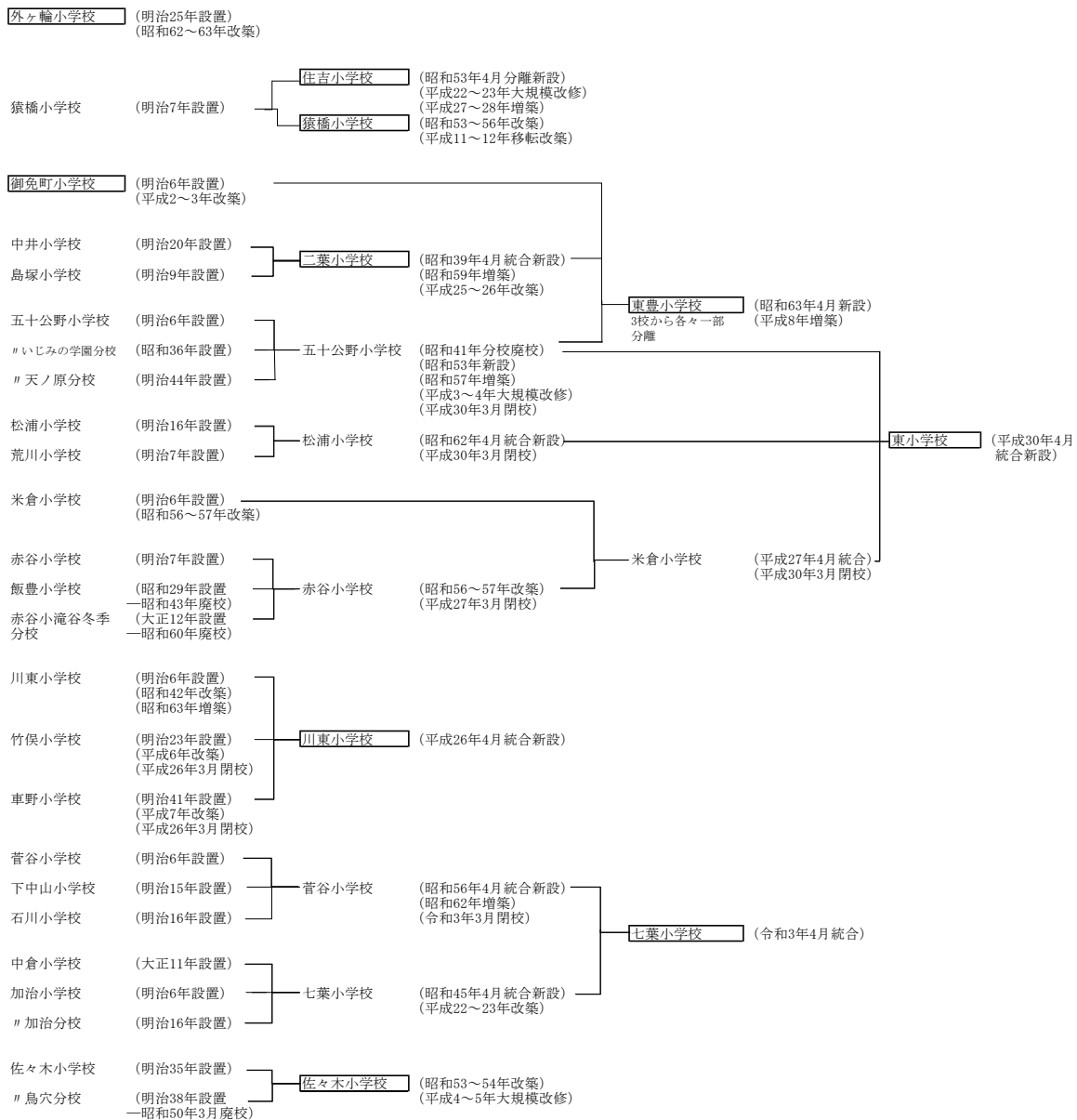
8 市立学校の統廃合、新設、分離の状況

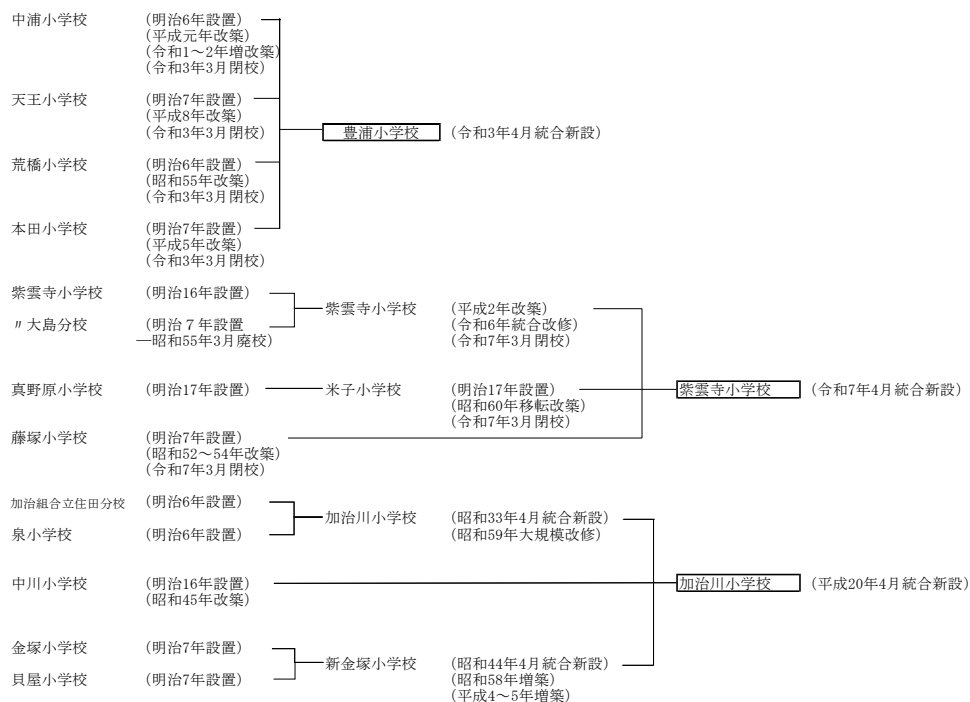
※学校沿革史に基づくもの

【幼稚園】

新発田幼稚園	大正8年設置 (昭和44～45年改築) (平成23年3月閉園)
西園幼稚園	(昭和40年設置) (平成17年移転改築) (令和2年3月閉園)
御免町幼稚園	(昭和42年設置) (平成11年移転改築)
加治川幼稚園	(昭和44年4月設置) (令和3年3月閉園)

【小学校】





【中学校】



9 市立教育施設の状況

(令和7年5月1日現在)

	校 舎				屋内体育館				校地面積			プール施設	
	鉄筋 コンクリート	鉄骨 その他	木造	計 (㎡)	鉄筋 コンクリート	鉄骨 その他	木造	計 (㎡)	市有地	借地	計 (㎡)	設置年度	規模 (㎡)
(1) 幼 稚 園													
御免町幼稚園		1,368		1,368					3,000		3,000		
合 計	0	1,368	0	1,368	0	0	0	0	3,000	0	3,000		
(2) 小 学 校													
外ヶ輪小学校	6,129		20	6,149	278	1,404		1,682	28,672		28,672	平成元年度	375
猿橋小学校	6,942	51		6,993	1	1,699		1,700	30,712		30,712	平成12年度	375
御免町小学校	5,575	119	30	5,724	222	1,542		1,764	26,551		26,551	平成3年度	375
二葉小学校	5,281		54	5,335	22	1,142		1,164	25,092		25,092	平成27年度	325
東小学校	5,784			5,784	59	723		782	18,115		18,115	平成30年度	325
川東小学校	3,487			3,487		964		964	16,945		16,945	平成26年度	325
七葉小学校	4,660	8		4,668	150	648		798	16,172		16,172	平成16年度	325
佐々木小学校	3,269	5	35	3,309		704		704	18,262		18,262	昭和44年度	325
住吉小学校	5,626	39		5,665	147	857		1,004	23,014		23,014	昭和52～53年度	325
東豊小学校	5,395		20	5,415	35	1,428		1,463	26,988		26,988	昭和63年度	325
豊浦小学校	3,735		19	3,754	21	825		846	22,947		22,947	平成9年度	335
紫雲寺小学校	4,532		33	4,565	112	1,124		1,236	24,260		24,260	昭和50年度	500
加治川小学校	4,885		136	5,021	230	1,040		1,270	33,769		33,769	平成20年度	325
合 計	65,300	222	347	65,869	1,277	14,100	0	15,377	311,499	0	311,499		4,560
(3) 中 学 校													
本丸中学校	7,485		23	7,508		1,543		1,543	37,925		37,925		
第一中学校	5,489		45	5,534	263	1,332		1,595	35,245		35,245		
猿橋中学校	6,042		10	6,052	28	2,198		2,226	33,675		33,675		
東中学校	4,756	103		4,859		1,539	26	1,565	38,108		38,108		
川東中学校	2,926	41	20	2,987		1,191		1,191	22,032		22,032		
七葉中学校	3,464	14	28	3,506	11	1,448		1,459	31,762		31,762		
佐々木中学校	2,808		100	2,908		810	10	820	20,591		20,591		
豊浦中学校	4,904	98	72	5,074	41	2,016		2,057	33,096		33,096		
紫雲寺中学校	3,915		66	3,981	2,007			2,007	49,336		49,336		
加治川中学校	3,947	59	20	4,026		1,687		1,687	35,196		35,196		
合 計	45,736	315	384	46,435	2,350	13,764	36	16,150	336,966	0	336,966		0
小・中学校合計	111,036	537	731	112,304	3,627	27,864	36	31,527	648,465	0	648,465		4,560

1 0 年度別義務教育施設等の整備状況

(単位：千円)

建築年度	小 学 校		中 学 校	
	事 業 名	事 業 費	事 業 名	事 業 費
令和元年度	東小学校建設事業（グラウンドⅡ期工事）	61,468	中学校エアコン整備事業	218,651
	小学校エアコン整備事業	366,513	その他中学校施設の工事	60,540
	その他小学校施設の工事	31,495		
	計	459,476	計	279,191
令和２年度	豊浦小学校増改築工事	400,207	コロナ感染症対策工事（網戸設置、蛇口レバーハンドル化）	15,957
	コロナ感染症対策工事（網戸設置、蛇口レバーハンドル化）	22,247	中学校エアコン整備工事	23,370
	小学校エアコン整備工事	33,430	中学校トイレ洋式化工事	22,220
	小学校トイレ洋式化工事	40,068	第一中学校防球ネット改修工事	3,421
	その他小学校施設の工事	21,902	その他中学校施設の工事	8,429
	計	517,854	計	73,397
令和３年度	藤塚小学校下水道接続工事	16,280	加治川中学校ランチルームエアコン取替工事	2,431
	猿橋小学校体育館防水工事	3,311	豊浦中学校テニスコート整備工事	2,475
	小学校遊具設置工事	4,912	七葉中学校多目的トイレ設置工事	3,168
	小学校特別教室エアコン整備工事	261,556	中学校特別教室エアコン整備工事	273,441
	小学校トイレ洋式化工事	130,524	中学校トイレ洋式化工事	87,121
	その他小学校施設の工事	19,165	その他中学校施設の工事	6,344
	計	435,748	計	374,980
令和４年度	体育館照明器具落下防止対策工事	129,120	猿橋中学校グラウンド整備工事	178,046
	豊浦小学校グラウンド整備工事	69,564	体育館照明器具落下防止対策工事	99,757
	吊下式バスケットボール撤去・落下防止工事	55,218	吊下式バスケットゴール撤去・落下防止工事	34,650
	紫雲寺小学校エレベーター改修工事	26,400	本丸中学校公共下水道接続工事	12,837
	二葉小学校・加治川小学校トイレ洋式化工事	2,162	加治川中学校トイレ洋式化工事	2,057
	その他小学校施設の工事	30,832	その他中学校施設の工事	35,797
	計	313,296	計	363,144
令和５年度	豊浦小学校グラウンド整備工事	85,580	川東中学校長寿命化改良工事	718,586
	電気供給設備改修工事	9,295	猿橋中学校グラウンド整備工事	126,203
	特別支援教室等増室対応工事	5,935	豊浦中学校公共下水道接続工事	35,261
	住吉小学校消火栓管漏水改修工事	4,191	電気供給設備改修工事	3,080
	体育用設備・遊具等改修工事	3,251	特別支援教室等増室対応工事	2,805
	二葉小学校・加治川小学校トイレ洋式化工事	2,519	加治川中学校トイレ洋式化工事	2,552
	その他小学校施設の工事	23,710	その他中学校施設の工事	15,907
	計	134,481	計	904,394
令和６年度	紫雲寺小学校学校統合関連工事	147,591	防犯設備設置工事	26,029
	防犯設備設置工事	28,097	エアコン修繕・更新	2,475
	特別支援教室等増室対応工事	9,327	佐々木中学校昇降口スロープ設置	297
	佐々木・御免町小学校昇降口スロープ設置	538	猿橋中学校暖房機制御システム改修	1,122
	遊具改修工事	2,409	特別支援教室等増室対応工事	4,114
	二葉小学校・加治川小学校トイレ洋式化工事	2,508	加治川中学校トイレ洋式化工事	2,563
	その他小学校施設の工事	29,041	その他中学校施設の工事	7,440
	計	219,511	計	44,040

1 1 学校給食の状況

(1) 調理場施設（令和7年4月1日現在）

調理場名	開設年月	面積 最大調理食数	給食対象校
七葉共同調理場	平成24年4月	952㎡ 900食／日	七葉小、加治川小、 七葉中、加治川中
川東共同調理場	平成11年4月	450㎡ 700食／日	川東小、川東中、 新潟県立新発田竹俣特別支援学校
五十公野共同調理場	平成28年8月	1,326㎡ 1,000食／日	東小、東中、豊浦中、 新潟県立新発田竹俣特別支援学校いじみの校
北共同調理場	平成10年4月	1,304㎡ 2,500食／日	外ヶ輪小、二葉小、東豊小、豊浦小、 本丸中、第一中
紫雲寺共同調理場	平成23年8月	1,005㎡ 800食／日	紫雲寺小 紫雲寺中
西共同調理場	平成18年4月	1,864㎡ 2,800食／日	猿橋小、御免町小、佐々木小、住吉小、 猿橋中、佐々木中、御免町幼稚園

(2) 調理業務等の民間委託状況（令和7年4月1日現在）

調理場名	業務内容	受託業者
七葉共同調理場	配送	(株)大通、(有)小柳
川東共同調理場	配送	(株)大通
五十公野共同調理場	調理	葉隠勇進(株)
	配送	(有)小柳、(株)大通
北共同調理場	調理	葉隠勇進(株)
	配送	(株)大通、新発田運輸(株)
紫雲寺共同調理場	調理及び配送	特定非営利活動法人ネットワークこころ
西共同調理場	調理	(株)メフオス
	配送	(株)大通

(3) 各調理場の食数と給食業務従事職員の配置状況（令和7年4月1日現在）（単位：人）

調理場名	食数	調理手			事務 パート	運搬 パート	代替 パート	栄養教諭等 ※2
		正規	臨時	パート				
七葉共同調理場	785	7		6		3	5	1
川東共同調理場	382	4	1	3		1	2	1
五十公野共同調理場	847			※1		2		1
北共同調理場	2,603			※1	1	6		2
紫雲寺共同調理場	495			※1		2		1
西共同調理場	2,651			※1	1	4		2
合計	7,763	11	1	9	2	18	7	8

※1 五十公野、北、紫雲寺、西共同調理場は調理業務を民間事業者に委託

※2 栄養教諭は県職員

(4) 学校給食費の状況

区分	学校数	一食単価	年間給食平均回数				年間給食費 (一人当たり平均)
			米飯 給食	パン 給食	麺 給食	計	
小学校	13校	332円	154	18	18	190	63,080円
中学校	10校	400円	154	18	18	190	76,000円
計	23校	—	—	—	—	—	

(5) 学校給食における地場産農産物使用割合（令和6年度4月～12月実績）（単位：％）

		市内産	県内産	国内産	外国産	合計
品 目ベース		36.3	19.6	42.9	1.3	100.0
	穀類	74.3	21.5	0.0	4.2	100.0
	野菜類	29.5	15.4	54.8	0.3	100.0
	芋類	26.1	2.8	71.1	0.0	100.0
	きのこ類	8.9	91.1	0.0	0.0	100.0
	果物類	88.2	0.0	11.8	0.0	100.0
	豆腐類	89.7	0.0	0.0	10.3	100.0
	肉類	15.4	49.5	35.1	0.0	100.0
	その他	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
使用量ベース		46.2	13.4	38.3	2.0	100.0
金 額ベース		40.1	22.9	34.2	2.8	100.0

12 園児・児童・生徒・学級数等一覽

(幼 稚 園)

(令和7年5月1日現在)

区分 園名		3 歳 児				4 歳 児				5 歳 児				合 計			
		男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数
御免町幼稚園		募集停止															
											2	1	3	1	2	1	3

(小 学 校)

(令和7年5月1日現在)

区分 学校名	1 年				2 年				3 年				4 年				5 年				6 年				合 計			
	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数
外ヶ輪小学校	7	1	8		6	3	9		5	1	6		1	2	3		5	2	7		4	3	7		28	12	40	8
	13	22	35	2	14	13	27	1	23	24	47	2	29	28	57	2	18	19	37	2	31	25	56	2	128	131	259	11
猿橋小学校	8	1	9		13		13		12	3	15		1	1	2		16	1	17		12	2	14		62	8	70	14
	47	43	90	3	37	38	75	3	35	50	85	3	35	48	83	3	38	55	93	3	44	48	92	3	236	282	518	18
御免町小学校	12	1	13		6	2	8		9	2	11		3	4	7		4	6	10		2	2	4		36	17	53	8
	22	30	52	2	38	45	83	3	32	34	66	3	37	42	79	3	33	33	66	3	32	41	73	3	194	225	419	17
二葉小学校	8		8		5	1	6		4	1	5		5	2	7		1	4	5		4	3	7		27	11	38	6
	22	28	50	2	21	21	42	2	25	23	48	2	24	29	53	2	23	19	42	2	28	24	52	2	143	144	287	12
東小学校	4	2	6		2		2		5	2	7		9		9		7	2	9		5	2	7		32	8	40	8
	17	34	51	2	19	15	34	2	18	22	40	2	19	23	42	2	20	29	49	2	31	32	63	2	124	155	279	12
川東小学校	2		2		5		5		1		1		1	1	2			1	1						9	2	11	3
	7	10	17	1	5	7	12	1	10	11	21	1	10	9	19	1	16	14	30	1	14	12	26	1	62	63	125	6
七葉小学校	1	1	2		6	1	7		4		4		4	1	5		7	2	9		2	1	3		24	6	30	5
	17	6	23	1	10	8	18	1	16	12	28	1	22	18	40	2	18	21	39	2	19	17	36	2	102	82	184	9
佐々木小学校		1	1		2		2		2		2		2		2		2	1	3			2	2		8	4	12	2
	6	11	17	1	13	7	20	1	10	5	15	1	13	7	20	1	14	9	23	1	8	5	13	1	64	44	108	6
住吉小学校	8	3	11		9	1	10		7	1	8		4	1	5		9	1	10		7	3	10		44	10	54	8
	38	37	75	3	31	36	67	3	42	32	74	3	45	42	87	3	38	41	79	3	40	53	93	3	234	241	475	18
東豊小学校	8	1	9		7	2	9		7		7		4	3	7		3	1	4		4	1	5		33	8	41	6
	42	46	88	3	43	45	88	3	36	42	78	3	44	52	96	3	44	47	91	3	35	50	85	3	244	282	526	18
豊浦小学校	5	2	7		8		8		3	5	8		10	1	11		3	2	5		2		2		31	10	41	7
	22	16	38	2	18	24	42	2	17	14	31	1	18	23	41	2	26	21	47	2	26	24	50	2	127	122	249	11
紫雲寺小学校	1		1		1	1	2		5		5		3		3		1	1	2		6	1	7		17	3	20	3
	21	15	36	2	16	18	34	2	21	25	46	2	17	20	37	2	25	25	50	2	29	23	52	2	129	126	255	12
加治川小学校	4	5	9		1	1	2		9		9		4	2	6		4	1	5		1	1	2		23	10	33	6
	14	18	32	2	12	14	26	1	11	17	28	1	11	10	21	1	15	18	33	1	16	13	29	1	79	90	169	7
合 計	68	18	86		71	12	83		73	15	88		51	18	69		62	25	87		49	21	70		374	109	483	84
	288	316	604	26	277	291	568	25	296	311	607	25	324	351	675	27	328	351	679	27	353	367	720	27	1,866	1,987	3,853	157

※ 2段書きの上段の数値は特別支援学級在籍生徒数であり、下段の数値は通常学級生徒・児童数である。

(中 学 校)

(令和7年5月1日現在)

区分 学校名	1 年				2 年				3 年				合 計			
	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数
本 丸 中 学 校	10	5	15		5	7	12		9	4	13		24	16	40	6
	81	74	155	5	90	80	170	5	71	85	156	5	242	239	481	15
第 一 中 学 校	3	2	5		1	4	5		4		4		8	6	14	3
	48	58	106	4	39	45	84	3	71	63	134	4	158	166	324	11
猿 橋 中 学 校	13	5	18		6	3	9		13	4	17		32	12	44	9
	85	111	196	6	94	78	172	5	90	92	182	6	269	281	550	17
東 中 学 校	1	1	2		4	2	6		2	2	4		7	5	12	3
	31	29	60	2	26	35	61	2	41	32	73	3	98	96	194	7
川 東 中 学 校		1	1						1	1	2		1	2	3	1
	10	7	17	1	17	14	31	1	7	13	20	1	34	34	68	3
七 葉 中 学 校	2		2		2	1	3		3		3		7	1	8	2
	14	16	30	1	28	13	41	2	20	22	42	2	62	51	113	5
佐々木中学校					2		2						2		2	1
	8	12	20	1	12	8	20	1	2	12	14	1	22	32	54	3
豊 浦 中 学 校	4		4						1	1	2		5	1	6	2
	22	25	47	2	25	28	53	2	23	29	52	2	70	82	152	6
紫雲寺中学校	2		2		4		4		4		4		10		10	2
	20	24	44	2	27	28	55	2	30	23	53	2	77	75	152	6
加 治 川 中 学 校	3	2	5		1		1		1	1	2		5	3	8	2
	23	16	39	2	22	27	49	2	21	23	44	2	66	66	132	6
合 計	38	16	54		25	17	42		38	13	51		101	46	147	31
	342	372	714	26	380	356	736	25	376	394	770	28	1,098	1,122	2,220	79

※ 2段書きの上段の数値は特別支援学級在籍生徒数であり、下段の数値は通常学級生徒・児童数である。

13 教員・児童・生徒数の推移

(単位：人、学級)

区 分		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
小学校	教員数	354	357	356	362	368	342	347	340	348	333
	児童数	4,725	4,828	4,830	4,797	4,817	4,790	4,764	4,602	4,435	4,336
	学級数	241	248	248	252	258	246	249	242	248	241
中学校	教員数	213	211	209	212	214	213	206	214	207	215
	生徒数	2,479	2,375	2,328	2,355	2,360	2,358	2,279	2,344	2,339	2,367
	学級数	105	103	105	104	108	108	104	109	105	110

※教員数は、学校基本調査に基づき当該年度の5月1日における校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、助教諭、講師、養護教諭、養護助教諭、栄養教諭の人数とし、産休、育休、休職、派遣・長期研修、組合専従者は含まない。

14 特別支援学級設置状況の推移

(単位：人、学級)

区分		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級
小学校	知的	70	15	90	19	105	23	116	26	130	27	153	26	174	31	167	28	163	32	181	29
	難聴									1	1	1	1	1	1	2	1	3	1	4	1
	肢体	1	1	1	1	1	1	3	2	3	2	7	5	7	5	7	5	8	5	4	3
	病弱					3	1	3	1	2	1	2	1	1	1			2	1	2	1
	弱視	1	1	1	1					1	1	1	1	1	1	2	1	3	1	1	1
	情緒	154	31	167	33	173	35	200	37	215	39	220	36	218	36	230	37	245	42	291	49
	小計	226	48	259	54	282	60	322	66	352	71	384	70	402	75	408	72	424	82	483	84
中学校	知的	40	10	39	11	54	13	56	11	58	12	53	11	40	9	48	11	42	10	54	12
	難聴									1	1	1	1	1	1						
	肢体					1	1	1	1	1	1	1	1							2	1
	病弱															2	1	2	1	2	1
	弱視					1	1	1	1	1	1									1	1
	情緒	60	13	60	13	65	13	64	13	63	14	73	14	64	14	80	15	77	15	88	16
	小計	100	23	99	24	121	28	122	26	124	29	128	27	105	24	130	27	121	26	147	31
合計		326	71	358	78	403	88	444	92	476	100	512	97	507	99	538	99	545	108	630	115

１５ いじめ・不登校の推移

いじめの発生件数（認知件数）の推移

年度	新発田市小学校	１校あたりの件数	新潟県小学校	１校あたりの件数	新発田市中学校	１校あたりの件数	新潟県中学校	１校あたりの件数
平成２７年度	５４件	２．５７件	１，６８５件	３．５件	６８件	６．８件	１，１３８件	４．８件
平成２８年度	３３件	１．５７件	７，８９７件	１６．８件	３９件	３．９件	１，７４６件	７．９件
平成２９年度	４７件	２．２４件	１４，８８２件	３２．４件	２７件	２．７件	２，３３９件	１０．３件
平成３０年度	８８件	４．６３件	１５，３９９件	３３．１件	４４件	４．４件	２，３４３件	９．９件
令和元年度	３０４件	１６．００件	１６，８５９件	３７．７件	１１０件	１１．０件	２，６８８件	１２．１件
令和２年度	３９２件	２０．６３件	１４，６１１件	３３．０件	９８件	９．８件	１，９６８件	８．６件
令和３年度	３６１件	２４．０７件	１７，９９７件	４０．８件	１６３件	１６．３件	２，３９３件	１０．４件
令和４年度	３９７件	２６．４７件	１６，２０３件	３６．７件	１７６件	１７．６件	２，３７２件	１０．３件
令和５年度	２０８件	１３．８７件	１６，０７９件	３６．９件	１５７件	１０．８件	２，８３８件	１２．３件
令和６年度	２４０件	１６．００件			１７５件	１７．５件		

* １校あたりの件数＝発生件数（認知件数）÷学校数 令和５年５月１日現在 新潟県の小学校数４３６校 中学校数２３０校

* 平成１８年度から文部科学省の「いじめの定義」が変わり、「発生件数」から「認知件数」に変更になった。そのため、本人の訴えがあったのものはすべて件数に含めている。

* 平成２７年度は、平成２６年の「いじめ防止対策推進法」制定の趣旨を踏まえた文部科学省通知により、より厳しく認知したため増加している。

* 令和６年度の県の件数は未発表

不登校児童生徒数の推移

年度	新発田市小学校	発生率	新潟県小学校	発生率	新発田市中学校	発生率	新潟県中学校	発生率
平成２７年度	１１名	０.２２%	４５６名	０.４０%	６８名	２.５９%	１，６１４名	２.６７%
平成２８年度	１８名	０.３５%	４７３名	０.４３%	７８名	３.１５%	１，６９６名	２.８８%
平成２９年度	１５名	０.３１%	５６０名	０.５１%	７４名	３.１２%	１，７５９名	３.０４%
平成３０年度	２２名	０.４５%	７０１名	０.６４%	８１名	３.４８%	１，９３５名	３.３８%
令和元年度	２３名	０.４７%	７７７名	０.７２%	８２名	３.４８%	２，００３名	３.５５%
令和２年度	３９名	０.８１%	９６９名	０.９３%	８０名	３.３９%	２，１４３名	３.９９%
令和３年度	５１名	１.０８%	１，１９５名	１.１５%	１０８名	４.２２%	２，６５９名	４.７８%
令和４年度	５９名	１.２４%	１，６２１名	１.５８%	１４０名	６.１４%	３，１３８名	５.７５%
令和５年度	８１名	１.７５%	２，０４６名	２.０５%	１８５名	７.８９%	３，５７１名	６.５９%
令和６年度	８９名	２.０１%			２０３名	８.６８%		

* 発生率（欠席３０日以上）＝不登校児童生徒数÷在籍児童生徒数×１００

* 令和６年度の県の件数は未発表

1 6 社会教育関係施設一覧

施 設 名	所 在 地	電 話
住吉教育集会所	住吉町2-3-30	26-5984
紫雲寺漁村民俗資料館	藤塚浜3585-110	22-9534 (文化行政課文化行政係)
加治川展示室	下小中山1107	26-2163 (文化行政課埋蔵文化財係)
市立中央図書館	諏訪町1-2-12 (新発田駅前複合施設イクネスしばた内)	22-2418
市立歴史図書館	中央町4-11-27	24-2100
新発田地区公民館 (生涯学習センター)	中央町5-8-47	22-8516
五十公野分館 (五十公野コミュニティセンター)	五十公野4930-1	26-8139
松浦分館 (松浦農村環境改善センター)	法正橋676	26-3392
米倉分館 (米倉農村環境改善センター)	米倉1419	28-5204
赤谷分館	上赤谷2689	28-2341
川東分館 (川東コミュニティセンター)	下羽津1908	25-2025
菅谷分館 (菅谷コミュニティセンター)	菅谷3350	29-2002
加治分館 (七葉コミュニティセンター)	三日市862	24-0778
佐々木分館 (佐々木コミュニティセンター)	則清956-1	27-6627
青少年宿泊施設 (あかたにの家)	上赤谷2173	28-2116
豊浦地区公民館	乙次26-2	22-2081
紫雲寺地区公民館	稲荷岡2371	41-2291
加治川地区公民館	住田501	33-2433
中川分館	押廻1447	22-0657
生涯学習センター (新発田地区公民館)	中央町5-8-47	26-7191
市民文化会館	中央町4-11-7	26-1576
青少年健全育成センター 児童センター	緑町2-6-36	26-0897

1 7 指定文化財一覧

令和7年5月1日現在

区分	番号	種別	名 称	員 数	指定年月日	所 在 地	所有者(管理者)	備 考
国	うち重要文化財	1	建 新発田城表門・旧二の丸隅櫓附 表門板札、隅櫓棟札	2棟	昭和32年6月18日	大手町6	文部科学省 (新発田市)	表門享保17年 (1732) 隅櫓寛文8年 (1668)
		2	建 旧新発田藩足軽長屋	1棟	昭和44年12月18日	諏訪町3	(一財) 北方文化博物館	天保13年 (1842)
		3	考 新潟県村尻遺跡出土品	土偶形容器 1点 土器14点 骨垂飾2点 附石片1点	平成25年6月19日	新潟県立歴史博物館 (長岡市関原町1)	新発田市 (新潟県立歴史博物館)	弥生前期～中期
		4	史 奥山荘城館遺跡 金山城跡	4遺跡	平成6年3月30日	金山	個人、国、新潟県、 新発田市	鎌倉期～室町期
		5	名 旧新発田藩下屋敷 (清水谷御殿) 庭園および五十公野御茶屋庭園		平成15年8月27日	大栄町7 五十公野	(一財) 北方文化博物館、 新発田市・豊田神社	下屋敷寛文6年 (1666) 庭園文化11年 (1814)
		6	天 椋平サクラ樹林	1,000本以上	昭和9年1月22日	貝屋	国 (農林水産省)	
		7	天 ヤマネ		昭和50年6月26日			
		8	天 ヒシクイ		昭和46年6月28日			
		9	天 マガン		昭和46年6月28日			
		10	特天 カモシカ		昭和30年2月15日	飯豊山地		
県	1	建	市島家住宅	12棟1構	昭和37年3月29日	天王	新発田市	江戸末期～明治期
	2	彫	木造薬師如来立像	1軀	昭和33年3月5日	西名柄	龍藏寺	鎌倉前期
	3	彫	木造地藏菩薩立像 附 地藏尊縁起1巻	1軀	平成28年3月25日	諏訪町2	宝光寺	鎌倉期
	4	古	市島家文書	16,528点	昭和47年3月28日	新潟県立文書館 (新潟市中央区女池南)	新発田市	近世
	5	古	正保越後国絵図 (元禄年間写) 附 古絵図3舗	1舗	平成8年3月29日	中央町4	市立歴史図書館	江戸中期
	6	古	新発田藩資料	5,848点	令和3年3月26日	中央町4	新発田市	江戸期
	7	考	大沢経塚出土品	一括	昭和56年3月27日	小舟町2	大沢区ほか5区 (市教育委員会)	平安後期
	8	考	鉦鼓	1口	昭和57年3月26日	福島	個人	鎌倉後期 (正和元年)
	9	考	山草荷遺跡出土品	45点	令和3年3月26日	小舟町2	新発田市	弥生中期
	10	歴	旧新発田町上水道敷設関係資料	一括48点	平成15年3月28日	下内竹	新発田市	近現代 (明治末期 ～昭和中期)
	11	風慣	ショウキ祭り (浦の正貴祭り)		平成17年3月25日	浦	力行講社講中	明治後期
	12	天	貝屋のお葉附イチョウ樹	2本	昭和31年3月23日	貝屋	個人	
市	1	建	宝光寺山門 附 棟札、山門絵図	1棟	昭和50年8月1日	諏訪町2	宝光寺	弘化2年 (1845)
	2	建	旧新発田藩石黒家住宅	1棟	平成11年8月4日	大栄町7	(一財) 北方文化博物館	江戸後期
	3	建	紫雲閣 (旧白勢家観音堂)	1棟	平成23年12月7日	中央町1	個人	明治35年 (1902)
	4	建	宝光寺経藏	1棟	平成27年4月3日	諏訪町2	宝光寺	江戸期
	5	建	菅谷寺本堂及び山門 附 本堂棟札、山門棟札、山門版木	本堂1棟 山門1棟 本堂棟札2枚 山門棟札2枚 山門版木1枚	平成27年4月3日	菅谷	菅谷寺	江戸期
	6	建	間藤家住宅 主屋及び土蔵並びに門小屋 附 主屋棟札及び土蔵棟札	主屋1棟 土蔵1棟 門小屋1棟 主屋棟札1枚 土蔵棟札1枚	平成28年4月5日	古田	個人	江戸末期、明治期
	7	絵	新発田藩歴代藩主肖像画	13幅	昭和49年3月15日	諏訪町2、 中央町2	宝光寺、 託明寺	江戸期
	8	絵	陣立図屏風	1双	昭和52年4月9日	中央町4	市立歴史図書館	江戸期
	9	彫	木造阿弥陀如来立像	1軀	昭和52年4月9日	諏訪町2	宝光寺	鎌倉期
	10	彫	木造十一面観音坐像	1軀	昭和57年7月8日	下中	若宮八幡宮	鎌倉期
	11	工	銅製孔雀文磬	1面	平成6年1月5日	岡田	法音寺	鎌倉期
	12	工	諏訪神社神輿	2基	平成29年5月2日	諏訪町2	諏訪神社	江戸期・明治期

区分	番号	種別	名 称	員 数	指定年月日	所 在 地	所有者(管理者)	備 考
市	13	古	聿修碑	1基	昭和49年11年13日	上赤谷	上赤谷区	宝永7年 (1710)
	14	古	竹前家文書	21点	平成17年5月1日	米子	個人	江戸中期
	15	古	神田家文書	11点	平成17年5月1日	大中島	個人	江戸中期～後期
	16	古	宮川家文書	13点	平成17年5月1日	中央町4	個人	江戸中期～後期
	17	古	伊藤家文書	11点	平成17年5月1日	住田	個人	江戸期
	18	古	世臣譜及び続世臣譜	28点	令和6年7月2日	中央町(市立歴史図書館)	新発田市教育委員会	江戸期
	19	考	板山中野遺跡出土品	5個	昭和49年3月15日	下小中山、 住吉町1	市教育委員会	縄文後期
	20	考	蔵光十二林遺跡出土品	3個	昭和55年3月27日	蔵光	個人	縄文後期
	21	考	法音寺大日堂五輪塔	1基	昭和63年2月24日	岡田	法音寺	鎌倉末期
	22	考	蚤取橋遺跡出土古墳時代木製品	7点	平成22年12月2日	下小中山	市教育委員会	古墳後期
	23	考	宝積寺館跡出土墨書板碑	1点	平成22年12月2日	住吉町1	市教育委員会	室町期～戦国期 (16世紀中頃)
	24	歴	菅谷寺算額	1面	昭和50年3月31日	菅谷	菅谷寺	享和元年 (1801)
	25	歴	白勢検校遺品	5点	昭和51年3月23日	諏訪町3	個人	江戸後期
	26	歴	新発田藩学資料	3, 250点	昭和51年3月23日	中央町4	市立歴史図書館	江戸期
				6点	追加昭和52年4月9日	中央町4	市立歴史図書館	
				2点	追加昭和52年4月9日	中央町4	豊田神社	
	27	歴	丹羽伯弘資料	214点	昭和52年4月9日	中央町4	市立歴史図書館	江戸後期
	28	歴	藤戸神社算額	1面	昭和54年2月7日	大栄町7	藤戸神社 (「一財」北方文化博物館)	明治33年 (1900)
	29	歴	上館八幡宮算額	1面	昭和55年3月27日	上館	八幡宮	文政12年 (1829)
	30	歴	丸田正通和算資料	115点	昭和56年3月25日	中央町4	市立歴史図書館	江戸後期
	31	歴	新発田藩版の版木	1, 192枚	平成21年3月4日	諏訪町2、 中央町4	宝光寺、 市立歴史図書館	江戸期
	32	歴	奉先堂扁額	1面	平成22年12月2日	中央町4	豊田神社	江戸期
	33	歴	新発田藩主溝口家花押印、印章 及び丹羽長重印章	30顆	平成22年12月2日	中央町4、 五十公野	豊田神社	江戸期
	34	歴	赤徳四十七士木像及び長徳寺義士 堂附「義士堂」扁額、天井書画、堀 部安兵衛銅像、「萬山不重」額	47軀 1棟	平成26年1月8日	大栄町2	武庸会、長徳寺	赤徳四十七士木像 明治以前 長徳寺義士堂 昭和4年
	35	歴	五十公野館跡出土 観音立像	1体	平成31年3月5日	小舟町2	新発田市	中世
	36	有民	しばた台輪 附 額面纏、纏、幣束	台輪6基 額面纏など10点 纏1点	昭和47年6月1日 追加平成3年4月3日 追加平成22年3月3日	諏訪町1、御幸町1、大栄町 2、大栄町7、諏訪町1	上町町内会、下町町内 会、四之町町内会、三 之町町内会、両町町内 会、泉組台輪保存会	江戸期
	37	有民	職人町額面纏	1点	平成3年4月3日	御幸町1	職人町町内会	江戸期
	38	無民	職人町獅子舞		平成12年8月17日	御幸町1	職人町獅子保存会	享保17年 (1732)
	39	無民	稲荷岡神楽		平成17年5月1日	稲荷岡地区	稲荷岡神楽保存会	
	40	無民	五ヶ字神楽		平成17年5月1日	五ヶ字地区	五ヶ字神楽連	
	41	無民	下小中山獅子舞		平成17年5月1日	下小中山	下小中山獅子組	
	42	史	旧会津街道一里塚	1基	昭和48年1月19日	上赤谷	市教育委員会	江戸期
	43	史	新発田城跡	1構	平成14年1月7日	大手町6	財務省、 新発田市	江戸期
	44	史	新発田藩主溝口家墓所		平成21年3月4日	諏訪町2	個人 (宝光寺)	江戸期
	45	史	加治城跡	1構	平成28年4月5日	黒岩・東宮内	新発田市他 9 名	中世
	46	史	溝口勝政墓	1基	平成22年12月2日	中央町2	個人 (託明寺)	安土桃山期
	47	天	滝沢のミズバショウ群落		平成15年7月7日	滝沢	滝沢地区	
	48	天	旧会津街道松並木	アカマツ13本	平成26年1月8日	大槻	市教育委員会	江戸期

(種別)

【特天】特別天然記念物・【建】建造物・【絵】絵画・【彫】彫刻・【工】工芸品・【古】古文書・【考】考古資料・【歴】歴史資料
【有民】有形民俗文化財・【無民】無形民俗文化財・【風慣】風俗慣習・【史】史跡・【名】名勝・【天】天然記念物

1 8 国登録文化財一覧

種別	番号	名 称	登録年月日	所 在 地	所有者(管理者)	備 考
有	1	石崎家住宅（石泉荘）離れ座敷	平成19年10月2日	諏訪町3	個人	明治38年
有	2	石崎家住宅（石泉荘）茶室	平成19年10月2日	諏訪町3	個人	明治28年
名	3	旧石崎氏庭園（石泉荘庭園）	平成23年9月21日	諏訪町3	個人	明治期
有	4	吉原写真館	平成29年10月27日	大手町2	個人	昭和11年 昭和47年増築
有	5	平久呉服店店舗兼主屋	平成29年10月27日	御幸町1	個人	昭和10年頃 昭和57年改修
有	6	長徳寺本堂	平成29年10月27日	大栄町2	長徳寺	嘉永3年（1850） 昭和59年改修
有	7	長徳寺庫裏	平成29年10月27日	大栄町2	長徳寺	明治中期
有	8	長徳寺行在所	平成29年10月27日	大栄町2	長徳寺	大正10年移築
有	9	長徳寺鐘楼	平成29年10月27日	大栄町2	長徳寺	昭和前期
有	10	長徳寺山門及び塀	平成29年10月27日	大栄町2	長徳寺	天保12年（1841）
有	11	三光寺本堂	平成29年10月27日	諏訪町2	三光寺	大正5年 平成11年改修
有	12	顕法寺本堂	平成29年10月27日	大栄町2	顕法寺	明治43年 平成15年改修
有	13	すきやき八木店舗	平成30年11月2日	中央町3	個人	昭和10年頃/昭和15年増築、 昭和49年・平成15年改修
有	14	肥田野家住宅主屋	平成30年11月2日	米倉	個人	大正10年/昭和前期・ 平成2年・同18年改修
有	15	旧村山家別邸（苔香荘苔松庵）	令和元年12月5日	中央町 1	個人	明治前期 昭和42年改修
有	16	旧武者家別邸（苔香荘武者亭）	令和元年12月5日	中央町 1	個人	明治中期/大正14年増築 平成21年移築
有	17	長願寺本堂	令和元年12月5日	下興野	長願寺	寛永3年 昭和42年改修
有	18	長谷川家住宅双子蔵	令和3年2月26日	大栄町7	個人	明治中期
有	19	蔵春閣	令和6年3月6日	諏訪町1	新発田市	明治45年/昭和33年・昭和53年・令和5年移築
有	20	杉原家住宅主屋	令和6年3月6日	上赤谷	個人	明治32年/昭和30年改修/昭和35年増築/平成30年改修
有	21	杉原家住宅土蔵	令和6年3月6日	上赤谷	個人	明治18年/昭和4年増築/平成30年改修
有	22	二王子神社本殿・幣殿及び拝殿	令和6年3月6日	田貝	二王子神社	昭和42年

（種別）

【有】登録有形文化財（建造物）・【名】登録記念物（名勝地）

1 9 社会教育施設利用状況

(1) 青少年宿泊施設「あかたにの家」

年度	利用団体数 (単位：件)			利用者数 (単位：人)		
		市内	市外		宿泊	日帰り
R2	29	27	2	700	93	607
R3	44	40	4	1,633	156	1,477
R4	52	49	3	1,593	112	1,481
R5	90	83	7	2,650	667	1,983
R6	87	78	9	2,747	864	1,883

(2) 学校開放（特別教室） (単位：人)

学 校 名	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	利用団体数	利用人数	利用団体数	利用人数	利用団体数	利用人数	利用団体数	利用人数	利用団体数	利用人数
外ヶ輪小学校	76	1,294	65	897	85	1,251	86	1,750	74	1,635
猿橋小学校	2	110	1	25	42	1,118	79	1,101	71	1,207
御免町小学校	0	0	0	0	0	0	0	0	9	415
紫雲寺中学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	78	1,404	66	922	127	2,369	165	2,851	154	3,257

2 0 文化財公開状況

(1) 新発田城（国指定重要文化財建造物・市指定史跡） (単位：人)

年度	日数	市 内	市 外	計	備 考
R1	255	6,130	47,649	53,779	4/1～11/30、3/21～31毎日公開
R2	229	4,808	27,329	32,137	4/1～4/17、5/11～11/30、3/24～31毎日公開
R3	251	5,246	31,848	37,094	4/1～11/30、3/25～31毎日公開（9/3～9/16は、建物内の公開を休止）
R4	252	6,246	40,028	46,274	4/1～11/30、3/24～31毎日公開
R5	255	6,307	46,091	52,398	4/1～11/30、3/20～31毎日公開
R6	283	6,493	51,958	58,451	4/1～12/26、3/20～31毎日公開 （※12/1～12/26映画「十一人の賊軍」公開記念のため特別公開、1/26文化財防火デーのため特別公開）

(2) 五十公野御茶屋庭園（国指定名勝） ※人数は御茶屋入館者数値 (単位：人)

年度	日数	市 内	市 外	計	備 考
R1	213	1,395	1,556	2,951	4/1から11/30まで月曜日を除く毎日公開 茶会等利用団体2件
R2	188	1,025	1,064	2,089	4/1から4/17まで、5/12から11/30まで月曜日を除く毎日公開
R3	199	709	382	1,091	4/1から9/2まで、9/17から11/30まで月曜日を除く毎日公開 茶会等利用団体1件
R4	209	1,082	275	1,357	4/1から11/30まで月曜日を除く毎日公開 茶会等利用団体5件
R5	209	736	291	1,027	4/1から11/30まで月曜日を除く毎日公開 撮影会等利用団体2件
R6	208	680	264	944	4/1から11/30まで月曜日を除く毎日公開 撮影会等利用団体5件

2 1 令和6年度図書館運営実績

1 蔵書数

(1) 図書館資料（中央図書館・分館・分室・配本所）

項目 分類			受入数		除籍数	蔵書数	構成比
			受入	(うち寄贈)			
図書受入・ 除籍及び蔵書数	0	総 記	675	389	2	20,784	6.28%
	1	哲 学	250	15	13	9,556	2.89%
	2	歴 史	765	69	145	26,941	8.14%
	3	社会科学	1,036	114	24	35,755	10.80%
	4	自然科学	586	26	37	23,388	7.07%
	5	技 術	659	52	5	22,081	6.67%
	6	産 業	263	30	1	9,483	2.87%
	7	芸 術	1,703	182	13	59,838	18.08%
	8	言 語	121	0	4	4,531	1.37%
	9	文 学	2,764	172	204	118,591	35.83%
	計		8,822	1,049	448	330,948	100%

(2) 視聴覚資料（中央図書館・分館）

① C Dほか

項目 分類		受入数		除籍数	保有数
		受入数	(うち寄贈)		
レコード		0	0	0	0
C D		84	23	5	5,840
L D		0	0	0	0
D V D		61	5	24	1,176
ビ デ オ		0	0	1	808
カセット		0	0	0	631
計		145	28	30	8,455

② マイクロフィルム

分類 項目	受入数	保有巻数	内訳
新潟日報	16	1,117	自 S53. 4. 1 ~ 至 R 7. 3. 31
新発田新聞		72	自 S 9. 2. 1 ~ 至 S15. 9. 25
新下越		1	自 S29. 3. 19 ~ 至 S29. 12. 10
週間タイムス		1	自 S25. 12. 6 ~ 至 S27. 10. 29
北新時報		1	自 S27. 11. 10 ~ 至 S27. 12. 18
計	16	1,192	

(3) 逐次刊行物及びその他資料

項目		購入	寄贈	計
新聞	日刊誌	7	3	10
	週刊誌	2	3	5
	不定期	0	3	3
雑誌		187	12	199
加除		10	0	10

(4) 商用データベース

項目	利用可能端末数
官報情報検索サービス	1
日経テレコン21	1
新潟日報記事データベースサービス	1

2 中央図書館利用状況 (開館日数300日)

(1) 利用人員数

	一般	中・高生	児童	計	一日平均
個人	84,517	1,734	8,677	94,928	316.4
団体	—	—	—	824	2.7

(2) 図書貸出冊数

	一般図書	児童図書	雑誌	計	一日平均
個人	177,192	114,782	20,208	312,182	1,040.6
団体	279	5,629	126	6,034	20.1

(3) 視聴覚資料貸出数

	L P	C D	D V D	ビデオ	カセット	計	一日平均
点数	0	9,375	5,719	135	0	15,229	50.8

(4) 新規登録人員数

	一般	中・高生	児童	計	一日平均
個人	756	56	217	1,029	3.4
団体	—	—	—	4	0.0
年度末登録者数(個人)	24,294	2,914	2,107	29,315	—
年度末登録者数(団体)	—	—	—	160	—

(5) 資料予約数

	一般図書	児童図書	雑誌	視聴覚資料	計	一日平均
個人	12,322	2,565	867	262	16,016	53.4
団体	8	74	0	—	82	0.3

3 分館等利用状況

	松浦分室		五十公野分室		川東分室		佐々木分室		豊浦分館		紫雲寺分館		加治川分館		計	
	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数	利用者	貸出冊数
児童	289	289	10	17	0	0	170	175	103	407	66	312	168	882	806	2,082
一般	3	15	316	828	104	380	5	9	869	2,156	1,053	3,092	1,574	6,143	3,924	12,623
									(2)	(14)	(6)	(14)	(36)	(385)	(44)	(413)
合計	292	304	326	845	104	380	175	184	972	2,563	1,119	3,404	1,742	7,025	4,730	14,705
									(2)	(14)	(6)	(14)	(36)	(385)	(44)	(413)

()は内数、団体利用の数

2 2 令和6年度歴史図書館運営実績

1 蔵書数

(1) 図書館資料

項目 分類			受入数		除籍数	蔵書数	構成比
			受入	(うち寄贈)			
図書受入・除籍及び蔵書数	0	総 記	227	184	0	5,888	15.58%
	1	哲 学	114	103	0	1,682	4.45%
	2	歴 史	845	671	0	15,867	41.98%
	3	社会科学	808	766	0	3,489	9.23%
	4	自然科学	77	76	0	780	2.06%
	5	技 術	24	12	0	383	1.01%
	6	産 業	33	23	0	470	1.24%
	7	芸 術	63	40	0	2,873	7.60%
	8	言 語	3	2	0	566	1.50%
	9	文 学	84	77	0	5,803	15.35%
	計		2,278	1,954	0	37,801	100%

(2) 視聴覚資料

項目 分類		受入数		除籍数	保有数
		受入数	(うち寄贈)		
レコード		0	0	0	3,138
C D		0	0	0	99
L D		0	0	0	423
DVD		2	2	0	23
その他		0	0	0	64
計		2	2	0	3,747

(3) 逐次刊行物及びその他資料

項目	購入	寄贈	計
雑誌（単位：誌）	16	0	16

(4) 商用データベース

項目	利用可能端末数
インターネット	2
古文書検索	1
にいがたMALUI連携・地域データベース	1
国立国会図書館デジタルコレクション	1
新潟日報記事データベース	1

(5) デジタルアーカイブ

項目	計
ガイドンス映像（短編「蒲原平野の開拓」「新発田城とその城下町」ほか）	5点
人物アーカイブ（堀部安兵衛、大倉喜八郎、坪川洵平、蒔谷虹児ほか）	63人
郷土資料目録16分類（郷土第1・第2、丹羽文庫ほか）	4,678点
漢籍データベース 四部分類（経部、史部、子部、集部）	1,234件
新発田藩制資料（新発田藩資料、江戸上屋敷文書、世臣譜）	6,253点
村方・町方文書（高澤家、二宮家、岩渕家、石井家）	2,662点
溝口伊織家文書	5,342点

2 歴史図書館利用状況（開館日数296日、うち閲覧室開業日数197日）

(1) 入館人数

一般	14,291人	一日平均	48.3人
----	---------	------	-------

(2) 図書資料貸出冊数

	冊数	一日平均
個人	1,980	10.0
相互貸借	23	0.1
団体	58	0.3

(3) 視聴覚資料貸出数

	件数	一日平均
点数	63	0.3

(4) 古文書等閲覧点数

	点数	延べ人数
個人	195	36

(5) 新規登録人員数

	一般	中・高生	児童	計
個人	24	0	0	24

(6) 資料予約数

	一般図書	児童図書	視聴覚資料	計
個人	46	0	0	46

2 3 公民館施設等利用状況

令和3年度中に「加治川地区公民館」移転

1 公民館等利用状況

(単位：回、人)

施設	R 2		R 3		R 4		R 5		R 6	
	回	人	回	人	回	人	回	人	回	人
豊浦地区公民館	2,128	42,966	2,271	64,125	2,153	64,452	2,096	52,342	1,824	37,110
紫雲寺地区公民館	837	8,182	909	11,179	739	12,085	656	10,354	601	11,429
加治川地区公民館	587	5,010	359	4,000	652	10,623	669	13,471	767	13,411
生涯学習センター (新発田地区公民館)	1,939	36,519	1,994	47,784	2,833	62,774	2,823	58,363	2,744	58,659

※令和2年度末で「加治川地区公民館金塚分館」を廃止

令和3年度中に「紫雲寺地区公民館西部分館・大島分館」を廃止

2 分館利用状況

(単位：回、人)

施設	R 2		R 3		R 4		R 5		R 6	
	回	人	回	人	回	人	回	人	回	人
新発田地区公民館 分館合計	4,837	45,850	4,900	62,233	4,681	58,304	6,057	62,301	6,305	63,998
五十公野分館	1,832	12,072	2,010	16,952	1,869	17,350	2,626	20,457	2,754	20,947
松浦分館	156	2,576	152	1,620	174	3,015	162	1,797	264	2,560
米倉分館	109	1,904	114	1,671	112	1,970	129	2,446	129	2,096
赤谷分館	149	1,229	117	879	170	1,394	166	1,354	167	1,316
菅谷分館	786	8,566	450	5,160	266	4,466	258	3,366	263	3,224
加治分館	921	10,590	1,060	21,514	988	15,528	1,278	16,476	1,260	16,817
佐々木分館	342	3,550	398	5,664	313	3,611	474	5,532	477	5,903
川東分館	542	5,363	599	8,773	789	10,970	964	10,873	991	11,135
紫雲寺地区公民館 分館合計	135	1,124	88	673	0	0	0	0	0	0
紫雲寺地区公民館 西部分館	13	123	10	81	—	—	—	—	—	—
紫雲寺地区公民館 大島分館	122	1,001	78	592	—	—	—	—	—	—
加治川地区公民館 分館合計	438	4,113	211	2,464	187	2,454	163	2,075	285	3,025
加治川地区公民館 中川分館	193	2,363	211	2,464	187	2,454	163	2,075	285	3,025
加治川地区公民館 金塚分館	245	1,750	—	—	—	—	—	—	—	—
全館計	8,962	107,245	10,732	192,458	11,245	210,692	12,464	198,906	12,526	187,632

2 4 地区公民館受託管理施設利用状況（体育施設）

豊浦地区公民館受託施設

（単位：人）

■真木山中央公園野球場

月	R 6 年度	R 5 年度	前年比
4	786	858	92%
5	955	798	120%
6	980	798	123%
7	1,001	822	122%
8	685	875	78%
9	644	901	71%
10	441	393	112%
11	255	422	60%
12	0	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	0	0	-
計	5,747	5,867	98%

■真木山中央公園ゲートボール場

月	R 6 年度	R 5 年度	前年比
4	90	0	-
5	132	36	367%
6	88	36	244%
7	59	66	89%
8	56	52	108%
9	63	20	315%
10	180	0	-
11	120	25	480%
12	0	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	0	0	-
計	788	235	335%

■真木山中央公園多目的練習場

月	R 6 年度	R 5 年度	前年比
4	695	675	103%
5	628	634	99%
6	653	587	111%
7	706	668	106%
8	594	515	115%
9	609	576	106%
10	649	797	81%
11	849	878	97%
12	910	924	98%
1	928	966	96%
2	893	996	90%
3	975	1,102	88%
計	9,089	9,318	98%

■豊浦総合運動施設多目的グラウンド

月	R 6 年度	R 5 年度	前年比
4	0	0	-
5	0	0	-
6	2,248	3,191	70%
7	1,177	1,308	90%
8	634	836	76%
9	416	551	75%
10	489	356	137%
11	344	0	-
12	0	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	0	0	-
計	5,308	6,242	85%

■豊浦体育センター

月	R 6 年度	R 5 年度	前年比
4	534	664	80%
5	617	535	115%
6	763	720	106%
7	554	757	73%
8	566	753	75%
9	677	721	94%
10	796	906	88%
11	981	491	200%
12	838	25	3352%
1	857	0	-
2	746	839	89%
3	926	832	111%
計	8,855	7,243	122%

■豊浦総合運動施設テニスコート

月	R 6 年度	R 5 年度	前年比
4	411	695	59%
5	520	708	73%
6	577	657	88%
7	364	484	75%
8	321	407	79%
9	352	427	82%
10	327	240	136%
11	192	211	91%
12	0	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	0	0	-
計	3,064	3,829	80%

■豊浦総合運動施設キャンプ場

月	R 6 年度	R 5 年度	前年比
4	61	63	97%
5	146	146	100%
6	126	134	94%
7	53	66	80%
8	86	42	205%
9	47	189	25%
10	99	54	183%
11	23	0	-
12	0	0	-
1	0	0	-
2	0	0	-
3	0	0	-
計	641	694	92%

紫雲寺地区公民館受託施設

■五ヶ字運動広場

月	R 6 年度	R 5 年度	前年比
4	320	297	108%
5	318	620	51%
6	273	395	69%
7	210	371	57%
8	241	133	181%
9	198	175	113%
10	1195	269	444%
11	14	173	8%
12	0	0	—
1	0	0	—
2	0	0	—
3	0	100	—
計	2,769	2,533	109%

■大島体育館

月	R 6 年度	R 5 年度	前年比
4	370	217	171%
5	324	271	120%
6	306	192	159%
7	283	353	80%
8	317	366	87%
9	424	149	285%
10	466	304	153%
11	517	465	111%
12	505	429	118%
1	485	589	82%
2	447	386	116%
3	506	402	126%
計	4,950	4,123	120%

加治川地区公民館受託施設

■加治川地区体育館

月	R 6 年度	R 5 年度	前年比
4	1,553	966	161%
5	2,007	1,800	112%
6	1,338	1,116	120%
7	1,674	1,111	151%
8	1,825	1,498	122%
9	965	1,266	76%
10	1,733	1,771	98%
11	1,439	1,466	98%
12	2,019	1,340	151%
1	1,626	1,378	118%
2	1,134	1,216	93%
3	1,822	1,423	128%
計	19,135	16,351	117%

■加治川地区屋外運動場

月	R 6 年度	R 5 年度	前年比
4	200	216	93%
5	211	129	164%
6	252	140	180%
7	184	0	—
8	106	0	—
9	463	113	410%
10	243	159	153%
11	142	34	418%
12	0	0	—
1	0	0	—
2	0	0	—
3	98	86	114%
計	1,899	877	217%

■大天城公園野球場

月	R 6 年度	R 5 年度	前年比
4	311	271	115%
5	209	277	75%
6	196	333	59%
7	211	356	59%
8	263	280	94%
9	180	235	77%
10	190	176	108%
11	219	131	167%
12	0	0	—
1	0	0	—
2	0	0	—
3	0	0	—
計	1,779	2,059	86%

■大天城公園テニスコート

月	R 6 年度	R 5 年度	前年比
4	96	43	223%
5	108	96	113%
6	76	79	96%
7	72	67	107%
8	57	75	76%
9	47	80	59%
10	54	26	208%
11	24	12	200%
12	0	0	—
1	0	0	—
2	0	0	—
3	0	0	—
計	534	478	112%

2 5 令和6年度市民文化会館事業実績

(1) 自主事業入場者数

(単位：人)

公 演 名	R2	R3	R4	R5	R6
文化創造事業	912	823	2,678	2,664	3,226
教育鑑賞事業	904	2,559	8,869	11,052	11,076
(うち小・中学校教育鑑賞事業)	中止	中止	6,659	7,126	7,103
全国「花嫁人形」合唱コンクール	中止	中止	301	546	756
	1,816	3,382	11,848	14,262	15,058

(2) 大ホール、一階ホール、各部屋の使用状況

大ホール	R2	R3	R4	R5	R6
使用日数(日)	49	93	91	82	99
使用件数(件)	121	228	352	410	241
使用可能日数(日)	254	217	326	331	325
使用日率(%)	19.29	42.86	27.91	24.77	30.76
使用件数率(%)	15.28	35.02	35.99	41.29	24.71
入場者数(人)	7,431	15,826	31,339	32,810	41,507

※使用件数率・・・使用件数÷(使用可能日数×3)×100

一階ホール	R2	R3	R4	R5	R6
使用日数(日)	44	61	141	87	103
入場者数(人)	750	1,594	3,183	3,281	4,741

		R2	R3	R4	R5	R6
練習室1	使用件数(件)	256	315	359	392	295
	使用者数(人)	1,397	1,896	2,371	2,788	2,062
練習室2	使用件数(件)	315	398	440	466	311
	使用者数(人)	2,118	2,457	2,993	3,021	2,079
練習室3	使用件数(件)	142	265	345	330	246
	使用者数(人)	1,377	2,679	3,567	3,591	3,060
講堂	使用件数(件)	235	283	416	310	260
	使用者数(人)	2,477	3,223	5,520	3,548	3,137
会議室	使用件数(件)	345	373	428	386	327
	使用者数(人)	2,253	3,019	3,049	2,905	2,610
講義室	使用件数(件)	201	271	381	336	277
	使用者数(人)	1,429	1,901	2,568	2,273	2,273
工作実習室	使用件数(件)	285	442	446	439	379
	使用者数(人)	1,608	1,961	2,659	2,512	2,202
美術実習室	使用件数(件)	233	283	309	277	234
	使用者数(人)	1,493	1,892	2,173	1,748	1,496
調理実習室	使用件数(件)	65	106	98	111	76
	使用者数(人)	220	620	672	718	513
和室1～3	使用件数(件)	1,113	1,151	1,279	1,232	1,159
	使用者数(人)	8,347	9,373	9,746	9,387	9,659
合 計	使用件数(件)	3,190	3,887	4,501	4,279	3,564
	使用者数(人)	22,719	29,021	35,318	32,491	29,091

※使用件数・・・各使用区分(午前・午後・夜間)をそれぞれ1件として算出。全日使用＝3件

※講堂・会議室・講義室・工作実習室・美術実習室・調理実習室・和室1～3は令和元年度まで中央公民館施設

2 6 青少年健全育成センター等施設一覧

施 設 名	所 在 地	電話番号
青少年健全育成センター 児童センター	緑町2-6-36	26-0897
児童運動センター「ユウネスしばた」	住吉町1-7-17	20-7392
住吉児童クラブ	住吉町5-4-25	24-5398
住吉第2児童クラブ	住吉町5-4-25	22-3860
東豊児童クラブ	東新町4-10-34	22-2376
東豊第2児童クラブ	東新町4-10-34	22-5152
こうぬま児童クラブ	緑町2-6-36	24-5783
外ヶ輪児童クラブ	中央町5-8-9	22-3310
五十公野児童クラブ	五十公野4930-1	26-8311
猿橋児童クラブ	中曽根町3-8-29	22-3314
猿橋第2児童クラブ	中曽根町3-8-29	22-5353
御免町児童クラブ	大栄町4-5-6	26-0473
御免町第2児童クラブ	大栄町4-5-33	22-3666
御免町第3児童クラブ	大栄町4-5-17	22-4811
佐々木児童クラブ	則清956-1	27-1939
七葉児童クラブ	黒岩722	29-2241
紫雲寺児童クラブ	稲荷岡2371	41-3114
加治川児童クラブ	上今泉366-1	39-6016
松浦児童クラブ	法正橋676	23-0313
豊浦児童クラブ	大伝465-2	22-2411
川東児童クラブ	下羽津1938	25-3939

2 7 青少年健全育成センター等利用状況

(1) 育成センター・児童センター・紫雲寺児童館・加治川児童館・ユウネスしばた利用状況

(単位：人)

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
センター	21,221	21,657	20,135	20,982	12,996	16,400	19,660	24,564	25,967
紫雲寺	1,333	1,525	2,875	2,251	1,429	1,116	608	—	—
加治川	2,205	1,710	1,640	1,317	556	478	633	—	—
ユウネス	—	—	—	—	—	—	—	35,512	34,951
合計	24,759	24,892	24,650	24,550	14,981	17,994	20,901	60,076	60,918

※令和4年度の紫雲寺児童館・加治川児童館は4月から12月までです。

(2) 児童クラブ登録児童数（月平均）

(単位：人)

	住吉	住吉第2	東豊	東豊第2	こうぬま	外ヶ輪	五十公野	猿橋	猿橋第2	御免町	御免町第2	御免町第3	佐々木	七葉	紫雲寺	加治川	松浦	豊浦	川東	計
R2	69	93	84	70	68	61	66	75	84	46	36	30	33	37	41	34	10	39	43	1,019
R3	71	92	74	66	81	58	67	91	75	53	36	40	38	42	45	40	5	56	43	1,073
R4	74	97	93	74	82	64	66	83	77	57	46	39	33	49	48	38	10	68	45	1,143
R5	82	113	104	78	76	85	75	87	85	68	55	39	37	53	46	38	10	78	51	1,260
R6	75	100	110	65	79	87	66	82	92	72	57	65	45	39	50	42	8	82	60	1,276

(3) 放課後子ども教室在籍児童数（月平均）（単位：人）

	二葉	菅谷	外ヶ輪	猿橋	計
R2	21	17	6	5	49
R3	23	—	7	12	42
R4	29	—	13	7	49
R5	20	—	16	10	46
R6	20	—	13	19	52

2 8 補導活動の状況

(1) 補導活動による行為別・年度別指導数

年度	指導総数 (人)	主な指導状況（人）							巡回 日数 (日)
		声かけ	ゲーム場	喫煙	服装態度	危険箇所遊び	交通ルール無視	その他	
R2	172	172	0	0	0	0	0	0	104
R3	283	275	0	0	0	3	5	0	91
R4	549	529	0	0	0	0	14	6	135
R5	207	206	0	0	0	0	1	0	144
R6	214	214	0	0	0	0	0	0	144

(2) 学校種別・年度別指導数

年度	小学校 (人)	中学校 (人)	高等学校 (人)	その他	割合（％）			
					小学校	中学校	高等学校	その他
R2	144	21	4	3	83.7	12.2	2.3	1.8
R3	197	73	13	0	69.6	25.8	4.6	0.0
R4	485	51	12	1	88.3	9.3	2.2	0.2
R5	157	35	11	4	75.8	16.9	5.3	2
R6	102	63	20	29	47.7	29.4	9.3	13.6

裏表紙／新発田市章 五階菱（溝口菱）

初代秀勝関ヶ原の合戦に徳川勢に属し大功を樹てたが、その合戦の前夜秀勝は夢をみた。それは今までの溝口家紋章ミヅナの紋に美しい後光がたなびいたのである。秀勝これを瑞兆なりとしその形に則って紋章を定めた。それが溝口菱であるといわれる。

昭和9年町制当時、溝口家に請うて溝口菱をそのまま町章とし、今日に至る。

新発田市の教育 令和7年度（2025）版

編集・発行

新発田市教育委員会

〒959-2323

新発田市乙次 281 番地 2

TEL 0254-22-9531

FAX 0254-26-3755

令和7年8月発行

